





地域医療•福祉





- 目 次-

1.	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	事業概要 「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」 の概要について・・・・	5
3.	事業実施体制	_
	事業協働機関について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	学内組織について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	
	学内組織設置要項・・・・・・・・・・・・・・ 1	
	事業組織について・・・・・・・・・・・・・・・・2	5
	事業組織設置要項・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	_
	関連会議議事要録・・・・・・・・・・・・・・・・・3	9
4.	高等教育機関及び自治体との連携協定について・・・・・・・・ 4	7
5.	キックオフシンポジウム・・・・・・・・・ 5	1
6.	教育プログラムの改善 「とくしま元気印イノベーター教育プログラム」の開発・実施・・ 7 ボランティアパスポートについて・・・・・・・・・ 9 実践力養成型インターンシップの試行準備・・・・・・・ 9 「"IPPO"一歩踏み出した学生たちによる トークライブ&ワールドカフェ」報告書・・ 9	1
7.	県内就職率向上に向けた取組 「2017とくしま就活フェスvol.2」報告書 ・・・・・・・ 11	7
8.	参加校実施事業	
	四国大学・四国大学短期大学部・・・・・・・・・・ 12	3
	徳島文理大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12	9
	徳島工業短期大学・・・・・・・・・・・・・・・ 13	1
9.	雇用創出に向けた事業「vs東京『とくしま回帰』総合戦略(抜粋)」 ・・・・・・ 13	5
10.	協働事業 e ラーニングシステム概要図・・・・・・・・・・・・ 1 6	7
11.	関連調査 「徳島大学におけるインターンシップの実態調査報告」 ・・・・・ 17	1
12.	参考 「地域教育と徳島県内就職との関連性に関する実態調査」 の調査結果の概要(IR Report No.2 (2016年3月発行))・・・ 18	9

はじめに

日本が直面する最重要課題は地方の人口減少問題の克服であり、そのためには地方に雇用を創出して地方への人の流れを作り、「東京一極集中」の是正に取り組む必要があります。地方国立大学は、地方における知の拠点として産学官の力を結集した地域の産業振興・雇用創出や、地域の高等教育機関との連携による地域が求める人材育成の中核としての使命を果たさなければなりません。

徳島大学は、平成 25 年度には「徳島大学機能強化プラン」を策定し、「地域活性化の中核的拠点」としての機能強化を大学改革の柱に据え、平成 26 年度から学内資源の再配置による全学的な改組を企画し、平成 28 年 4 月に向けて総合科学部の改組、工学部の理工学部への改組、そして生物資源産業学部の新設に取り組みました。

この大学改革を踏まえて、徳島大学は平成 27 年度、香川 征 前学長によるリーダーシップのもと徳島県と強く連携し、県内の高等教育機関、すなわち、四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学、徳島工業短期大学、阿南工業高等専門学校を参加校として、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に共同申請を行い、採択をいただきました。

この事業は、県内の主要な企業、NPO、関連団体との間で「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」を組織し、県内の高等教育機関における県内就職率を5年後に10%増加させることを目指すものです。そのために本事業では、徳島県において雇用創出と学生の就職率向上が期待できる分野、具体的には①次世代技術関連分野、②地域医療・福祉関連分野、③6次産業関連分野、④地域づくり・観光・ICT関連分野を設定した上で、その4分野に合わせた(1)徳島大学におけるインターンシップを柱とした産学官連携による教育カリキュラム改革、(2)事業協働機関による地域就職率向上に向けた協働事業、(3)徳島県の策定による「vs東京『とくしま回帰』総合戦略」による4分野での雇用創出の3つの事業に取り組むこととしました。

この事業計画の下で、平成 27 年度は徳島大学が中心となって「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」設置を手始めとして、事業推進の中心となるコーディネーターの採用、キックオフシンポジウムの開催、教育カリキュラムの整備などの事業に取り組みました。また、各参加校においても、それぞれに特色ある取り組みを開始しています。

本報告書は、本事業の概要をはじめとして平成 27 年度に行った取り組みの全てを取りまとめたものです。なお、事業の採択が年度の半ばであったこともあり、今年度の事業は、平成 28 年度の本格的な事業開始に向けた準備が中心となったことを付け加えます。

とくしま元気印イノベーション人材育成協議会会長 徳島大学長

野 地 澄 晴

事業概要

「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の概要について

本事業の目的は、地元の高等教育機関並びに自治体・企業・NPO等との間で「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会(以下「協議会」という。)を組織してインターンシップをはじめとする教育プログラム開発に協働して取り組むことを通して、地域の未来にビジョンを持ち、地域イノベーションに意欲と専門知識等を持って主体的に参画する「元気印」のイノベーション人材を育成することで、新たな就労先の開拓を含めた卒業生の県内就職率の向上を目指すことである。

そのために本事業では、地域イノベーションを通じて徳島県で新たな雇用創出と学生の就職率向上が期待される 4 分野(①次世代技術関連分野、②地域医療・福祉関連分野、③6 次産業化関連分野、④地域づくり・観光・ICT関連分野)を選定して、この 4 分野に対応した教育プログラムを学内に設けると共に、地域協働機関に設置する「教育プログラム開発委員会」にも 4 つの分科会を置いて、地域のニーズを分野ごとに把握するとともに、産学官協働の取り組みによりインターンシップ受入企業の増加と受入れノウハウの共有を進め、申請大学の教育プログラムや参加校の教育にその内容を反映させる。また、これにより、大学以外の事業協働機関による事業への満足度 100%達成に向けて努力する。

その際、インターンシップを受入機関任せにせず、事前学習からインターンシップ、そして事後の振り返りを徹底するため、課題とレポート、ディスカッションを繰り返す「寺子屋指揮指導法」(チュートリアル)を開発して導入する。この教育法の開発と普及のため、「COCプラスFD委員会」を組織し、教育プログラム担当教員のFD活動に組織的に取り組む。

また、既存のキャリア教育の中に地元で活躍する各分野のリーダーやOB・OGを講師とした、地域の将来のビジョンや地域で働くメリットを学生に伝える講座を取り入れると共に、参加する高等教育機関との間で「とくしま高等教育コンソーシアム」を組織して、同様の講座や高校生向けの講座、地元企業の合同説明会を共同開催して、地域全体で学生の地域に対する関心を高め、地域に対する誇りや将来ビジョンへの認識を豊かにして、事業協働地域全体の県内就職率向上を目指すことが本事業の目的である。

平成27年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ~地(知)の拠点COCプラス~

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム

徳島の課題

●人口減少・超高齢社会 ●若年層人口の流出 ●厳しい財政状況

徳島の可能性

材

育

成

徳島県で雇用創出と 就職率向上が 期待される4分野

- ① 次世代技術関連分野(LED・自動車・ロボット等)
- ② 地域医療・福祉関連分野
- ③6次産業化関連分野
- 4 地域づくり・観光・ICT関連分野

とくしま元気印

イノベーション人材育成協議会

徳島県内の35機関で事業協働体を組織

- ●高等教育機関[徳島大学・四国大学・四国大学短期大学部 徳島文理大学・徳島工業短期大学・阿南工業高等専門学校]
- ●徳島県●8つの地元企業
- ●3つのNPO法人 ●17の関連団体

徳島大学 教育カリキュラム改革

- 全学生が地域志向科目を受講 地域の文化や地域への理解・愛着
- ボランティアパスポートの普及 課題に挑戦する元気・覇気
- 4つの分野に対応した教育プログラムの開発
- 専門分野に必要な能力(知識・技術の向上)
- キャリア教育科目の充実
- 「徳島の将来ビジョン」「徳島で暮らすメリット」2つの確信
- 職業人意識とコミュニケーション力の育成

「COC + FD委員会 | 教育法の開発と普及

ま高等教育コンソーシアム

- e-learningによるweb配信授業の実施
- 地元で活躍するOB・OGによる合同授業
- 教育カリキュラム開発プログラムの導力

PDCAサイクルの構築

外部評価委員会

地域に対する誇りや将来ビジョンの認識

- 駅前協働キャンパス授業の開講
- 学生・父兄向け「合同就職説明会
- 「創業支援事業」
- ビジネスコンテストなどの起業支援
- 「FD地域人材育成フェスタ」
- 県内インターンシップの拡充(30%増)と
- 企業メンターの導入
- 教育プログラム開発委員会 (全機関参画)

協働事業

雇用創出に向けた事業

プログラムの政策的な支援と施策への反映

- 産学官金連携による4分野の雇用創出
 - ●「LEDバレイ構想」の推進
 - ●「とくしま『健幸』イノベーション構想」の推進
 - ●「アグリサイエンスゾーン」の構築
 - ●「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」の推進
- 若者定着促進に向けた取組
- ●地元就職促進·奨学金返還支援制度
- ●トビタテJAPAN! 地域人材コース
- 地域と連携した 教育・研究活動の実施
 - ●「地域連携フィールドワーク講座

レく東京

『とくしま回帰』 総合戦略

(平成27年7月策定)





- ・地域文化や地域への理解・愛着
- •専門分野の知識・理解
- ・課題に挑戦する元気・覇気
- ・明確な職業人意識とコミュニケーション力では信
- 地域の将来に対するビジョン



用

創

出

- ・ 先端技術開発による新領域への展開
- 多職種協働による医療・介護分野の新規雇用
- ・6次産業化キャリアアップシステム構築による イノベーション展開
- ・ICTを活用した地域づくり、観光等の新規雇用



能力

数値冒標 県内就職率を10%増

事業実施体制

事業協働機関について

地元の高等教育機関並びに自治体・企業・NPO法人等、計34機関で「とくしま元気印イノベーション人材育成協議会」を組織して、インターンシップをはじめとする教育プログラム開発に協働して取り組むことを通して、地域の未来にビジョンを持ち、地域イノベーションに意欲と専門的知識を持って取り組む「元気印」のイノベーション人材を育成し、新たな就労先の開拓を含めた卒業生の県内就職率の向上を目指す。

機関名	備考
徳島大学	会長(徳島大学長)
四国大学	
四国大学短期大学部	
徳島文理大学	
徳島工業短期大学	
阿南工業高等専門学校	
徳島県	副会長(徳島県知事)
一般社団法人 徳島経済同友会	
徳島県経営者協会	
徳島県商工会議所連合会	
徳島県商工会連合会	
徳島県中小企業団体中央会	副会長(徳島県中小企業団体中央会会長)
一般財団法人 徳島県観光協会	
全国農業協同組合連合会徳島県本部	
徳島県農業協同組合中央会	
徳島県木材協同組合連合会	
公益社団法人 徳島森林づくり推進機構	
徳島県漁業協同組合連合会	
公益社団法人 徳島県畜産協会	
一般社団法人 徳島県医師会	
一般社団法人 徳島県歯科医師会	
社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
一般社団法人 徳島県自動車整備振興会	
日本自動車販売協会連合会徳島県支部	
大塚テクノ 株式会社	
株式会社 丸本	
日本フネン 株式会社	
株式会社 テレコメディア	
社会福祉法人 健祥会	
社会医療法人 川島会	
有限会社 竹内園芸	
特定非営利活動法人 郷の元気	
特定非営利活動法人 マチトソラ	
特定非営利活動法人 グリーンバレー	

(備考) 本事業報告書作成時点においては、藤崎電機株式会社、四国化工機株式会社の2社が 新たに参画し、事業協働機関は計36機関となっている。

COCプラス推進本部事務局の整備

プログラムを全学的に推進するため、徳島大学COCプラス推進本部にCOCプラス推進本部事務局を地域創生課内に設置した。

COCプラス推進本部事務局には、COCプラス推進本部に採用するCOCプラス推進コーディネーター3名と、プログラムを所掌する地域創生課に採用する事務補佐員3名を配置し、地域創生課、学務部及び各学部学務担当部署と連携してプログラムを推進していくこととした。

COCプラス推進コーディネーターは平成28年2月にまず1名、事務補佐員は平成28年1月に1名、同年2月に2名を採用し、教育プログラム開発に関する大きな要素の一つであるインターンシップの見直しについての業務にあたらせた。

なお、COCプラス推進コーディネーターについては平成28年4月に1名、同年5月以降に更に1名を採用し、プログラムの実施体制を整えることとしている。

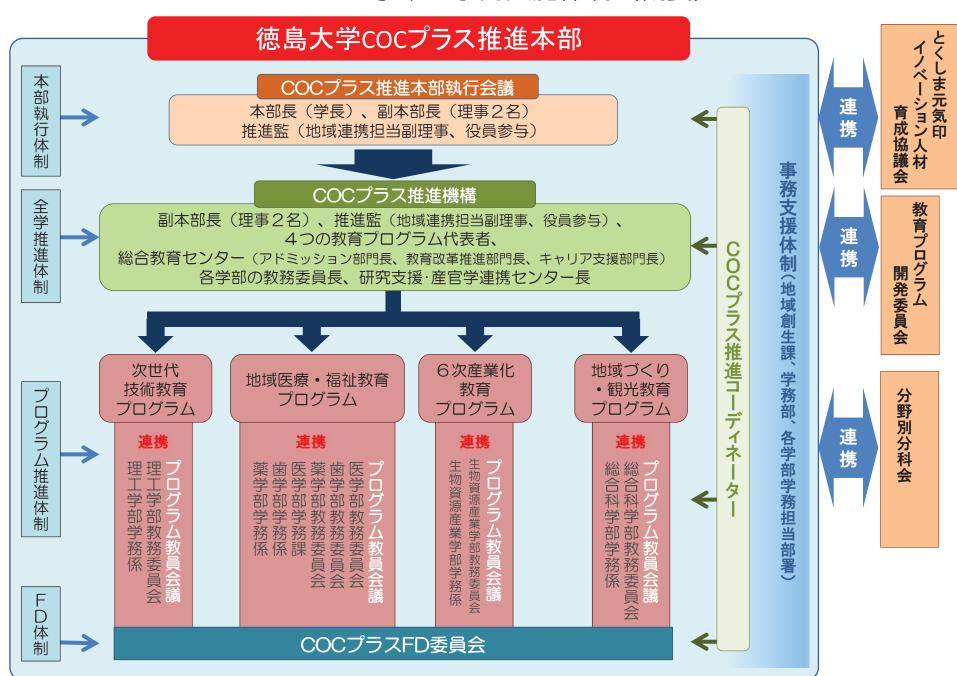
COCプラス推進本部事務局 ・ COCプラス推進本部執行会議・COCプラス推進機構・プログラム教員会議・COCプラスFD委員会 事務支援体制 事務支援体制 地域創生課 事務補佐員 3名 学務部 各学部学務担当部署

学内組織について

事業を推進するにあたり、以下の学内組織を編成した。

組織名	設置目的	構成員		
徳島大学COC	事業を推進するにあた	・ 学長(本部長)		
プラス推進本	り、プログラムの実施を	学長が指名する理事(副本部長)		
部	管理するとともに総括す	・ 地域連携担当の副理事及び役員参与(推		
	る	進監)		
		・ COCプラス推進コーディネーター		
		・その他必要な職員		
徳島大学COC	推進本部の業務に関して	・ 学長(本部長)		
プラス推進本	必要な事項を審議する	・ 学長が指名する理事(副本部長)		
部執行会議		・ 地域連携担当の副理事及び役員参与(推		
		進監)		
		・ その他執行会議が必要と認めるもの		
徳島大学COC	プログラムを全学的に推	・ 学長が指名する理事(副本部長)		
プラス推進機	進する	・ 地域連携担当の副理事及び役員参与(推		
構		進監)		
		・ COCプラスプログラム教員会議の委員		
		のうちから選出された者		
		・ 総合教育センターアドミッション部門		
		長		
		・ 総合教育センター教育改革推進部門長		
		・ 総合教育センターキャリア支援部門長		
		・ 各学部の教務委員会委員長		
		・ 研究支援・産官学連携センター長		
		・ その他推進機構が必要と認める者		
徳島大学COC	プログラムを効果的に推	・ 各分野における教育カリキュラムを構		
プラスプログ	進する(とくしま元気印	成する授業科目の担当教員		
ラム教員会議	イノベーション人材育成			
	プログラム分野ごとに設			
	置)			
徳島大学COC	プログラムによる教育の	・ 地域連携担当の副理事及び役員参与(推		
プラスFD委員	内容及び方法の改善を図	進監)		
会	る	・ 総合教育センターキャリア支援部門長		
		・ 徳島大学COCプラスプログラム教員会		
		議の委員のうちから選出されたもの		
		・ その他FD委員会が必要と認めるもの		

COCプラス事業の学内実施体制(概要)



平成27年12月15日

学長制定

(趣旨)

- 第1条 この要項は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に伴い設置する徳島大学COCプラス推進本部(以下「推進本部」という。)について、必要な事項を定めるものとする。(業務)
- 第2条 推進本部は、プログラムの実施を管理するとともに、総括する。

(職員)

- 第3条 推進本部に次の職員を置く。
 - (1) 本部長
 - (2) 副本部長
 - (3) 推進監
 - (4) COCプラス推進コーディネーター
 - (5) その他必要な職員

(本部長及び副本部長)

- 第4条 本部長は、学長をもって充てる。
- 2 本部長は、推進本部の業務を掌理する。
- 3 副本部長は、学長が指名する理事をもって充てる。
- 4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、その職務を代理する。 (推進監等)
- 第5条 推進監は、地域連携担当の副理事及び役員参与をもって充てる。
- 2 COCプラス推進コーディネーターは、次条に定める執行会議の議を経て学長が命ずる。
- 3 第3条第5号に規定するその他必要な職員は、推進本部の推薦により学長が命ずる。 (執行会議)
- 第6条 推進本部に,推進本部の業務に関して必要な事項を審議するため,推進本部に徳島大学 COCプラス推進本部執行会議を置く。
- 2 執行会議については、別に定める。

(COCプラス推進機構)

- 第7条 プログラムを全学的に推進するため、推進本部に徳島大学COCプラス推進機構を置く。
- 2 推進機構については、別に定める。

(プログラム教員会議)

- 第8条 プログラムを効果的に推進するため、推進本部に徳島大学COCプラスプログラム教員 会議を置く。
- 2 プログラム教員会議については、別に定める。

(COCプラスFD委員会)

- 第9条 プログラムによる教育の内容及び方法の改善を図るため、推進本部に徳島大学COCプラスFD委員会を置く。
- 2 FD委員会については、別に定める。

(事務支援体制)

第10条 学務部,地域創生課及び各学部の学務担当部署の職員は,プログラムを円滑かつ迅速 に進めるために,推進本部の業務を支援するものとする。

(事務)

第11条 推進本部の事務は、地域創生課及び学務部において処理する。

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか、推進本部について必要な事項は別に定める。

附則

この要項は、平成27年12月15日から実施する。

平成27年12月18日 学長制定

(趣旨)

第1条 この要項は、徳島大学COCプラス推進本部設置要項第6条第2項の規定に基づき、徳島大学COCプラス推進本部執行会議(以下「執行会議」という。)について、必要な事項を 定めるものとする。

(所掌事項)

- 第2条 執行会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム(以下「プログラム」という。)の内容及び進捗管理に関すること。
 - (2) プログラムの予算に関すること。
 - (3) COCプラス推進コーディネーターの人事に関すること。
 - (4) とくしま元気印イノベーション人材育成協議会との連携に関すること。
 - (5) その他プログラムの実施について必要な事項

(組織)

- 第3条 執行会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 本部長
 - (2) 副本部長
 - (3) 推進監
 - (4) その他執行会議が必要と認める者
- 2 前項第4号の委員は、執行会議の推薦により学長が命ずる。

(議長)

- 第4条 執行会議に議長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。
- 2 議長は、執行会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。 (会議)
- 第5条 議長は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(СОСプラス推進コーディネーター等の出席)

- 第6条 COCプラス推進コーディネーターは、会議に出席し、議長の求めにより意見を述べる ものとする。
- 2 執行会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 執行会議の庶務は、地域創生課及び学務部において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか,執行会議について必要な事項は,執行会議が別に定める。

附則

この要項は、平成27年12月18日から実施する。

平成27年12月15日

学長制定

(趣旨)

第1条 この要項は、徳島大学COCプラス推進本部設置要項第7条第2項の規定に基づき、徳島大学COCプラス推進機構(以下「推進機構」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

- 第2条 推進機構は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
 - (1) COCプラス推進本部副本部長
 - (2) COCプラス推進本部推進監
 - (3) COCプラスプログラム教員会議の委員のうちから選出された者
 - (4) 総合教育センターアドミッション部門長
 - (5) 総合教育センター教育改革推進部門長
 - (6) 総合教育センターキャリア支援部門長
 - (7) 各学部の教務委員会委員長
 - (8) 研究支援・産官学連携センター長
 - (9) その他推進機構が必要と認める者
- 2 前項第9号の構成員は、推進機構の推薦により学長が命ずる。

(機構長及び副機構長)

- 第3条 推進機構に機構長及び副機構長を置き,前条第1項第1号の構成員のうちから学長が指 名する。
- 2 機構長は、推進機構を統括する。
- 3 副機構長は、機構長を補佐する。

(機構会議)

第4条 推進機構に,推進機構の業務に関して必要な事項を審議するため,徳島大学COCプラス推進機構会議(以下「機構会議」という。)を置く。

(機構会議の所掌事項)

- 第5条 機構会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム(以下「プログラム」という。) に関する全学的な事業の推進に関すること。
 - (2) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会との連携 に関すること。
 - (3) その他プログラムの実施について必要な事項

(機構会議の組織)

第6条 機構会議は推進機構の構成員をもって組織する。

(議長)

- 第7条 機構会議に議長を置き、機構長をもって充てる。
- 2 議長は、機構会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。 (会議)
- 第8条 機構会議は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第9条 第2条第1項第3号から第8号掲げる委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(COCプラス推進コーディネーター等の出席)

- 第10条 COCプラス推進コーディネーターは、会議に出席し、議長の求めにより意見を述べるものとする。
- 2 機構会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第11条 推進機構の事務は、地域創生課及び学務部において処理する。

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか,推進機構について必要な事項は,機構長が別に定める。

附則

この要項は、平成27年12月15日から実施する。

平成27年12月15日

学長制定

(趣旨)

第1条 この要項は、徳島大学COCプラス推進本部設置要項第8条第2項の規定に基づき、徳島大学COCプラスプログラム教員会議(以下「教員会議」という。)について必要な事項を 定めるものとする。

(設置分野)

- 第2条 教員会議は、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム(以下「プログラム」 という。)による次の各号に掲げる分野ごとに設置する。
 - (1) 次世代技術関連分野(LED, 自動車, ロボット等)
 - (2) 地域医療·福祉関連分野
 - (3) 6次產業化関係分野
 - (4) 地域づくり・観光関連分野(ICT活用を含む。)

(所掌事項)

- 第3条 教員会議は、前条各号に掲げる各分野に関連する学部の教務委員会と連携し、次の各号 に掲げる事項を審議する。
 - (1) プログラムに関する教育カリキュラムの改善に関すること。
 - (2) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会分野別分 科会との連携に関すること。
 - (3) その他プログラムの実施について必要な事項

(組織)

- 第4条 教員会議は、第2条各号に掲げる各分野における教育カリキュラムを構成する授業科目 の担当教員を委員として組織する。
- 2 前項の委員は、学長が命ずる。

(議長)

- 第5条 教員会議に議長を置き、教員会議の互選により選出する。
- 2 議長は、教員会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。 (会議)
- 第6条 教員会議は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(СОСプラス推進コーディネーター等の出席)

- 第7条 COCプラス推進コーディネーターは、会議に出席し、議長の求めにより意見を述べる ものとする。
- 2 教員会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 教員会議の庶務は、第2条各号に掲げる分野に関連する学部の学務担当部署、地域創生 課及び学務部において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか, 教員会議について必要な事項は, 教員会議が別に定める。

附則

この要項は、平成27年12月15日から実施する。

平成27年12月15日

学長制定

(趣旨)

第1条 この要項は、徳島大学COCプラス推進本部設置要項第9条第2項の規定により、徳島 大学COCプラスFD委員会(以下「FD委員会」という。)について、必要な事項を定める ものとする。

(所掌事項)

- 第2条 FD委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム(以下「プログラム」という。)による地域志向科目及びインターンシップ等のファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)に関すること。
 - (2) FD地域人材育成フェスタ等のFD関連事業に関すること。
 - (3) 委員会活動の成果報告に関する事項
 - (4) その他プログラムに関する教育カリキュラムのFDに関する事項 (組織)
- 第3条 FD委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 副理事(地域連携担当)
 - (2) 役員参与(地域連携担当)
 - (3) 総合教育センターキャリア支援部門長
 - (3) COCプラスプログラム教員会議の委員のうちから選出された者
 - (4) その他FD委員会が必要と認める者
- 2 前項第4号の委員は、FD委員会の推薦により、学長が命ずる。

(委員長及び副委員長)

- 第4条 FD委員会に委員長を置き、前条第1項第2号の委員をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 FD委員会に副委員長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。 (会議)
- 第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 第3条第1項第3号の委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることが

できる。

(COCプラス推進コーディネーター等の出席)

- 第7条 COCプラス推進コーディネーターは、会議に出席し、委員長の求めにより意見を述べるものとする。
- 2 委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。 (庶務)
- 第8条 委員会の庶務は、地域創生課及び学務部において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この要項は、平成27年12月15日から実施する。

事業組織について

事業を推進するにあたり、以下の事業組織を編成した。

組織名	設置目的	構成員
とくしま元気	徳島大学COCプラス推	· 徳島大学長(会長)
印イノベーシ	進本部と連携し、徳島県	・ プログラムに参加する組織又は団体か
ョン人材育成	における雇用創出及び学	ら選出された委員
協議会	卒者の地元定着率の向上	
	を目指して、学生の県内	
	就職率向上のための教育	
	プログラム及び県内の雇	
	用創出に関する事業計画	
	について審議し、プログ	
	ラムの事業協働機関とし	
	て意思決定を行う	
とくしま元気	徳島大学COCプラス推	・ 徳島大学COCプラス推進本部推進監
印イノベーシ	進機構と連携し、徳島県	徳島大学総合教育センター教育改革推
ョン人材育成	内の雇用創出と学生の県	進部門長
プログラム教	内就職率向上のための教	・ 徳島大学総合教育センターキャリア支
育プログラム	育プログラムの開発プロ	援部門長
開発委員会	ジェクトに基づく、年度	・四国大学、四国大学短期大学部、徳島文
	ごとの事業計画を立案す	理大学、徳島工業短期大学及び阿南工業
	る	高等専門学校から選出された者
		· 徳島県政策創造部県立総合大学校本部
		長 ・ 徳島県商工労働観光部服部長
		・ 応島県尚工力側観九市版市長・ 下部組織として設置されたプログラム
		分野別分科会から選出された者
		・ COCプラス推進コーディネーター
		その他開発委員会が必要と認める者
とくしま元気	教育プログラム開発を専	各プログラムの分野に関連する参加機
印イノベーシ	門的に推進する(とくし	関から選出された者
ョン人材育成	ま元気印イノベーション	・ COCプラス推進コーディネーター
プログラム教	人材育成プログラムの分	その他分科会が必要と認める者
育プログラム	野ごとに設ける)	
開発委員会分	,	
野別分科会		

組織名	設置目的		構成員
とくしま元気	参加校によるコンソーシ	•	徳島大学COCプラス推進本部推進監
印イノベーシ	アムを設置し、プログラ	•	徳島大学以外の参加校から選出された
ョン人材育成	ムによる県内就職率向上		者
プログラム参	に向けた参加校協働事業	•	徳島県から選出された者
加校協働事業	について検討するととも	•	徳島大学COCプラス推進コーディネー
実施委員会	に、各参加校において個		ター
	別に実施する県内就職率	•	その他実施委員会が必要と認める者
	向上に向けた事業の協働		
	事業化について検討を行		
	う		
とくしま元気	プログラムの進捗状況及	•	プログラムによる事業協働機関以外の
印イノベーシ	び事業成果に関する毎年		地域経済、就職及び教育各領域の学識経
ョン人材育成	度の評価を行う		験者
プログラム外		•	プログラムによる各分野の関連企業等
部評価委員会			の代表者
		•	その他外部評価委員会が必要と認める
			者

COCプラス事業の事業実施体制(概要)

徳島大学COCプラス推進本部

COCプラス推進本部 執行会議

COCプラス推進機構

COCプラス プログラム教員会議 (4分野毎)

COCプラスFD委員会

とくしま元気印イノベーション人材育成協議会

目 的:学生の県内就職率向上のための教育プログラムと雇用創出に関する事業計画の審議

と意思決定

構成員:事業協働機関(34機関)の代表者 + COCプラス推進コーディネーター

会 長:徳島大学長

副会長:2名(会長が指名)

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム 教育プログラム開発委員会

目 的:教育プログラムの開発プロジェクトに基づく、年度毎の事業計画の立案

構成員:COCプラス推進本部推進監(2名)

総合教育センター教育改革推進部門長、キャリア支援部門長

参加校から選出された者、徳島県から選出された者

分野別分科会の代表者、COCプラス推進コーディネーター

委員長:協議会会長が指名

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム 教育プログラム開発委員会分野別分科会

的:専門的な教育プログラムの開発

ジ 態:4つの分野毎に設置

所掌事項:各分野のニーズ把握とインターンシップの課題発掘

受入機関との組織的連携のあり方

インターンシップのシステム化、マニュアル化

寺子屋方式の開発 等

構成員:各分野に関連する参加機関から選出された者、COCプラス推進コーディネーター

委員長: 互選により選出

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム 参加校協働事業実施委員会

目 的:県内高等教育機関、徳島県によるコンソーシアムの設置、参加校協働事業の検討

及び参加校個別事業の協働事業化

構成員:COCプラス推進本部推進監、参加校・徳島県から選出された者(各2名)、

COCプラス推進コーディネーター

議 長:協議会会長が指名

外 部 評 価

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム外部評価委員会

目 的:プログラムの進捗状況及び事業成果に関する毎年度の評価

連

構成員:プログラムによる事業協働機関以外の地域経済、就職、教育各領域の学識経験者

各分野に精通した者

COCプラス推進コー

タ

委員長: 互選により選出

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム

事業協働地域:徳島県全域

●とくしま元気印イノベーション人材育成協議会(事業運営担当コーディネーター)

役割:事業協働機関の「協議の場」、実施事業の意志決定と統括

構成:全ての事業協働機関(34機関)

(会長:徳島大学長、副会長:徳島県知事、徳島県中小企業団体中央会会長) 高等教育機関:6、地方公共団体:1、企業:7、団体:17、NPO:3

●教育プログラム開発委員会 (教育プログラム開発担当コーディネーター)

役割:教育プログラム開発プロジェクトに基づく年度毎の事業計画の立案

構成: ・徳島大学/COCプラス推進本部推進監、教育改革推進部門長、キャリア支援部門長(3人)

•参加校(5人) •地方公共団体(徳島県)(2人)

・各分野代表 [各分野の担当学部(徳島大学4人)、各分野関連団体4人]

※ 必要に応じて分野別分科会を設置

分 野	次世代技術 関連分野	地域医療·福祉 関連分野	6次産業化 関連分野	地域づくり · 観光 • ICT関連分野
主担当	理工学部	医·歯·薬学部	生物資源産業学部	総合科学部
副担当	阿南工業高等専門学校 四国大学 徳島工業短期大学	四国大学 四国大学短期大学部 徳島文理大学	四国大学 徳島文理大学 阿南工業高等専門学校	四国大学 四国大学短期大学部 徳島文理大学
自治体	徳島県			
経済界	経営者協会、経済同友会、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会			
企業等	日本フネン(株) 大塚テクノ(株)	社会福祉法人 健祥会 社会医療法人 川島会 ㈱テレコメディア	街竹内園芸 ㈱丸本	NPO法人 マチトソラ NPO法人 郷の元気 NPO法人 グリーン バレー
団体等	德島県自動車整備振 興会 日本自動車販売 協会連合会徳島支部	徳島県医師会 徳島県歯科医師会 徳島県社会福祉協議 会	JA徳島中央会 全農徳島県本部 徳島県漁連 徳島県木材協同組合 徳島県畜産協会 徳島森林づくり推進 機構	徳島県観光協会

●参加校協働事業実施委員会(協働事業担当コーディネーター)

役割:徳島大学と参加校による「とくしま高等教育コンソーシアム」や県内就職率増に向けた諸事業の 検討・立案

構成:徳島大学、四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学、徳島工業短期大学、

阿南工業高等専門学校、徳島県

(備考) 本事業報告書作成時点においては、藤崎電機株式会社、四国化工機株式会社の2社が新たに参画し、 事業協働機関は計36機関となっている。

とくしま元気印イノベーション人材育成協議会設置要項

平成28年2月9日 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会制定

(趣旨)

第1条 この要項は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に伴い設置するとくしま元気印イノベーション人材育成協議会(以下「協議会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 協議会は、徳島大学COCプラス推進本部と連携し、徳島県における雇用創出及び学卒者の地元定着率の向上を目指して、学生の県内就職率向上のための教育プログラム及び県内の雇用創出に関する事業計画について審議し、プログラムの事業協働機関として意思決定を行う。

(協議会の構成)

第3条 協議会は、プログラムに参加する組織又は団体から選出された委員をもって構成する。

(会長等)

- 第4条 協議会に会長1名及び副会長2名を置く。
- 2 会長は、徳島大学長をもって充て、協議会を統括する。
- 3 副会長は、第3条の委員の中から会長が指名する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する副会長が、その職務を代理する。

(議長)

- 第5条 協議会に議長を置き、会長をもって充てる。
- 2 議長は、協議会を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する副会長が、その職務を代理する。

(会議)

- 第6条 議長は、構成員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第7条 委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(COCプラス推進コーディネーター等の出席)

- 第8条 COCプラス推進コーディネーターは、会議に出席し、議長の求めにより意見を述べる ものとする。
- 2 協議会が必要と認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、徳島大学において処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、協議会について必要な事項は、協議会が別に定める。

附則

この要項は、平成28年2月9日から実施する。

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会設置要項

平成28年2月9日 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会制定

(趣旨)

第1条 この要項は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に伴い設置するとくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会(以下「開発委員会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 開発委員会は、徳島大学COCプラス推進機構と連携し、徳島県内の雇用創出と学生の 県内就職率向上のための教育プログラムの開発プロジェクトに基づく、年度ごとの事業計画を 立案する。

(組織)

- 第3条 開発委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 徳島大学COCプラス推進本部推進監
 - (2) 徳島大学総合教育センター教育改革推進部門長
 - (3) 徳島大学総合教育センターキャリア支援部門長
 - (4) 四国大学, 四国大学短期大学部, 徳島文理大学, 徳島工業短期大学及び阿南工業高等専門学校から選出された者 各1名
 - (5) 徳島県政策創造部県立総合大学校本部長
 - (6) 徳島県商工労働観光部副部長
 - (7) 第8条に定める分野別分科会から選出された者 各2名
 - (8) COCプラス推進コーディネーター
 - (9) その他開発委員会が必要と認める者

(委員長)

- 第4条 開発委員会に委員長を置き、とくしま元気印イノベーション人材育成協議会会長が指名 する。
- 2 委員長は、開発委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 開発委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 開発委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(分野別分科会)

- 第8条 教育プログラム開発を専門的に推進するため、開発委員会の下部組織として、プログラムによる分野ごとに、分野別分科会を置く。
- 2 分野別分科会については、別に定める。

(庶務)

第9条 開発委員会の庶務は、徳島大学において処理する。

(雑目川)

第10条 この要項に定めるもののほか、開発委員会について必要な事項は、開発委員会が別に 定める。

附則

この要項は、平成28年2月9日から実施する。

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会分野別分科 会設置要項

> 平成28年2月9日 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会制定

(趣旨)

第1条 この要項は、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会設置要項第8条第2項の規定に基づき、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会分野別分科会(以下「分科会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(設置分野)

- 第2条 分科会は、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム(以下「プログラム」という。)による次の各号に掲げる分野ごとに設置する。
 - (1) 次世代技術関連分野(LED, 自動車, ロボット等)
 - (2) 地域医療·福祉関連分野
 - (3) 6次產業化関係分野
 - (4) 地域づくり・観光・ICT関連分野

(所掌事項)

- 第3条 分科会は、徳島大学COCプラスプログラム教員会議と連携し、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) 当該分野が求めるニーズの把握とインターンシップ受入の課題発掘に関すること。
 - (2) インターンシップ受入機関との組織的連携のあり方に関すること。
 - (3) インターンシップのシステム化と受入ノウハウのマニュアル化に関すること。
 - (4) 専門教育とインターンシップを有機的に結びつける「寺子屋方式」の開発に関すること。
 - (5) その他当該分野の教育プログラムに関すること。

(組織)

- 第4条 分科会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 第2条各号に掲げる分野に関連する参加機関から選出された者
 - (2) COCプラス推進コーディネーター
 - (3) その他分科会が必要と認める者

(委員長)

- 第5条 分科会に委員長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 2 委員長は、分科会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

- 第6条 分科会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第7条 委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第8条 分科会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 分科会の庶務は,第2条各号に掲げる分野に関連する徳島大学の各学部学務担当部署, 地域創生課及び学務部が連携して処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、分科会について必要な事項は、分科会が別に定める。

附則

この要項は、平成28年2月9日から実施する。

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム参加校協働事業実施委員会設置要項

平成28年2月9日 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会制定

(趣旨)

第1条 この要項は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)において実施する、徳島大学、四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学、徳島工業短期大学及び阿南工業高等専門学校(以下「参加校」という。)の協働事業に関する検討を行うとくしま元気印イノベーション人材育成プログラム参加校協働事業実施委員会(以下「実施委員会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 実施委員会は、参加校によるコンソーシアムを設置し、プログラムによる県内就職率向上に向けた参加校協働事業について検討するとともに、各参加校において個別に実施する県内 就職率向上に向けた事業の協働事業化について検討を行う。

(組織)

- 第3条 実施委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 徳島大学COCプラス推進本部推進監
 - (2) 徳島大学以外の参加校から選出された者 各2名
 - (3) 徳島県から選出された者 2名
 - (4) 徳島大学COCプラス推進コーディネーター
 - (5) その他実施委員会が必要と認める者

(委員長)

- 第4条 実施委員会に委員長を置き、とくしま元気印イノベーション人材育成協議会会長が指名 する。
- 2 委員長は、実施委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 実施委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 実施委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 実施委員会の庶務は、徳島大学において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、実施委員会について必要な事項は、実施委員会が別に定める。

附則

この要項は、平成28年2月9日から実施する。

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム外部評価委員会設置要項

平成28年2月9日 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会制定

(趣旨)

第1条 この要項は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)における外部評価を行う、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

- 第2条 外部評価委員会は、プログラムの進捗状況及び事業成果に関する毎年度の評価を行う。
- 2 外部評価委員会は、前項により実施した評価結果をとくしま元気印イノベーション人材育成協議会(以下「協議会」という。)会長に報告する。

(組織)

- 第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) プログラムによる事業協働機関以外の地域経済、就職及び教育各領域の学識経験者
 - (2) プログラムによる各分野の関連企業等の代表者
 - (3) その他外部評価委員会が必要と認める者
- 2 前項の委員は、協議会会長が委嘱する。

(委員長)

- 第4条 外部評価委員会に委員長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 2 委員長は、外部評価委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 外部評価委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴く ことができる。

(庶務)

第7条 外部評価委員会の庶務は、徳島大学において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会について必要な事項は、外部評価委員会 が別に定める。

附則

この要項は、平成28年2月9日から実施する。

平成27年度 第1回COCプラス推進本部執行会議議事要録

- 1 日 時 平成28年1月12日(火)14時00分から15時00分
- 2 場 所 事務局 3 階 特別会議室
- 3 出席者 香川本部長、高石副本部長、吉田副本部長、山中推進監、玉推進監
- 4 陪 席 地域創生課長 ほか
- 5 議 題
 - COCプラス推進コーディネーターについて

本事業で雇用することとしているCOCプラス推進コーディネーターについて、 候補者の書類審査及び面接を行い、審議の結果、平成28年2月1日付けで1名(准 教授相当)を採用することを決定した。

平成27年度 第2回COCプラス推進本部執行会議議事要録

- 1 日 時 平成28年1月21日(木)10時00分から12時00分
- 2 場 所 事務局 3 階 特別会議室
- 3 出席者 香川本部長、高石副本部長、吉田副本部長、山中推進監、玉推進監
- 4 陪 席 地域創生課長 ほか
- 5 議 題
 - COCプラス推進コーディネーターについて

本事業で雇用することとしているCOCプラス推進コーディネーターについて、 先に実施した応募者11名に対する書類選考で選出した候補者5名の面接を行い、 審議の結果、平成28年3月1日付けで1名(助教相当)、平成28年4月1日付け で1名(講師相当)を採用することを決定した。

第1回とくしま元気印イノベーション人材育成協議会議事要録

- 1. 日 時 平成28年2月9日(火)11:00~12:00
- 2. 会 場 徳島グランヴィリオホテル 1階 ヴィリオルーム
- 3. 参加者
 - (委員)香川会長、飯泉副会長、山本副会長、松重委員、桐野委員、宮城委員、 寺沢委員、西宮委員、柿内委員、近藤委員、岡本委員、清重委員、 大西委員、中西委員、佐々木委員、岩野委員、久米委員、立川委員、 川島委員、笠原委員、藤川委員、藤村委員、河野委員、澤本委員、 丸本委員、久米委員、瀧野瀬委員、中村委員、竹内委員、澤田委員、 横山委員、大南委員
 - (徳島大学) 高石理事、吉田理事、山中副理事、玉役員参与、川崎コーディネーター、 川野学務部長、三好教育支援課長、中谷キャリア支援課長、 橋川地域創生課長 ほか

4. 協議事項等

- (1)協議事項
 - ① とくしま元気印イノベーション人材育成協議会設置要項の制定及び会長の選出 について

吉田徳島大学理事から、別紙協議事項1資料により、とくしま元気印イノベーション人材育成協議会設置要項案について説明があり、協議の結果、原案のとおり制定することを承認した。引き続き、本協議会の会長について、同設置要項第4条第2項の規定により徳島大学長が就任することの説明があり、協議の結果、香川学長の就任を了承した。

② 副会長の選出について

香川会長から、同設置要項第4条第3項の規定により、副会長に飯泉委員及 び山本委員を指名することの説明があり、協議の結果、満場一致でこれを承認 した。

- ③ 「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の概要について 玉徳島大学役員参与から、別紙協議事項3資料により、「とくしま元気印イノ ベーション人材育成プログラム」の事業概要、事業実施体制及びインターンシップに関わる教育方法の開発について説明があった。これを受けて、参加委員から以下のとおり意見があった。
 - ・ 本件では、医師をはじめとする医療関係従事者数は十分揃っているが、人口減少に伴う患者の減少が懸念されるため、「人材育成」よりも「人材創生」の発想が必要ではないか。
 - ・ 県内の各企業では、既に大学生をインターシップで受け入れており、今後はさらに高校を受け入れる予定であるため、本事業におけるインターンシップの開発にあたっては、日程の重複を避けるよう調整していただくとともに、県内大学については1本化をお願いしたい。

また、現在実施しているインターンシップについて評価を行うことにより、 より良いものにしていただきたい。

- ・ 上勝町では、これまでのボランティア受け入れにより町内への就職希望等の効果が現れているが、受け入れ側がボランティアの学生を送り迎えするなど交通面で非常に苦慮している。今後もボランティアの学生を受け入れる体制は整っているので、交通面での支援を是非お願いしたい。
- ④ とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会 設置要項等の制定について

事務局から、別紙協議事項4資料により、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会」、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム開発委員会分野別分科会」、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム参加校協働事業実施委員会」及び「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム教育プログラム外部評価委員会」の各設置要項案について説明があり、協議の結果、原案のとおり制定することを承認した。

⑤ 平成27年度の事業計画について

事務局から、別紙協議事項5資料により、平成27年度における事業計画案について説明があり、協議の結果、原案のとおり承認した。

なお、3月8日開催予定のキックオフシンポジウムについては、後日改めて 案内する旨の説明があり、これを了承した。

(2) その他

専任のスタッフの紹介

香川会長から、本事業の専任スタッフとして、徳島大学の川崎 COCプラス推進コーディネーターと四国大学の中西 創業支援クリエーター及び里見 創業支援クリエーターの紹介があった。

平成27年度 第3回COCプラス推進本部執行会議議事要録

- 1 日 時 平成28年2月18日(木)11時00分から11時40分
- 2 場 所 事務局 3 階 特別会議室
- 3 出席者 香川本部長、高石副本部長、吉田副本部長、山中推進監、玉推進監
- 4 陪 席 地域創生課長 ほか
- 5 議 題
- (1) COCプラス推進コーディネーター採用予定者 (3/17) の辞退及び今後の 方針について

吉田副本部長から、議題1資料①により、3月1日付けでCOCプラス推進コーディネーターに就任予定であった候補者(助教相当)から就任辞退の申し出があったとの報告があった。引き続き、議題1資料②及び参考資料により、今後の方針案について説明があり、審議の結果、平成28年度事業計画は当初の計画どおり3人体制として文科省へ申請することとし、再公募については、計画に対する予算内示額と業務量・役割分担を勘案のうえ判断することを承認した。

(2) キックオフシンポジウムについて

地域創生課長から、議題2資料により3月8日開催予定のキックオフシンポジウムの案について説明があり、審議の結果、これを承認した。

なお、開催に向けて、参加者数の把握・確保に努めるよう指示があった。

(3) その他

- ① 地域創生課長から、2月23日に川崎コーディネーターと事務補佐員によるインターンシップに関する現状調査等の報告を実施することの説明があった。
- ② 吉田副本部長から、外部評価委員候補者が未定であるとの説明があり、COC プラス推進機構会議を開催し、同会議の委員に推薦を依頼することとした。 また、他の学内会議についても、年度内に開催するよう指示があった。
- ③ 地域創生課長から、県内の高等教育機関によるコンソーシアムの設立について、 平成28年4月~5月に開催を予定している「とくしま元気印イノベーション人 材育成協議会」に合わせて協定締結式の挙行することの説明があり、これを了承 した。

以上

平成27年度 第1回COCプラス推進機構会議議事要録

- 1. 日 時 平成28年3月24日(木)9時00分から10時30分
- 2. 場 所 事務局 2階 第 2 会議室
- 3. 出席者
 - (委員) 吉田機構長、高石副機構長、山中委員、玉委員、右手委員、酒井委員、 岩本委員、植野(哲)委員、田口委員、植野(美彦)委員、赤池委員、 大淵教授(成行委員の代理)、豊田教授(井戸委員の代理)、横井川教授 (宇都委員の代理)、織田教授(際田委員の代理)、畠委員

(事務局) 学務部長、教育支援課長、キャリア支援課長、地域創生課長 ほか

4. 議事

(1) COCプラス推進機構の構成員の推薦について

地域創生課長から、別紙資料1により、本事業におけるキャリア教育の改革の 重要性を鑑み、徳島大学COCプラス推進機構会議設置要項第2条第9号の規程 に基づき総合教育センターキャリア支援部門の畠特任講師を委員に加えることの 説明があり、審議の結果、これを承認した。

(2) 事業概要及び実施体制について

玉委員から、別紙資料 2、資料 2 参考①及び資料 2 参考②により、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の事業概要と事業実施体制について説明があり、これを了承した。

(3) 教育カリキュラムについて

玉委員から、別紙資料3-1及び資料3-2により、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」における教育カリキュラムと同プログラムの申請時に各学部から選出された授業科目について説明があった。これに対して各委員から教育カリキュラムの考え方に関する質問があり、次のとおり確認を行った。

- 同プログラムは、全学生が修了しなければならないものではない。ただし、 1年生については、全員が地域志向科目を履修することが事業の必須事項となっている。
- 1年生が履修する地域志向科目については、教養教育院における各科目のキャパシティ超過の危険性及び教養教育院の新設に伴う各科目の教育内容充実を考慮する必要があるため、履修指導の担当教員に対して、常三島・蔵本両地区の学生を出来る限り均等に割り振ることを優先して指導するよう依頼する。
- 2年生以降は、卒業要件の科目によりカリキュラムを組んでも問題ない。
- 〇 専門科目については、平成28年度の後期(10月頃)に学生に対して周知 する予定であるため、各学部において、6月中を目途に科目の確認・見直しを 行う。

(4) 平成28年度入学生に対する事業の周知について

玉委員から、別紙資料4により、教育プログラムの名称を「とくしま元気印イノベーター教育プログラム」とすること及び平成28年度入学生に対する同プログラムの周知用パンフレット案について説明があり、審議の結果、次のとおり修正を行うとともに改めて内容を精査することとし、これを承認した。

- 「1 1年生向け地域理解のための教育科目」に記載している科目と資料 3 2の科目との整合性をとる。
- 〇 「医学部、歯学部、薬学部の学生」の(代替できる学部専門科目)から、1 単位の科目を除く。
- 学生に対して本プログラムの受講を促すため、『「修了証」の発行』のところ に受講することのメリットを明記する。

なお、このほか修正が必要な点があれば、3月25日(金)中に地域創生課へ 連絡することとした。

(5) 平成28年度事業計画について

玉委員から、別紙資料5により、平成28年度における事業計画案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。なお、地元高校生を対象とする進学説明会の実施については、総合教育センターアドミッション部門と連携を図りながら、既に実施を予定している進学説明会と共催する方向で検討することとした。

高等教育機関及び自治体 との連携協定について

高等教育機関及び自治体との連携協定について

平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の採択に伴い、本プログラムの目標達成に向けて互いに連携し、県内就職率増を目指す教育カリキュラム改革や雇用創出等、このプログラムを強力に牽引していくこととなる高等教育機関及び徳島県による連携協定締結式を下記のとおり実施しました。

- 1. 日 時 平成27年12月15日(火)13:00~
- 2. 場 所 徳島県庁 第2応接室
- 3. 出席者 (1) 徳島大学長 香川 征 (2) 四国大学長、同短期大学部学長 松 重 和 美 (3) 徳島文理大学 桐 野 豊 (4) 徳島工業短期大学長 宮 城 勢 治 (5) 阿南工業高等専門学校長 寺 沢 計 二 (6) 徳島県知事 飯 泉 嘉 門



徳島大学,四国大学,四国大学短期大学部,徳島文理大学,徳島工業短期大学,阿南工業高等専門学校及び徳島県による雇用創出・若者定着についての連携・協力に関する協定書

徳島大学,四国大学,四国大学短期大学部,徳島文理大学,徳島工業短期大学,阿南工業高等専門学校及び徳島県(以下「連携機関」という。)は,徳島県内の雇用創出・若者定着を目的とする「徳島元気印イノベーション人材育成プログラム事業」(以下「プログラム」という。)の実施に関する連携・協力を図るため,次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、連携機関が連携・協力してそれぞれが持つ資源、財産を活用し、徳島県内における雇用創出・若者定着のためのプログラムを通じて地域社会に貢献することを目的とする。

(目標)

- 第2条 連携機関は、プログラムに関する目標として次の事項を定めるものとする。
- (1) 事業協働地域(徳島県)における高等教育機関の県内就職率を,5年間で10パーセント以上向上させる。
- (2) 前号により増加した県内就職者数のうち10パーセント以上の雇用を、事業協働機関(プログラム参加機関をいう。以下同じ。)に参加する企業等における雇用拡大等から創出する。
- (3) 徳島県を除く連携機関から事業協働機関へのインターンシップ参加者数を,5年間で30パーセント以上向上させる。
- (4) 高等教育機関を除く事業協働機関の事業への満足度が、100パーセントとなるよう努力する。

(成果の検証)

- 第3条 本事業の終了後、前条の目標に対する成果について検証を行うものとする。
- 2 検証は、各連携機関の代表者に外部からの有識者 2名を加えた委員会を組織して行うものとする。
- 3 委員会は、本事業の終了後6月以内に検証結果を取りまとめた報告書を作成し、公表するものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結日から前条の成果の検証に関する報告書公表日の 属する年度の末日までとする。

(協定の解釈等)

第5条 本協定の解釈に疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項が生じた場合は, 連携機関が協議して定めるものとする。

(協定の改正)

第6条 本協定を改めるときは、連携機関の協議を経て行うものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書を7通作成し、それぞれ署名の上、各自その1通 を保有する。

平成27年12月15日

徳島県徳島市新蔵町2丁目24

徳島大学 学長

11

15

徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1 四国大学 学長

和南 和美

徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1 四国大学短期大学部 学長

松重氣美

徳島県徳島市山城町西浜傍示180 徳島文理大学 学長

桐野豐

徳島県板野郡板野町犬伏蓮花谷100 徳島工業短期大学 学長

宫城势治

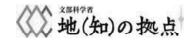
徳島県阿南市見能林町青木265 阿南工業高等専門学校 校長

寺识好二

徳島県 徳島県知事



キックオフシンポジウム



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+) とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム キックオフシンポジウム

開催日 : 平成28年3月8日(火)14:00~17:15 場 所 : 徳島グランヴィリオホテル 1F グランヴィリオホール

- 次 第 -

● 開会挨拶 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会会長・徳島大学長 香 川 征

● 来賓挨拶 徳島県知事・とくしま元気印イノベーション人材育成協議会副会長 **飯泉嘉門** 文部科学省高等教育局大学改革官 山口良文

● 基調講演 「実践型インターンシップで企業の可能性を拓く」

NPO法人ETIC.チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー

伊藤 淳司

● 事業紹介 ①「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムについて」

徳島大学COCプラス推進本部推進監

大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授 玉 真 之 介

②「四国大学における創業支援事業について」

四国大学地域教育・連携センターSUDAchi推進室創業支援クリエーター

里見 和彦

● パネルディスカッション

テーマ: 「若者の地域定着と徳島県の活性化」

コーディネーター: 徳島大学COCプラス推進コーディネーター 川崎 克寛

パネラー: 日本フネン株式会社代表取締役社長 久米徳男

株式会社グローバル・アシスト専務・管理薬剤師 伊勢 佐百合

有限会社樫山農園専務取締役 樫山 直樹

四国大学地域教育・連携センターSUDAchi推進室創業支援クリエーター

里見 和彦

アドバイザー: NPO法人ETIC.チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー

伊藤 淳司



地(知)の拠点

文部科学省COC+事業

とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム

・ックオフシ

●日時

平成28年**3月8日**[火]

14:00~17:15

徳島グランヴィリオホテル 1F グランヴィリオホール

徳島市万代町3-5-1(Tel. 088-624-1111)

平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の開始にあたり、



:ついて社会に広く周知を図るとともに、地域における機運の醸成を図る。

文部科学省COC+事業 とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム ックオフシンポジウム

参加申込書

申込締切

平成28年3月4日[金]まで

所属団体

ご参加いただくものにチェックを入れてください。

連絡先(電話番号・メールアドレス等)

氏名

参加人数

キックオフシンポジウム(無料)

情報交換会(会費5,000円) 会費は当日受付の際に申し受けます。

電話・FAX又はE-mailにて お申し込みください。

徳島大学地域創生課社会貢献係(COC+担当) TEL.088-656-9888 FAX.088-656-9880 e-mail: coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp

※席に限りがございますので、事前にお申し込みのない方は 入場できない場合があります。

※今回の申込みによって得た個人情報は、本シンポジウムに 係る目的以外には使用しません。

※やむを得ぬ事情により開催を中止する場合があります。

主催: とくしま元気印イノベーション人材育成協議会



文部科学省COC+事業 とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム

キックオフシンポジウム

日 程

13:30~

開場·受付

14:00~14:05

開会挨拶

とくしま元気印イノベーション人材育成協議会 会長 香川 征 (徳島大学長)

14:05~14:20

来賓挨拶

徳島県知事 飯泉 嘉門

文部科学省高等教育局大学改革官 山口 良文

14:20~15:20

基調講演

「実践型インターンシップで企業の可能性を拓く」

NPO法人ETIC.チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー 伊藤 淳司

15:20~15:35

事業紹介 ①

「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムについて」

徳島大学COCプラス推進本部推進監、大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授 玉 真之介

15:35~15:45

事業紹介 ②

「四国大学における創業支援事業について」

四国大学地域教育・連携センターSUDAchi推進室創業支援クリエーター 里見 和彦

15:45~15:55

(休憩)

15:55~17:10

パネルディスカッション 「テーマ: 若者の地域定着と徳島県の活性化」

コーディネーター: 徳島大学COCプラス推進コーディネーター 川崎 克寛

パネラー: 日本フネン㈱代表取締役社長 久米 徳男

(株)グローバル・アシスト薬剤師 伊勢 佐百合

(有)樫山農園 樫山 直樹

四国大学地域教育・連携センターSUDAchi推進室創業支援クリエーター 里見 和彦

アドバイザー:

NPO法人ETIC.チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー 伊藤 淳司

17:10~17:15

閉会挨拶

17:15~17:45

(休憩)

17:45~19:15

情報交換会

講演者紹介



伊藤 淳司 (いとうじゅんじ) NPO法人ETIC.チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー。早稲田大学MBAコース修了。若き挑戦者が未来の日本を創る志士になるための人材育成の仕事を展開中。

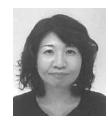
.....

パネラー紹介



久米 徳男 (くめとくお) 日本フネン株式会社代表取締役社長。昭和14年生まれ。徳島東工業高等学校卒業。県外企業等を経て、昭和49年日本フネンに入社し、平成2年現職に、徳島県LEDバレイ構相維性経論企副会長。

.....



伊勢 佐百合 (いせ さゆり) 徳島市出身。平成8年3月徳島 文理大学薬学部卒業、薬剤

文理大学薬学部卒業、薬剤師。民間総合病院、医療系企業を経て、現在、(株)グローバル・アシスト薬剤師。徳島県薬剤師会常務理事、在宅及びチーム医療(薬・薬連携)推進委員会委員長などに従事。



樫山 直樹

(かしやまなおき) 昭和53年9月樫山家12代目と して生まれる。平成12年阿南 高専卒業後、米国2年制派米 農業研修・平成14年帰国後、 父親が法人化した有限会社樫 山農園に入社。以来、県産のフ ルーツトマトやこしひかりのネット 販売等、6次産業を推進中。



里見 和彦

(さとみかずひご) 四国大学地域教育・連携センターSUDAchi推進室創業支援クリエーター。昭和48年徳島市生まれ。徳島大学知能情報工学科システム工学前期課程修了。徳島大学発ベンチャー企業を起業し、現在は創業支援、起業家教育を推進中。



川崎 克寛

徳島大学COCプラス推進コーディネーター。昭和45年生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)で経営学を学ぶ。留学後、(株)ワールドを経て独立。高知での地域づくり活動をきっかけに、地方の企業再とや地域プロジェクトに関わる。

「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」 キックオフシンポジウム 報告書

日時:平成28年3月8日(火)14:00~17:15

場所:徳島グランヴィリオホテル(1F)グランヴィリオホール

開会挨拶

徳島大学学長 香川征



本日は文部科学省の COC+事業、とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムのキックオフシンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本学では、平成 28 年度から始まります第 3 期の中間計画、この中に機能強化の方向性といたしまして、地域貢献を挙げています。今まで以上に第 3 期は、地域への取り組み強化をしたいと思っております。ご存じのようにこの度採択されました COC+事業は、いわゆる地方創生の一環として行われます。この協議会として、成長力のある産業の育成による雇用創出、あるいは地域の課題を解決する人材育成、最終的には学生の地元への就職率の向上を目指しています。ぜひとも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

来賓挨拶

徳島県知事 飯泉嘉門



日本の人口は平成 20 年をピークとしてどんどん減少しています。昨年は5年に一度の国勢調査の年でありました。人口の東京一極集中が浮き彫りとなり、国、地方を挙げて、地方創生、東京一極集中の是正と地域の魅力アップを行わなければなりません。地方創生本格展開の年度となる平成 28 年度は、全国の都道府県、市町村のいわゆる戦略プログラムが全て出そろいます。あらゆる世代の皆さま方を地方へとお招きをする地方回帰、この中で一番重要となりますのは、若者の地方回帰であります。今回この人材育成プログラムは地方に職と若者の新たな流れをつくり、県内の就職率アップを目指しています。徳島県といたしましても徳島県への若者の回帰をしっかりと進めていきたい、このように考えております。

そのためには、地方のなりわいに関心を持っていただく必要があり、地方に大学のサテライトオフィスの設置、あるいはフィールドワーク型の講座などにご支援を申し上げているところであります。

また、昨年の5月、徳島大学にテストパターンとしてボランティア講座を導入していただきました。学生さんにボランティアを通じ、ボランティア精神をしっかり身に付けていただくとともに、単位も取得できるボランティアパスポート制度を多くの大学にも導入を進めていきたいと考えております。

今、若い皆さん方は内向き志向、留学の志望者が大変少数です。しかし地域にありながらも、その視野視点はグローバルであってほしい、グローカルな人材を育成していかなければいけません。これが今われわれ地方における大きなポイントとなるところであります。文部科学省の「トビタテ!留学 JAPAN、日本代表プログラム」の『地域人材コース』は四国で初めて徳島が指定をいただきまして、企業の皆さん方と共に産学官金で留学を推奨しております。留学を終え帰ってきたグローカル人材として、県内企業でしっかりと活躍をしていただけるように着々と進めているところであります。

来賓挨拶

文部科学省高等教育局大学改革官 山口良文



わが国は活力にあふれた地方創生を目指すことが急務の課題となっております。今後の地方創生を担うのは若者であります。一方若者の人口の流出は、大学の入学と卒業、就職のときに集中し、大きな課題となっているところです。徳島県の未来を担う主役は若者です。この若者を育成する主役は高等教育機関であり、地域でどのような人材が求められているのか的確に判断し地域の発展を担う人材育成に努めていただきたいと思う次第です。

地(知)の拠点事業(COC+)は今年度からさらに発展いたしまして、地方のために自治体や産業界とも協働して、学生の地元就職率の向上や、雇用創出に貢献するといった事業を重点的に取り組むようになります。徳島大学をはじめとします、大学の取り組みは、徳島県で新たな雇用創出と学生の就職率向上が期待されます、LEDや自動車、ロボットといった次世代技術産業の分野、地域医療や社会福祉分野、第6次産業化関連分野、地域づくり・観光・ICT 関連分野に対応しました教育プログラム設けて、イノベーション人材を育成し、産業界や市町村の強みを生かし、個性的な取り組みを進めていくという点が高く評価され採択されました。

この COC+の成果は各方面から大きな期待を寄せられておりまして、地方創生を目指す日本全国の地域から注目を受けております。本日ご臨席の皆さま方の中には、徳島大学を始め、COC+事業の採択校や提携校として、ご参加いただいている機関の皆さまに地域創生の担い手であります若者の人材育成に努めていただきたいと願う次第でございます。高い目標を掲げていただいておりますので大変だろうとは思いますが、この目標達成に向かって一丸となって取り組んでいただきたいと思う次第です。

また、この取り組みにおきましては、大学だけで成り立つものではございませんので、 県をはじめ、関連自治体や産業界の皆さまの厚い、多大なるご協力、ご支援を文部科学省 としてもお願いいたします。

基調講演

NPO法人ETIC. チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト事務局マネージャー 伊藤淳司



今日は、『実践型インターンシップで企業の可能性を拓く』というお題をいただいています。実践型インターンシップの取り組みをご紹介させていただきながら、企業だけでなく学生にとって、また大学や地域にとってインターンシップの取り組みにどのような可能性があるのかということを、ETICの取り組みを一つの題材にして、COC+の取り組みに加速させていけるようなお話ができればと思っております。

私、伊藤は、ETIC 立ち上げから 20 年くらいこの仕事を行っております。現在、いろいろな大学を中心にこういった取り組みを行われているところで、お話しする機会をいただいております。どうもインターンシップというような話を聞くと、少しアレルギーというか、なかなかうまくいっていないな、というような反応をされる方もたくさんいらっしゃいます。けれども、インターンシップは COC+の活動の一つの大きな柱と聞いておりますので、その辺で参考に話ができればと思います。

ETIC は93年に活動を開始した団体であります。東京を中心に、社長さんに大学に来ていただいて、講演をしていただいて起業家精神、自分で何か新しいことを始めることの大切さとか面白さを伝えていく、そのような団体からスタートしました。97年から、長期実践型のインターンシップ事業に取り組んでいます。当時、全員学生スタッフで運営していましたので参加費などの事業負担を企業に求めるためには、企業側がインターンシップを導入することによって、自分たちの組織、事業に役立ち価値を感じる必要があります。企業側にとってどういうインターンシップの価値があるのか、初年度、2年目、3年目と考えながら、長期実践型のインターンシップ事業として運営を行いました。今後多くの大学生が地域の中で、ボランティアやフィールドワークのような話もありましたけども、お互いのWin-Win の関係性をつくっていくという点では、ヒントになるかなと思いますので、その点は少し後半のほうでお話させていただければと思います。

社会起業家の創業支援ということをスタートさせたのが 2000 年前後からになります。この 1番と 2番の事業を、われわれ各地に広げていきたいなということで、2004 年から経済産業省さんと一緒に、こういった新しいインターンシップの考え方ですとか、人材育成創業支援の仕組みを各地に展開していこうということで、チャレンジ・コミュニティー・プロジェクトというものを 2004 年からスタートしています。

さて、実践型インターンシップの受け入れ企業さんにとっての価値ですね。実践型インターンシップを受け入れることにより企業は、新しく方向性を見いだして、そこでまた雇用が生まれたり新卒が採用されたり、ないしは専職が生まれたり。そんなことをこのインターンシップを通じて図っていくことができるんじゃないかなと思います。また、受け入れ企業の社長さんは非常に、人を扱うのが上手になっていく傾向もありますので、そう考えるとこういった人材育成ができる社長さんがたくさん増えていくというのが、徳島県全体としての人材育成力をアップさせていくということにもつながるかなと思っています。失敗事例は、企業さんが学生に対して期待していない、学生らしく好きにしてほしいといった仮説がない、学生が受け身というところです。学生は実践型インターンシップを実施するうえで面接、事前課題、そういったところでハードルを高めていって、絶対ここでやりたい!というふうに思えるような、プロセス、プログラムが必要なのかなと思います。

この事業目標に対し、最初にモデル事例をつくっていくということが大事だと個人的に思っています。学生の皆さんに、自分の関心分野を広げていくとか、一つのテーマを深く掘っていくような、そういったことを柔軟に繰り返しながら行っていく T 字型人間というか、そんなことを目指していく必要性もあるかなと思っています。特にいろんなことを自分で決めて、一つのことに時間を割くというチャレンジをしてほしいと思っています。

事業紹介①

徳島大学COCプラス推進本部推進監

大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授 玉真之介



プログラムの概要および事業の全体像を簡単にご説明させていただきます。

文部科学省では COC という大学と自治体が連携するようなこういうプログラムを事業として推進しておられましたが、このほど新たに COC+として公募されました。COC+という事業につきましては、現在国が進めております地方創生の取り組みと強く連携したものとなっております。ご存じの方も多いと思いますが、まち・ひと・しごと創生総合戦略というものが閣議決定されまして、各都道府県におきましても、それぞれの県において地方創生の戦略がつくられています。その主な狙いとするところは、人口の社会移動がとりわけ首都圏、または大都市に集中し、地方圏の 15 歳から 24 歳までの若い層が中心になっています。若年層人口の東京一極集中を解消するという目的で、事業協働地域、これは徳島県になりますけれども、その徳島県における雇用創出と、そこへの若年層の就職率の向上、それが事業の募集の段階での要件となっております。そのためには、地域大学、自治体そして民間の企業さま、NPO 団体としっかり協議会をつくって目的達成のために取り組む必要があります。

徳島県におきましては、若い人がどんどん今少なくなっていて、特に郡部とか山間部へ行くと、若い人を見る機会が少ないという現状になっております。ただ一方で、徳島市の高等教育機関におきましては、まさに 18 歳から 23 歳までの若者が学生として集まっております。徳島大学だけでも 6000 人の学生がおります。今回事業を一緒に取り組んでいただく大学は、四国大学、四国短期大学様、それから徳島文理大学様、徳島工業大学、阿南工業高等専門学校この六つの高等教育機関で取り組んでいます。この学生数、総数合わせますと、1万1000人になり、大学のキャンパスの中に固まっています。若い人たちにもっと地域に出てもらい地域全体が若い人から元気をもらうと同時に若い人たちにも元気を与え、お互いに地域と大学が連携し合って双方で元気を生み出していく、そういうことを狙った

のがこの事業というふうにご理解いただければと思います。これまでは大学というのはキャンパスの中で、教室の中で学生の教育を行ってきたわけですけれども、ボランティア活動、フィールド教育、インターンシップなど大学が学生を地域に出し、そして地域の方と一緒に大学を育て、また、学生と地域の方に元気になることを目指しているのがこの事業というふうにご理解いただければと思います。

この事業には、目標を設定しております。これは平成 31 年までの実質4年間ですけど、 県内就職率を10 パーセント増やすということです。目的達成には、雇用の増加が必要とな ります。現在、徳島県が進めておられます、「vs 東京『とくしま回帰』総合戦略」、と連携 して、本事業では4つの分野、次世代技術分野、地域医療・福祉の分野、6次産業化の分 野、そして地域づくり・観光・ICT の分野を設定し、この分野ごとにインターンシップを中 心とした取り組みを行います。

4つの分野ごとに、それぞれの産業分野がありまして、特性に合わせたインターンシップを開発し、一番徳島に合った取り組みを進めていきたいと考えております。特色としまして、分野ごとのニーズをしっかり把握するということ、大学も学生を企業に任せっ放しではなく、インターンシップの間も学生をしっかり見守り支援することで、積極的にインターンシップが活用できればと思っております。神山町で実際に全国からさまざまな人をインターンシップで受け入れて、そういう人たちが実際に地域に定着していっているという、非常に先進的な取り組みを行い、全国から注目を集めております。それを今度は大学と高等教育機関と、そして地元の企業さまの間で開発して、それを進めていきたいと思っております。

最後になりますけれども、徳島県は高等教育機関それから県・行政との関係、それから 企業さんとの関係が非常に連携が密になっている、そういう地域であります。徳島県とし て COC+の全国の競争の中で先端を走って行く、そういう取り組みにしたいと思っておりま すので、ぜひご理解とご協力をお願いしたいと思います。

事業紹介②

四国大学地域教育・連携センターSUDAchi 推進室創業支援クリエーター 里見和彦



私からは COC+事業の四国大学としての取り組み、創業支援の取り組みについてご説明をさせていただきます。まず私の自己紹介をさせていただきます。徳島産業振興機構で、創業コーディネーターとして、また、徳島県信用保証協会では創業アドバイザーとして勤務しております。徳島商工会議所さんの中で NPO 法人チャレンジサポーターズと、個人的には、いろんな場所で創業支援ということをさせていただいております。年間に 300 人ほどの相談を受け、約50人から80人、年によっては100人くらいの方が創業をされるということを支援しております。徳島県内では、500人から600人くらいの方が毎年新たに創業しています。

COC+事業には、平成31年度までで就職率を10パーセント増やすという目標設定がありますが、四国大学では県内への就職率が75パーセントと高く、県内就職率10パーセント増というのは非常に厳しい数字となるため、このCOC+事業では、創業支援を通じ、人づくり仕事づくりの支援を行います。

四国大学は COC 事業と COC+と 2 つあり、COC 事業として、平成 26 年度から SUDAchi 推 進室を設置して、西部・南部にコーディネーターを配置して、地域と学生をつなぐような 活動をこの 1 年半続けてまいりました。そこに新たに COC+事業として、5 つの事業を行っていこうと思います。

まず1つ目が、「学生ビジネスプラン道場」を実施をします。7月からキックオフ説明会を開始し、1次審査を経てセミナー、そして2次審査を行います。2次審査で合格した方は合宿をし、最終審査に臨んでいただきます。また、高校生のビジネスアイデアコンテストというのもあり、高校生のビジネスアイデアコンテストで賞を取った方々と、最後の最終審査で大学生たちと一緒にプレゼンテーションしていただけたらと思っています。このビジネスプラン道場を通じて、地域課題にチャレンジすることを考えたり、地域でどのような仕事ができるのか、そういった起業にチャレンジするようなプランを、半年間にわたって練っていただくことを期待しております。

2つ目に、ビジネスサークル『とくしまサイコー塾』です。徳島について再考し、そし

て再び興すという再興する行動を起こすことで、徳島を最高にしていくような、そういう ビジネスサークルをつくろうと思っております。まずはいろいろな地域のリーダーとなり グループワーク等を通じて起業家教育を学び、起業家教育としてインプットし、そして実 際に起業家の困りごとをビジネスサークルのチームで解決することを学び、起業家支援と してアウトプット、というようにインプットとアウトプットの連携を図り、継続した起業 家教育の学びの場を提供していこうと考えております。

3つ目は「社長のかばん持ち」です。四国大学で取り組むこの事業としては、社長の直接かばんを持つ、社長の秘書をする。要は起業家を目指すには起業家の生きざま、考え方を間近で見ること、それが大切で、小規模事業者または家族経営されてる創業者の方と学生をマッチングしていこうと考えております。

4つ目は、空き店舗でのシェア店舗を企画しようと思っています。ビジネスサークルの中である程度ビジネスプランを持ち寄って、いろいろやりたいこと学生たちが自発的に意見を出していただいた時に、学生たちが街に出て空き店舗を活用して、カフェをやったり、もしくは雑貨を売ってみたり、さまざまなチャレンジできるようなショップを用意しようと思っています。起業の実践の場、PDCAの実践の場、また、地域密着するということもここでやってみたいなと思っております。

5つ目は出前授業です。徳島県内の学校にて、仕事とか創業セミナーそういうことを企画しておりますので、ぜひお声を掛けていただけたらと思います。

この5つの事業のうち、今年度実施するのは3つの柱ということで、学生ビジネスプラン道場、ビジネスサークルの立ち上げ、そして社長のかばん持ちを今年度実施していこうと思っております。地域づくりは人づくりということで、地域課題を自らの創造力で解決する、人材育成を目指して県内の定着率を上げていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

パネルディスカッション

コーディネーター/徳島大学 COC プラス推進コーディネーター 川崎克寛 パネラー/

- ① 日本フネン株式会社代表取締役社長 久米徳男
- ② 株式会社グローバル・アシスト専務・管理薬剤師 伊勢佐百合
- ③ 有限会社樫山農園専務取締役 樫山直樹
- ④ 四国大学地域教育・連携センターSUDAchi 推進室創業支援クリエーター 里見和彦 アドバイザー/NPO 法人 ETIC. チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト

事務局マネージャー 伊藤淳司



四国大学 創業支援クリエーター 里見 和彦



有限会社樫山農園 専務取締役 樫山 直樹



ァドバイザー 伊藤 淳司



株式会社グローバル・アシスト 専務・管理薬剤師 伊勢佐百合



コーディネーター 川崎 克寛



日本フネン株式会社 代表取締役社長 久米 徳男

それでは『若者の地域定着と徳島県の活性化』をテーマとしてパネルディスカッション を始めさせていただきたいと思います。

まずパネリストの皆さまをご紹介させていただきます。パネリストには、現在徳島県で雇用創出と就職率向上が期待されております、次世代技術関連分野、地域医療・福祉関連分野、6次産業化関連分野、地域づくり・観光・ICT関連分野の4つの分野から、それぞれ関係者の方々にお集まりいただきました。



日本フネン株式会社 代表取締役社長

久米 徳男

出身校

• 徳島東工業高等学校

昔の夢

ものづくり、開発エンジニア

現在の楽しみ

毎朝、新しいアイデアを創造すること

まずお一人目は、日本フネン株式会社代表取締役社長、久米徳男様でございます。久米様をご紹介いたします。久米社長は県外企業を経て昭和49年に日本フネンに入社され、平成2年に代表取締役社長に就任されました。現在、徳島県 LED バレイ構想推進協議会副会長をお務めになっていらっしゃいます。



株式会社グローバル・アシスト 専務・管理薬剤師

伊勢 佐管合

出身校

• 徳島文理大学薬学部

昔の夢

お医者さん

現在の楽しみ

ショッピング

続いて、株式会社グローバル・アシスト、専務・管理薬剤師の伊勢佐百合様でございます。

伊勢様は平成8年、徳島文理大学薬学部をご卒業後、民間総合病院、医療系企業を経て、 現在の株式会社グローバル・アシストで管理薬剤師として働いておられ、徳島県薬剤師会 常任理事、在宅およびチーム医療(薬・薬連携)推進委員会委員長等に従事されております。



有限会社樫山農園 専務取締役

樫山 直樹

出身校

阿南工業高等専門学校

昔の夢

建築家、ミュージシャン

現在の楽しみ

二人の子供と遊ぶこと

続いて、有限会社樫山農園の樫山直樹様でございます。樫山様は平成12年に阿南工業高等専門学校をご卒業後、米国2年制派米農業研修に参加され、平成14年に帰国後はお父さまの経営する有限会社樫山農園に入社されております。以来、県産のフルーツトマトやコシヒカリのネット販売等6次産業の推進に力を入れていらっしゃいます。

続いて、四国大学地域教育・連携センターSUDAchi 推進室創業支援クリエーターの里見和 彦様でございます。



四国大学地域教育・連携センター SUDAchi推進室創業支援クリエーター

里見 和彦

出身校

• 徳島大学大学院工学研究科

昔の夢

学校を創ること

現在の楽しみ

子育て(7歳長男と4歳長女の父親です)

里見クリエーターは徳島大学知能情報工学科システム工学前期課程を修了後、徳島大学発のベンチャー企業を起業し、現在は四国大学において創業支援、起業家教育を推進されております。

また、本日アドバイザーとして、NPO 法人 ETIC チャレンジ・コミュニティー・プロジェ

クト事務局マネージャーの伊藤淳司様にもご参加いただきます。

そしてコーディネーターは徳島大学 COC+推進コーディネーターの川崎克寛が務めさせていただきます。川崎コーディネーターは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校で経営学を学び、留学後は株式会社ワールドを経て独立されました。地方の企業再生や地域おこしプロジェクト、インターンシップ事業等に参加され、東日本大震災後の復興支援プロジェクトにも関わられました。

川崎氏/よろしくお願いします。それぞれの分野で、存在感のある方ばかりです。どうか皆さんには主体性を持ってこの話を聞いていただき、今日、何かの答えを出す必要はなくて、皆さまが話を聞かれた中で感じたことを、ご自身の中で整理し、そして明日以降、何かのアクションを起こすきっかけにしていただければいいかなと思います。

さて、それぞれ自分軸で生きていると感じるのですが、誰かに何かを与えられて、 お仕事していたり暮らしているわけではない。それぞれにそれぞれが思っている ことを、しっかりと自分の中で落とし込んで一歩一歩進まれてきた結果、皆さん ここに立っていらっしゃると思います。

久米社長、ご自身の軸で生きられてるっていうのは若さの秘訣でしょうか?

久米氏/思いがあるということが、健康につながっていると思います。朝起きし、服装を 整えれば今日もやってやろうという意欲が沸いています。

川崎氏/ありがとうございます。思いや意欲はどこから出てくるものでしょうか? 久米氏/生い立ちというものもあると思うんですけども。ええ格好で言えば、責任感であ

るとか、使命感ということになります。ただ企業を興して時流に乗って、売上高や規模を競うのではなく、我々の分に合った中で、独自の斬新さを持って付加価値をお客さまに提供するということに腐心している事が思いということです。今、私ども具体的な企業の行動指針といたしまして、1つは経営理念手帳を策定して、5つのカテゴリーで各20項目、トータル100項目を設定して毎朝、職場別に職場の長がメンバーとともに輪読をして、ベクトルの共有を図り、有言実行シートということで年2回、それぞれが思い、行動、計画を提案してそれによって客観的な評価がなされる、何をやったかということを評価の基準にしています。また、弊社は、受注生産方式の生産スタイルでございますので、お客さまと共に作り上げてきた、顧客に学ぶ、そういう精神を持ちながら思いを叶えようとしてるところでございます。まだ、道は半ばでございます。

川崎氏/ありがとうございます。まずは、どこから思いや意欲が生まれてくるのかという

ことで、自身の立場であったりとかっていうものをあらためて見直したときに、 自分として何ができるのか、そういったことを見い出すことができるというふう に受け止めさせていただきました。

続きまして、伊勢さんお願いします。単なる薬局ではなく、非常に多角経営というか、小規模多機能といわれてますが、従業員 130 名、これは県内の規模としては大きいほうなんですか。

伊勢氏/いや、そんなに大きくはないです。

川崎氏/そうなんですか。存じ上げなくて申し訳ないんですけども。今、在宅のほうもされているわけですよね。

伊勢氏/はい。

- 川崎氏/在宅で、今こういうことに課題があるとか、問題があるなど、これから解決しなくてはいけない事、もし見えていれば少しお話しいただきたいかなと思います。
- 伊勢氏/2025年には高齢者がピークを迎えるといわれておりますけども、徳島県では2020年がピークを迎えるといわれております。その中、入院ベッドで、団塊の世代の方たち全てをフォローすることは難しいと思います。そこで私たち医療系・福祉系の者は、在宅医療というものに力を入れています。そこで、24時間365日であったりとか、介護系のスタッフ等の充実に関しては、やはり大きな課題となっています。
- 川崎氏/ありがとうございます。伊勢さんにとってのモチベーションの源泉というのはど こにあるんですか。
- 伊勢氏/深く考えたことはなかったですけど。目の前にいる患者さんが、自分が携わり良くなることを経験する、それが私の原動力かもしれないなと思います。いろいろな職種の方と連携しながら、例えば医師に対して、薬からの専門的な立場で処方提案を行うことができて、患者さんの生活の質の向上というものが図れたとき、それはやはり私の原動力になっているような気がします。
- 川崎氏/なるほどですね。命の現場というか命と向き合わざるを得ない現場で、その方が 良くなっていく姿っていうのが1つの原動力になんですね。

川崎氏/続きまして、樫山さん。阿南高専で学んだようなロジックというか、そういった ものを使って独特なユニークな形態の農業をされてますよね。その中で、樫山農 業で世界を幸せにする。3つのキーワードをいただきました。樫山農業と世界と 幸せというのと。樫山さんが徳島を選んだ理由っていうのがすごく気になっちゃ うんですね。

樫山氏/はい。

- 川崎氏/ここに至るまでいろんなものを見てきたと思うんですけども。ワールドワイドに 動かれてたわけじゃないですか。ご自身のご実家がやってたというのはあるんで すけども、なぜ徳島なんですか。徳島じゃなきゃできないことってありますか。
- 樫山氏/徳島じゃなきゃできないことっていうと、数少ないかもしれないですけども。僕ができることは徳島にしかないと思ったのと。農業が嫌でしたが、阿南高専で4年生のときに留年をしました。それは最初、建築家になりたかったという夢があったので。途中で挫折を味わった時、父親が、哲学書を開いて僕の前に出して、下線引っ張ってあるんですね。そういう関わり続けてくれてた父親に対して恩返しをしたい、と思ったのが一番です。それをするためには、父親がそれまでやってる農業を父親が思い描いてる分だけかなえてあげたい、と思ったのがきっかけで。阿南高専の2度目の4年生と5年生は、農業をすると決めて通学しました。それとアメリカに留学しました。原動力といえばやっぱり親に対する恩返しですよね。動物は恩に対して恩で返すというのはあんまりないかもしれないですけど、人間だけが許された恩返しっていうことを、僕は当たり前にしようと思ったのが、徳島でする理由です。
- 川崎氏/それも先程おっしゃってた、自覚っていうものの1つであるっていうふうに受け 取ってもいいですか。
- 樫山氏/そうですね。なんで生まれてきて、生まれた命をいただいた中で、どういうこと を成し得るかいうことを決めることがまず、自分の自覚ですね。
- 川崎氏/なるほど。ありがとうございます。続きまして里見さんよろしいですか。里見さんにとってずっと第一に行ってきたアントレプレナーシップ(起業家精神)って何でしょう。周りにもそれを広げていこうとされているじゃないですか。つまり使命感を持ってされているわけですよね。

- 里見氏/僕がいろんなところで小学校とか中学校とか高校とか、お話させてもらっているんですけども。僕が言う起業家、起業家というのはアントレプレナーというのですが、基本的には社長になるとか代表になるというのがアントレプレナーと思われますが、僕は勝手にその意味を解釈して、アントレプレナーっていうものは、夢を自ら探してそして挑戦する人、というふうに定義づけています。夢を自ら探して挑戦する人。例えば親が医者だから「医者になれ」って言われて医者になるのではなくて、地域で医療をやっていきたいから医者になるんだっていうことを、医者になれなくてもそういうことを目指して努力をしてる人は全て、アントレプレナーなのかなって思います。要は自ら自分の頭で考えて行動する人、そしてそれに挑戦してる人は全て、子供に限らず学生に限らずアントレプレナーと思っています。そういう人たちと一緒に徳島を良くしたいし、悩んでたら相談に乗ってあげたいしっていうのをライフワークとしています。
- 川崎氏/ありがとうございます。きょうは学生の方もたくさん来られてるんですけども、 里見さんのおっしゃる、夢を自ら探して挑戦する人、そうした方が増えると、こ の徳島って何がどう良くなりますか。
- 里見氏/これもよく話しています。僕が言ってる起業っていうのはベンチャーではないで す。大学発ベンチャーを起こしていきましょうという話では全くなくて、真逆の スモールビジネスです。自分のなりわいとして学習塾を開くでもいいしパン屋を やるでもいいですし、雑貨を作って販売する、農作物を作って加工して販売する でもいいです。そういうスモールビジネスを提案しています。何がどう良くなる のかといいますと、そういうアントレプレナーの方を、なりわいとする方をお手 伝いさせていただくのを目標としているのが、1000 万円の売り上げを挙げる方。 1000 万の売り上げ挙げられたら、大体300 万くらいの収入になると思います。1000 万円の売り上げ、挙げる方を徳島で1000人つくろうという目標を勝手に立ててま す。そうすると経済規模として、1000万掛ける1000人で100億円になるんですね。 100 億円の経済規模がこの徳島で生まれていくと。しかも、その経済規模だけでは ありません。徳島はよく知事が言ってるんですけども、課題がたくさんあります。 課題先進県です。高齢化問題であったりとか、過疎の問題であったりとか、いろ んなものが課題としてあるので、それをビジネスという手法を用いて解決する、 そういうスモールビジネスをする方が 100人・1000人生まれてくれば、徳島が良 くなってくると信じています。ちゃんと地域に根付いて、地域のために活動して 地域からお金を頂く、そういう生き方もあります。社会貢献性、地域とのつなが りというものを今の若者も、うすうすと求めてるんじゃないかなと思っているの で、その手法の1つが創業という形を、提案させてもらってまいす。

- 川崎氏/ありがとうございます。ここまでしっかり熱が伝わってきました。そういった中で、見ていて皆さん分かると思うんですけども、決して受動的ではなく。自分から一歩踏み出す方ばかりです。
 - それぞれにお伺いします。この地域の中で誰を幸せにしたいですか。どなたを大 事にしたいですか。
- 久米氏/今のご質問と逆なことを申し上げるかもしれませんけれども。自分がやりたいことが、人のため、世のためになる。やはり自分がというのが、前に必要なんじゃないかと思います。付加価値を付けた社会人になることが先ではないのかと思っております。
- 伊勢氏/私は薬局をしていますので、やはり薬局に来てくださる患者さま。また、通院が 困難で薬局に来られない患者さん、そういった方に何かできればと思います。ま た、スタッフもそうですし、また私にとっては家族も大事です。
- 樫山氏/親に対する恩返しというので、家族というのが一番大きいんですけれども。自分 自身を幸せにできない人間が、他人を幸せにすることはできないと思います。ど れだけの人を関わって、どれだけの人を幸せにしていけるかっていう挑戦かなと 思ってます。
- 里見氏/僕は自慢ではないんですけども、人より本当に苦労してきたと思っています。病気のことも含め、倒産も非常に大きな決断でした。今の生き方、誰かのために何かをする、それで感謝されたことが自分のためになり、自分もうれしいという、いい循環を回していくことに気付きました。今は本当に良い循環で回ってきているなというふうに感じます。
- 川崎氏/ありがとうございます。皆さん、幸せの形として、誰かのために何かをする、ご 自身がどうありたいか、そこを上手にリンクさせているように思います。 まず自分と向き合うということが大事なんだと教えていただいたように思います。 そして、次にどうアクションを起こせばいいのか事例がありましたら、教えてく ださい。
- 伊藤氏/よく大学生とかに「将来何をしたいのか分かりません」という相談とか、多々受けることもあります。やっぱり自分の原点というか原動力になっているものを、 自分だけで探すのは非常に大変かなという気がします。人と交わったりですとか、

何か新しいことを人とやってみたりとか、そういう人と交わることで、自分について気付くという機会も多いと思います。しかし、思い付かないとか、機会がないとかっていうことであれば、立ち止まることなく、例えばインターンシップもそうですけれども、そういったところで新しいことにチャレンジしてみるとかっていうことも、すごく大事かなと思います。あと個人的には、やりたいことが決まらないと、やりたいことが見つからないは、違うと思っていて、決められないだけ、というような気がしています。ぜひ期限を区切って、いついつまではこれをやってみるというふうに決めて、1つ頑張ってやってみるという経験もすごく大事かなと思います。

川崎氏/ありがとうございます。会場の皆さんから、何かご質問等々ないですか

質疑応答

佐野氏/今日はありがとうございます。一般社団法人しこくソーシャルデザインラボという団体をしています。

私が企画したイベントで若者の声に、まだ教育や地域、行政が追い付いてないと思ったんです。新しく時代を創っていこう、イノベートしていきたいっていう根っことか情熱を持つ若者に、地域・教育・行政が追い付いていくような場として、この COC がなっていったらいいと期待しています。では、どうやったら若者の思いをくみ取れるのか。計画からはみ出たことがもし生まれるような、計画的な無計画といいますか。そういった事業の中でいかに、計画を超えた若者の動きが起きやすいように創るにはどうすればいいんだろうと思っています。何かアイデアがあったら教えていただきたいと思います。

- 里見氏/やっぱり、場づくりだと思います。若者たちが意見を言えるような場であったり、何かチャレンジしたいと思ったときに、チャレンジができるような場、アドバイスができるようなそういう場。また、高校生と大学生、他大学と連携したような垣根を越えた、そういうような場ですよね。そういう場づくりを僕たちがまず提供する必要があるのかなと思います。
- 伊藤氏/僕はよく学生と話し、授業でしていますが、考えて議論して、アクション、動いてもらうということを必ずやるようにしてます。また期限を切って、本当に小さな1歩でもいいので何かやってもらって、また集まる。その繰り返しが1つは大事かなと思います。自分の関心のあるテーマを、プロジェクト化して行い、実践していくというのがすごく大事かなと思います。場づくりの中で、実践のサポー

トができるような人がいたらいいんじゃないかなと思いました。 あともう1つは、もし高校生だという話であれば、一回外連れてったらいいんじゃないかなという気はします。ずっと同じ所にいても、自分たちの魅力って気付けないっていうのは多々あるかなと思います。

里見氏/ちょうど1年前なんですけども、とくしまマルシェのような形を新町のボードウォークで、トモニ SunSun マーケットっていうのをスタートさせていただきました。 それは NPO 法人チャレンジサポーターズが、若者のチャレンジをサポートしています、取り組みの1つに、トモニ SunSun マーケットっていう、まちづくりがあります。学生たちに10万円あったらどれだけのことがあの場所でできるか、どのような集客ができるかということを、学生たちにチャレンジしてもらってます。そのような場所をどんどん創っていく、ということが大事かなと思います。

川崎氏/ありがとうございます。地域とは最終的に「人」ではないかと思います。つまり、どういった人たちが増えれば地域がこんなに元気になるのか、また、自分自身がどういった人になれば、この地域に何か熱を加えることができるのか。そういったキーワードが、たくさん並んだんじゃないかなと思います。総じて皆さん、目の前の目標であったりとか、課題であったりとか可能性であったりとか、そういったものに対して小さなものをコツコツと積み上げてきた結果、今に至っています。そして気が付けば周りへの影響力を持てる人になっているという、そういった素晴らしい輝かしい方々にパネラーとしてご参加いただきました。今一度パネラーの皆さまに、盛大な拍手をもって終わりたいと思います。

閉会挨拶

徳島大学 理事·副学長 吉田和文

今日は、大変お忙しいところ、最後まで長時間にわたりましてご清聴いただきまして本 当にありがとうございました。私どもといたしましては、地方創生のためにもこの取り組 みをぜひとも成功させるべく、本事業に取り組む決意を新たにしたところでございます。

最後になりましたが、皆さま方におかれましては、どうか本事業の推進のためにさらなるお力添えをお願いをいたしますと共に、本日ご参加の皆さま方のますますのご活躍とご健勝をお祈りをいたしまして、結びの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



パネルディスカッションの様子 ① (左から株式会社グローバル・ アシストの伊勢佐百合専務・管理 薬剤師、日本フネン株式会社の久 米徳男代表取締役社長)



パネルディスカッションの様子 ② (左から四国大学地域教育・連 携センターSUDAchi推進 室の里見和彦クリエーター、有限 会社樫山農園の樫山直樹専務取 締役)



パネルディスカッションの様子 ③ (左から伊藤氏、川崎コーディネーター)

教育プログラムの改善

「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の開発・実施

本学COCプラス事業では、徳島県内に就職して地域の産業振興と地域課題の解決に積極的に参画する「元気印イノベーション人材」を育成するために、必要となる「4つの能力」と「2つの確信」を付与するための教育カリキュラム「元気印イノベーション人材育成プログラム」の開発・実施を進めている。(各学部の地域志向科目の履修体制を次頁に付す。)

(1) 地域理解のための教育体制の整備

各学部において「地域の文化や地域への理解・愛着を深める」ための地域志向科目の整理を行い、平成28年度から入学者全員が履修できる体制を整えた。

①総合科学部、理工学部、生物資源産業学部 教養教育に新設される「地域科学教育科目群」から1科目2単位以上の選択を卒業要件に加えた。

②医・歯・薬学部

「地域科学教育科目群」以外の科目群または専門科目初年次の専門科目にて、入学者全員に地域の医療・福祉の課題を学習させると共に、教養教育の中に指定された地域志向科目を1科目2単位以上履修するよう、履修科目を整理した。

(2) 専門教育プログラムの準備

本プログラムでは、各学部のカリキュラムの中から4分野の「当該業種に必要な専門分野の知識・理解」に関わる科目をパッケージとして提示して、その中から所定単位数を学生に選択履修させることを検討している。前述の地域科学教育科目群に加え、①「専門教育プログラム」、②「寺子屋式インターンシップ」 を合わせて原則20単位以上を取得することで、学長名の修了証を授与する体制に向けて、各学部にて専門教育プログラムの準備を進めている。

①「専門教育プログラム」の準備

各学部の専門教育における地域志向科目の位置付けの検討を行った。生物資源産業学部においては、専門科目の中に必修科目として計19単位分の地域志向科目を組み込み、専門教育プログラムの開始に向けて調整を進めた。総合科学・理工・医・歯・薬学部については、専門教育における地域志向科目の位置付けの検討を行った

②「寺子屋式インターンシップ」の準備

インターンシップ等の社会活動に積極的な学生と、事業協働機関の社会人を招いた交流会を実施し、正課科目としてのインターンシップの実施に向けた学生と 企業のニーズ及び課題意識の抽出を行った。

◆総合科学部の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

教養教育科目								
科目分類	科目名			履修単位数				
地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳島を考える/地域の自然と食材/埋もれた文化遺産 I 【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経				選択必修(2 単位以上)			
	営論/まちつ	びくり入門/地 記る徳島県/オ 1た文化遺産 II						
一般教養教育科目 (歴史と文化)	【後期】空海	すと歩く〜歩き	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から 2 単位以 上)					
一般教養教育科目 (人間と生命)					- (対象となる地域志向科目なし)			
一般教養教育科目 (生活と社会)	【後期】地域	はコンテンツと	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から 2 単位以上)					
一般教養教育科目 (自然と技術)	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る 【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災/ 災害に備える				選択(地域志向科目を含む 科目群の中から 4 単位以 上)			
一般教養教育科目 (グローバル化教育科 目)	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは 【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力論 - この 貧 困 と 紛 争 の 尽 き な い 世 界 で - / Global Communication-Peer learning on culture of Tokushima- /「モラエスの徳島」~グローバリズムと異邦人~(e ラー ニング科目)				選択(地域志向科目を含む 科目群の中から 4 単位以 上)			
一般教養教育科目 (イノベーション教育科 目)	【前期】スチューデント・アンバサダー				選択(地域志向科目を含む 科目群の中から 2 単位以上)			
L17		Ę	専門科目		<u> </u>			
科目分類			属コース		履修単位数			
	国際教養コース	心身健康 コース	公共政策 コース	地域創生 コース				
実践学習科目 (選択必修 I)	キャリアプラン/短期インターンシップ		選択(地域志向科目を含む科目群の中から8単位以上)					
コース入門科目	地理学の基 礎 I		経営学/地域政策論 I /地理学の基礎 I /地理学の基礎 I /地理学の基礎 I /地 理学の基礎 I / は アラス ロード・ファイン エー・ファイン エー・フィー エー・ファイン エー・フィー エー・エー・フィー エー・エー・フィー エー・フィー エー・エー・フィー エー・エー・フィー エー・フィー エー・フィー エー・フィー エー・フィー エー・フィー エー・フィー エー・フィー	経営学/地域政策 論 I /地理学の基礎 I /地理学の基礎 I /まちづくり 地域社会論	選択(地域志向科目を含 む科目群の中から 12 単			
コース基礎科目		スポーツ社会学/スポーツ経営学	地域経済論	環境アート/空間 情報論 I /地域調 査法 A/地域調査 法 B/地域計画 I	む科目群の中から 12 単			
コース応用科目		コミュ学/ 地域スポー ツ文ポーツスポーツ スポーツマ ーケティン グ論		地域文化論 I /地域文化論 II /地域文化論 II / 地域構造論/空間情報論 II /地域变容論/地域計画 II /地域政策論 II / 地域調查演習 A /地域調查演習 B / スポーツ社会学	む科目群の中から 16 単位以上)			

◆医学部医学科の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	科目名	履修単位数
教養教育科目	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳島を考える/地域の自然と食材/埋もれた文化遺産 I 【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地域社会/埋もれた文化遺産 II	- (履修要件ではない)
	一般教養教育科目 (歴史と文化) 一般教養教育科目 (人間と生命)	【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界〜	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から2単位) - (対象となる地域志向科 目なし)
	一般教養教育科目 (生活と社会)	【後期】地域コンテンツと知財教育(e ラーニング科目)	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から2単位)
	一般教養教育科目 (自然と技術)	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る 【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災 /災害に備える	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から2単位)
	一般教養教育科目 (グローバル化教育 科目)	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは 【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力 論 - この貧困と紛争の尽きない世界で - / Global Communication-Peer learning on culture of Tokushima-/「モラエスの徳島」〜グローバリズムと異邦 人〜 (e ラーニング科目)	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から2単位)
	一般教養教育科目 (イノベーション教 育科目)	【前期】スチューデント・アンバサダー	
専	社会医学	予防医学/公衆衛生学/法医学	必修(計6単位)
門 科 目	臨床実習	地域医療学	必修(計6単位)

◆医学部医科栄養学科の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	科目名	履修単位数
教	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門	選択必修(2単位)
教養	地域科子教育科目		
教		/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/ (本見な表表表表)	
		徳島を考える/地域の自然と食材	
育		/埋もれた文化遺産 I	
科		【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政	
目		経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統	
		計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地	
	(-14.)(14.1-41	域社会/埋もれた文化遺産Ⅱ	
	一般教養教育科目	【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界〜	選択(地域志向科目を含む
	(歴史と文化)		科目群の中から4単位)
	一般教養教育科目		- (対象となる地域志向科
l .	(人間と生命)		目なし)
	一般教養教育科目	【後期】地域コンテンツと知財教育(e ラーニング科目)	選択(地域志向科目を含む
	(生活と社会)		科目群の中から4単位)
·	一般教養教育科目	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る	選択(地域志向科目を含む
	(自然と技術)	【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災	科目群の中から4単位)
		/災害に備える	
	一般教養教育科目	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは	- (履修要件ではない)
	(グローバル化教育	【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力	
	科目)	論 - この貧困と紛争の尽きない世界で - / Global	
		Communication-Peer learning on culture of	
		Tokushima-/「モラエスの徳島」~グローバリズムと異邦	
		人~ (e ラーニング科目)	
	一般教養教育科目	【前期】スチューデント・アンバサダー	
	(イノベーション教		
	育科目)		
専	給食経営管理論	給食栄養管理論/給食運営管理論/給食栄養管理論実習/	必修(計6単位)
門	心区社口日子皿	給食運営管理論実習	21岁 (日 0 千世)
科			
-			
	臨地実習	公衆栄養学実習(保健所等)	選択必修(計1単位)
		給食経営管理論実習(学校)	必修(計1単位)

◆医学部保健学科の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

Ť	本学的保険子科の地域心内科白腹形をガノ(十)		13% 20 - 1 / <u>X</u> /		
	1-10/00	1-1	 看護学専攻	放射線技術	検査技術
			自成于分外	科学専攻	科学専攻
教養教育科目	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳島を考える/地域の自然と食材/埋もれた文化遺産 I 【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/	必修(2単位/ が可能)	その他の地域志向	科目で読み替え
	一般教養教育科目	統計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地域社会/埋もれた文化遺産 II 【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界	選択(地域志向	選択(地域志	選択(地域志向
	(歴史と文化)	【後期】至海と少く~少さた時の世介~	展択(地域芯内 科目を含む科 目群の中から 4単位以上)		科目を含む科 目群の中から 2単位以上)
	一般教養教育科目 (人間と生命)		- (対象となる)	也域志向科目なし)
	一般教養教育科目 (生活と社会)	【後期】地域コンテンツと知財教育 (e ラーニング科目)	選択 (地域志向 科目を含む科 目群の中から 4単位以上)	選択(地域志 向科目を含む 科目群の中か ら2単位)	選択(地域志向 科目を含む科 目群の中から 2単位以上)
	一般教養教育科目 (自然と技術)	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る 【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理) 地域の環境と防災/災害に備える	選択(地域志向 科目を含む科 目群の中から 4単位以上)	選択(地域志 向科目を含む 科目群の中か ら4単位)	選択(地域志向 科目を含む科 目群の中から 2単位以上)
	一般教養教育科目 (グローバル化教育科目)	【前期】グローバル社会に必要な地域 医療とは 【後期】グローバル化時代の地域医療 を考える/国際協力論-この貧困と紛 争の尽きない世界で-/Global Communication-Peer learning on culture of Tokushima-/「モラエスの 徳島」〜グローバリズムと異邦人〜(e ラーニング科目)	選択(各科目群につき2単位まで単位換算可能)	選択(各科目群につき2単位まで、一般教育科目群の世紀で、科目群の世紀に振り替え可能)	選択(各科目群につき2単位まで単位換算可能)
	一般教養教育科目 (イノベーション 教育科目)	【前期】スチューデント・アンバサダ ー			
専	(看護学専攻)	地域看護学概論	必修(1単位)		
門科	(放射線技術科学 専攻)	保健科学		必修(1単位)	
目	(検査技術科学専 攻)	保健学			必修(1単位)

◆歯学部の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	刊付日度ドマック(十成 20 千戸) 科目名	履修单	単位数
			歯学科	口腔保健学科
教養教育科目	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳島を考える/地域の自然と食材/埋もれた文化遺産 I 【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地域社会/埋もれた文化遺産 I	- (履修要件ではない	
	一般教養教育科目 (歴史と文化) 一般教養教育科目 (人間と生命)	【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界〜	選択(地域志向科目 を含む科目群の中か ら 18 単位)	選択(地域志向科目を含む科目群の中から 16 単位)
	一般教養教育科目 (生活と社会)	【後期】地域コンテンツと知財教育(e ラーニング科目)		
	一般教養教育科目 (自然と技術)	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る 【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域 の環境と防災/災害に備える		
	一般教養教育科目 (グローバル化教育科目)	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは 【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力論-この貧困と紛争の尽きない世界で・/ Global Communication-Peer learning on culture of Tokushima-/「モラエスの徳島」〜グローバリズムと異邦人〜(eラーニング科目)		
	一般教養教育科目 (イノベーション 教育科目)	【前期】スチューデント・アンバサダー		
専門科目	(口腔保健学科) 口腔保健福祉学	現代社会と福祉/地域福祉の理論と方法/福祉行財政と福祉計画/社会保障/高齢者福祉/障害者福祉/児童・家庭福祉/公的扶助/保健医療サービス		選択(地域志向科目 を含む科目群の中か ら 15 単位)
	(口腔保健学科) 臨地実習	口腔保健衛生学臨地実習		必修(4単位)

◆薬学部の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	科目名	履修単位数
教	一般教養教育科目	【後期】空海と歩く~歩き遍路の世界~	選択(地域志向科目を含む
養	(歴史と文化)		科目群の中から4単位)
教	一般教養教育科目		- (対象となる地域志向科
育	(人間と生命)		目なし)
科	一般教養教育科目	【後期】地域コンテンツと知財教育(e ラーニング科目)	選択(地域志向科目を含む)
目	(生活と社会)		科目群の中から4単位)
	一般教養教育科目	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る	選択(地域志向科目を含む
	(自然と技術)	【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災	科目群の中から4単位)
	40 44 44 44 450	/災害に備える	
	一般教養教育科目	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは	選択(各科目群につき4単
	(グローバル化教育	【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力	位、合計6単位まで単位換
	科目)	論 - この貧困と紛争の尽きない世界で - / Global	算可能)
		Communication-Peer learning on culture of Tokushima-/「モラエスの徳島」〜グローバリズムと異邦	
		Tokusiiiiid-/ 「モリエスの信息」 ~ クローバリスムと異邦 人~(e ラーニング科目)	
		【前期】スチューデント・アンバサダー	
	イノベーション教		
	育科目)		
	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門	
		/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/	
		徳島を考える/地域の自然と食材	
		/埋もれた文化遺産 I	
		【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政	
		経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統	
		計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地	
		域社会/埋もれた文化遺産 Ⅱ	
専	(薬学科)	薬学体験実習/社会薬学 2	必修(薬学科計2単位、創
門			製薬科学科1単位)
科	(創製薬科学科)	薬学体験実習	
目			

◆理工学部の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	科目名	履修単位数
教養教育科目	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳島を考える/地域の自然と食材/埋もれた文化遺産 I 【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統計データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地域社会/埋もれた文化遺産 II	選択必修(2 単位以上)
•	一般教養教育科目 (歴史と文化) 一般教養教育科目	【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界〜 【後期】ニュービジネス概論(理工学部2年次学生が対象)	選択(地域志向科目を含む 科目群の中から6単位以上 (3授業科目群から各2単 位以上))
	(人間と生命) 一般教養教育科目 (生活と社会)	【後期】キャリアプラン(理工学部2年次学生が対象) 【後期】地域コンテンツと知財教育(eラーニング科目)	仏以上)) 「ニュービジネス概論」及 び「キャリアプラン」の 2 科目 4 単位は、平成 28 年
	一般教養教育科目(自然と技術)	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る 【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災 /災害に備える	度入学生が履修する平成 29 年度より教養教育科目 として開講予定。
	一般教養教育科目 (グローバル化教育 科目)	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは 【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力 論 - この貧困と紛争の尽きない世界で - / Global Communication-Peer learning on culture of Tokushima-/「モラエスの徳島」〜グローバリズムと異邦 人〜 (e ラーニング科目)	
	一般教養教育科目 (イノベーション教 育科目)	【前期】スチューデント・アンバサダー	
専 門 科	専門科目	プロジェクトマネジメント基礎 短期インターンシップ 職業指導	地域志向の考え方の地域 志向の位置付けについて、 現在学部で検討を進めて
目	大学院専門科目(早 期履修科目)	(環境保全分野) 化学環境工学特論/分析・環境化学特論/分離工学特論/水循環工学特論/都市・地域計画論/地域環境情報工学/危機管理学 (環境エネルギー分野) 応用流体力学特論/流体エネルギー変換工学/熱力学特論/複雑系システム工学特論/制御応用工学特論/ヒューマン・センシング/フォトニックデバイス/高電圧工学特論/パワーエレクトロニクス特論/自律知能システム/ナノ材料工学/エネルギー環境工学/エネルギー変換システム論	いる。

◆生物資源産業学部の地域志向科目履修マップ(平成28年度)

	科目分類	科目名	履修単位数
教	地域科学教育科目	【前期】食の地域経済学/ボランティア・パスポート入門/	選択必修(2 単位以上)
養		ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会/徳	
教		島を考える/地域の自然と食材	
育		/埋もれた文化遺産 I	
科		【後期】日本農業を考える/ボランティア実践/地方行政経	
目		営論/まちづくり入門/地域環境と持続可能な社会/統計	
		データから見る徳島県/ボランティアリーダーと語る地域	
		社会/埋もれた文化遺産Ⅱ	
	一般教養教育科目	【後期】空海と歩く〜歩き遍路の世界〜	選択(地域志向科目を含む
	(歴史と文化)		科目群の中から6単位以上
	一般教養教育科目		(3 授業科目群から各 2 単
	(人間と生命)		位以上))
	一般教養教育科目	【後期】地域コンテンツと知財教育(e ラーニング科目)	
	(生活と社会)		
	一般教養教育科目	【前期】気象災害を防ぐ/災害を知る	
	(自然と技術)	【後期】地震・火山災害を防ぐ/(理)地域の環境と防災/	
		災害に備える	
	一般教養教育科目	【前期】グローバル社会に必要な地域医療とは	選択(地域志向科目を含む
	(グローバル化教	【後期】グローバル化時代の地域医療を考える/国際協力論	科目群の中から 2 単位以
	育科目)	- この貧困と紛争の尽きない世界で - / Global	上)
		Communication-Peer learning on culture of Tokushima-	
		/「モラエスの徳島」~グローバリズムと異邦人~(e ラー	
		二ング科目)	
	一般教養教育科目	【前期】スチューデント・アンバサダー	選択(地域志向科目を含む
	(イノベーション		科目群の中から 2 単位以
	教育科目)		上)
専	専門科目(1年次)	【前期】経済学基礎(2 単位) / 生物生産フィールド演習(1	
門		単位)	
科		【後期】経営学入門(2単位)/起業体験実習(1単位)	必修(計6単位)
目	専門科目(2年次)	【後期】地域資源経済学(2単位)/フードシステム論(2	
		単位)/生物資源産業学実習(2 単位)	必修(計6単位)
	専門科目(3年次)	【後期】アグリビジネス起業論(2単位)/食品マーケティ	
		ング論(2 単位)/食品開発プロジェクト演習(1 単位)/	
		インターンシップ(2 単位)	必修(計7単位)

修了要件

入学者全員を対象とする「地域理解のための教育科目」を含めて、20単位以上を取得することが必要です。 修了すると、学長名の修了証が発行され、地域への就職活動に役立てることができます。

入学者全員が対象

地域理解のための教育(2単位)

「地域の文化や地域への理解・愛着を深める」のための地域志向科目を履修

希望者が対象

専門分野の知識・理解を進める

『専門教育プログラム(16単位)』

学部区分毎に示す科目群の中から合計16単位以上を取得

職業人意識とコミュニケーション力を育成する

『寺子屋式インターンシップ(2単位)』(※開発中)

教員、インターンシップ学生、受入先の"メンター"が連携して、事前学習からインターンシップ、 事後の振り返りまで「課題、レポート、ディスカッション」を繰り返す

「地域理解のための教育科目」を含めて 20単位以上を取得

「学長名の修了証」の発行(地域への就職活動に活用)

このプログラムは、県内自治体や主要な民間企業、NPO法人、経済団体が緊密に連携して取り組んでいる事から、徳島県内に就職を希望する人は、この修了証を有効に活用できます。



●プログラムに関するお問い合わせ

徳島大学COCプラス推進本部事務局 (研究・社会連携部地域創生課内)

徳島市南常三島町1丁目1番地(地域創生·国際交流会館3F)

TEL: 088-656-9910 FAX: 088-656-9880 e-mail: coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp



徳島がおもしろい4つの分野

1. 次世代技術分野

LEDの発明者中村修二さんは徳大工学部の卒業生。徳島県は LEDの出荷額で全国1位。徳島県に集積した世界有数のLED研究 開発基盤がおもしろい。

2. 医療·福祉分野

徳島大学、徳島文理大学、大塚製薬、そして徳島県が連携・協力 して、糖尿病の世界レベルの研究拠点を育成する「『健幸』イノ ベーション構想」がおもしろい。

3. 6次產業化分野

すだち、阿波尾鶏、カリフラワー、洋ラン、生しいたけの生産額は 全国1位。徳大には生物資源産業学部も発足。農林水産業のイノ ベーションがおもしろい。

4. 地域づくり・観光分野

「葉っぱビジネス」の上勝町、サテライトオフィスの神山町、世界から観光客が訪れる祖谷渓。全国から若者が集まるマチ☆アソビ。徳島県の地域づくりがおもしろい。

みなさんへの期待

地方は若者の力を求めています。若者のアイディア、行動力が活かせる場です。若者の力で地域が変えられる。やりがいや達成感がある。だからおもしろい。ぜひみなさんに、徳島県を変えてほしい。徳島大学は、そのために必要となる能力と資質を育成するプログラムを準備しました。

とくしま元気印 イノベーター教育プログラム



この教育プログラムは、少しでも多くの徳大卒業生が徳島県内で活躍することを 目標にしたもので、教養教育と専門教育の2つの部分で構成されます。まず、教 養教育を履修してください。その際、常三島キャンパス(総合科学部、理工学部、 生物資源産業学部)と蔵本キャンパス(医学部、歯学部、薬学部)では履修科目 が異なりますので、注意してください。

地域理解のための 教育科目 (人学者全員が対象)

教養教育科目 ※「教養教育授業概要(シラバス)」p.14を参照

☆地域科学教育科目群

前期の科目

- 食の地域経済学
- ボランティア・パスポート入門
- ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会
- 徳島を考える
- 地域の自然と食材
- 埋もれた文化遺産 I

後期の科目

- ●日本農業を考える
- ボランティア実践
- 地方行政経営論
- ●まちづくり入門
- 地球環境と持続可能な社会
- 統計データからみる徳島県
- ボランティアリーダーと語る地域社会
- 埋もれた文化遺産 Ⅱ

☆地域志向科目

(「地域科学教育科目群」以外の科目で時間割に☆印のある科目)

前期の科目

- 気象災害を防ぐ
- 災害を知る
- ●グローバル社会に必要な地域医療とは
- スチューデント・アンバサダー

後期の科目

- 空海と歩く〜歩き遍路の世界〜
- 地震・火山災害を防ぐ
- (理)地域の環境と防災
- 災害に備える
- グローバル化時代の地域医療を考える
- 国際協力論ーこの貧困と紛争の尽きない世界でー
- Global Communication
- -Peer learning on culture of Tokushima -
- 地域コンテンツと知財教育 (eラーニング科目)
- 「モラエスの徳島」 ~ グローバリズムと異邦人 ~ (eラーニング科目)

(注)医学部、歯学部、薬学部には、専門科目の中にも地域志向科目が 設定されています。

【履修要件】

●総合科学部、理工学部、生物資源産業学部の学生 「地域科学教育科目群」から1科目2単位以上の履修が卒業要件となっています。

●医学部(医科栄養学科、保健学科)の学生

「地域科学教育科目群」から1科目2単位以上の履修が卒業要件となっていますが、 「地域志向科目」から2単位の履修で代えることができます。

●医学部医学科、歯学部、薬学部の学生

地域の理解のために「地域志向科目」から2単位の履修が望まれます。

(注)実際の履修内容は各学部で十分確認してください。

2

専門分野の知識・理解を進める専門教育プログラム

(2年生以降の希望者が対象

卒業後に徳島県内で活躍することを希望する学生に、徳島県の未来を創造する4つの分野に合わせた専門教育プログラムを提供します。①次世代技術関連分野(LED・自動車・ロボット等)、②医療・福祉関連分野、③6次産業化関連分野、④地域づくり・観光・ICT関連分野の4つの分野に関連する学部での教育により、地方創生の担い手となる人材を育成します。修了者には学長からの修了証を発行し、地域への就職に役立てることができます。

4つの分野と関連する学部



【分野名】 次世代技術関連分野 (LED・自動車・ロボット等) 教育プログラム 【関連学部名】

● 理工学部



【分野名】 医療・福祉関連分野教育 プログラム 【関連学部名】 ● 医学部

● 歯学部



【分野名】 6次産業化関連分野教育 プログラム 【関連学部名】

生物資源産業学部



【分野名】 地域づくり・観光・ICT関連分野 教育プログラム 【関連学部名】 ● 総合科学部

3

このプログラムで育成する能力・態度・志向性

4つの能力

1. 地域文化や地域への理解・愛着

徳島の過去から現在に至る歴史・文化や県民の営みに対する正しい知識を身につけた上で、徳島を愛し、徳島の地でその将来の発展に貢献しようとする強い意欲を持つこと

2. 専門分野の知識・理解

徳島の発展のために、自らが貢献しようとする各分野において、高度な専門知識や技術を修得した上で、職業人として活用し、改善さらにはイノベーションできる能力を持つこと

3. 職業人意識とコミュニケーションカ

プロフェッショナルとして、自らの職業やその専門分野に自覚と誇りを持ち、職場はもとより異業種の人々や他者 との間で、十分なコミュニケーションができること

4. 課題に挑戦する元気覇気

困難な課題や大きな壁に直面しても、それを乗り越え、克服しようとするチャレンジ精神と粘り強さを身につけること

2つの確信

1. 地域の将来に対するビジョン

将来にわたる地域の潜在的可能性・将来像への確信を抱けるようになること

2. 地域で暮らすことのメリット

ライフワークバランスを踏まえた人生設計への確信を抱けるようになること

ボランティアパスポートについて

1. 経緯

■ H25年度

・ COC事業の平成26年度申請に向けて、全学共通の教育改革プログラムを明確 に打ち出していく必要があり、県の事業と連携して、一定期間、ボランティア体験 等を行った学生には、大学から単位認定を行うとともに、県知事から表彰する制度 とするプログラムの検討。

■H26年度

・ 徳島大学のH27年度前期共通教育科目として、「地域におけるボランティア体験」 を開設することが決定。今後を考えると、学生生活支援課が窓口となり、一元管理 が望ましいため、協議を行う。(学生支援課では、学内・学外活動を問わず、学生 個人のボランティア履歴を統一的に登録するシステムを構築する構想がある。)

■H27年度

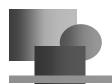
- ・4.16 徳島大学で「ボランティアパスポート」の説明会実施。 ※H27年度から徳島大学で当該事業を先行実施。
- ・10.22 三大学(徳島大学、徳島文理大学、四国大学)でボランティアパスポート 制度の導入に係る協議を実施。

■H28年度(予定)

・ 徳島大学、徳島文理大学・同短期大学部でボランティアパスポート制度を導入。

2. ボランティアパスポートとは

本県の地域の課題解決に挑戦し、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的に、徳島大学、徳島文理大学及び同短期大学部と連携し、大学の教育活動の一環として、学生がパスポートを活用して地域のボランティア活動に参加するもの。



ボランティアパスポートの概要

ボランティアパスポートとは?

徳島県の地域の課題解決に挑戦し、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的に、 県と徳島大学、徳島文理大学が共同で開発し、学生の皆さんが県内各地域でボランティア活動に従事した際に、 その活動記録を証明するためのもの。

大 学: 学生の地域でのボランティア活動を<u>単位として認定</u>(所定講義や体験実習会実施)

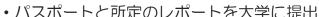
徳島県:緑・赤・青の3段階のパスポートを製作、ボランティア情報の提供、表彰制度の創設

→学生の地域でのボランティア活動を促進し、学生の力で地域の活性化・課題解決!

ボランティアパスポートの仕組み

1st 緑のパスポート

- 所定講義に履修登録した学生に配布
- ・所定講義の受講とボランティア活動に 4〇時間以上従事



2単位

2nd 赤のパスポート

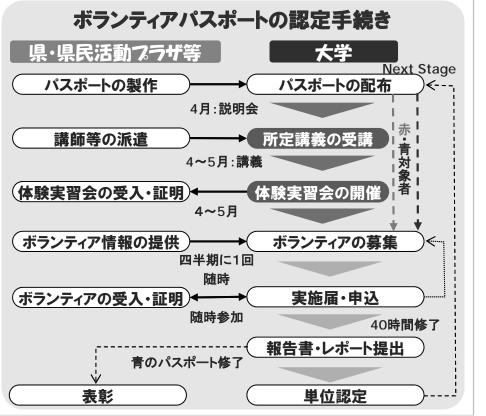
- 緑のパスポート修了者に配布
- +40時間のボランティア活動に従事 (累計80時間)
- ・パスポートと所定のレポートを大学に提出



3rd 青のパスポート

- ・赤のパスポート修了者に配布
- +40時間のボランティア活動に従事 (累計120時間)
- パスポートと所定のレポートを大学に提出

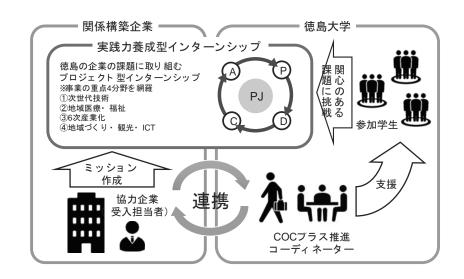




実践力養成型インターンシップの試行準備

学生が1ヶ月程度の期間従事する実践力養成型インターンシップの試行に向けての準備を行った。

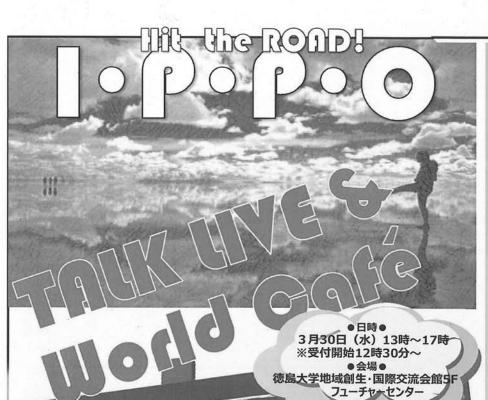
① 学内における過去のインターンシップの実績をもとに、より実効性の高い インターンシップの事業スキームの開発を行った。(下図参照)



② 徳島県下にて雇用創出と就職率向上が期待される4分野事業所及び当該事業関連企業・団体を中心に、実践力養成型インターンシップの連携先としての選出を行った。

来年度は、訪問・聞き取りを実施する中で受入企業との関係構築を図り、 経営課題やプロジェクト型で取り組めるプログラムの開発に移行する。

③ 実施にあたり、学内における既存カリキュラムである「短期インターンシップ」の対象活動に組み込み、参加者への単位授与及び保険問題への対応を図るための学内調整を行った。



長期インターンシップ・海外留学・学生団体参画など

「自分」としての"一歩"を踏み出す経験をした学生たちが

07.ログラム 0

座談会を開きます。

1)Introduction - イントロダクション -

COCフラス とくしま元気印イ/ベーション人材育成フログラム 事業説明

2) Talk Time - トークタイム -

川崎克寛 - 徳島大学COCフラス推進コーティネーター

3) Talk Live - トークライフ -

実践型インターンシップ、海外留学経験者によるトーク会

4)World Cafe - ワールドカフェ -

企業・大学関係者・学生によるグループワーク

5)Information - インフォメーション -

「学生の学生による住み暮らしたいまち新しい働き方開発Labo」 (通称あたラボ)と事業説明会開催のお知らせ

●対象者●

学生:徳島大学学生 ☆誰でもウェルカム☆

企業:COCフラス事業参画企業、インターシシップ実施企業または実施検討中企業 大学関係者:キャリア教育関係者、地域づくり関係者、他大学COCフラス担当者

当日は、徳島で活躍されている企業の方々、大学キャリア教育関係者、徳島大学学生をお招きします。 普段出会うことのできない人たちと交流できる「場」「きっかけ」として、 どうどお気軽にご参加ください!!

●参加申込書 氏名		所属団体			
*	*	*			*
連絡先(電話番号・メールアドレス等)				参加人数	
*			*	*	*

<ファシリテーター>

井上琢斗

先端技術科学教育部 (M2)

インターン先:カンボジア NPO日本医療開発機構

"感染症予防のボランティアを!"

ブルベンにあるPreah Kossamak Hospitalにて病院スタッフを対象に 感染症予防に関する教育・支援を 行った。4月からは地域おこし協力隊 として地域の活性化活動を行う。

<パネリスト>



藤井優輝

小林冬馬



池田瑞姫

?

?

●参加学生募集 ●
<u>『学生の学生による</u>
<u>住み暮らしたいまち</u>
新しい働き方開発LABO』
(通称あたラボ)

どんなまちで暮らしていきたいですか? どんな働き方をしたいですか?

皆さん自身が考えた理想実現のため、 私たちCOCプラス事業部がお手伝いします。

●お問い合わせ/お申し込み先●

徳島大学 COCプラス推進本部 地域創生・国際交流会館3F 担当:宮本、森脇

TEL:088-656-9885 FAX:088-656-9880 MAIL:

coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp



一歩踏み出した学生たちによる トークライズ&ワールドカフェ 報告書

> 徳島大学 COC プラス推進本部 2016年3月30日 開催

平成 28 年 3 月 30 日(水)、徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階フューチャーセンターにて、「インターンシップ修了生等によるトークライブ&ワールドカフェ"IPPO"」を開催しました。

▼イベント概要

1. 趣旨

長期インターンシップ・海外留学・学生団体参画などに主体的に取り組み、「自分」としての"一歩"を 踏み出した学生達によるトークライブを開催。主体性を持って取り組んだ学生らの事例、そうした経験の 効果を参加者で共有し、学生・企業・大学関係者で、より効果的なインターンシップのありようについて、 三者の視点から考え共有する場とすることを目的とします。

2. 日時

平成28年3月30日(水)13:00~17:00

3. 場所

徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階 フューチャーセンター

4. 内容

プログラム	時間	担当者	内容
事業説明	13:00 ~ 13:10	宮本、森脇 (COC+事務員)	文科省 地(知)の拠点 COC+事業 とくしま元気印イノベーション人材育成プラグラム 概要説明
トークタイム(講演)	13:10 ~ 13:30	川崎克寛 (COC+コーディネーター)	
トークライブ (パネルディスカッション)	13:30 ~ 15:15	井上琢斗、藤井優輝 小林冬馬、池田瑞姫	「一歩踏み出したきっかけ」 「失敗・挫折経験からの V 字回復」
ワールドカフェ (グループワーク)	15 : 30 ~ 16 : 40	参加者	「皆にとって実りのあるインターンシップってどんなんかいな?」 「より効果的なインターンシップの実現にあたって問題・課題・壁になるものはなんだろう?」 「私たちで効果の高いインターンシップを創り上げるとしたら…明日からの私たちに何ができるだろう?」
アンケート記入	16:40 ~ 17:00		

1. COC+事業説明

平成 27 年 11 月、文部科学省が募集した「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)に徳島大学を申請大学として提案していた「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」が採択されました。

<COC+事業とは>

COC+事業は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

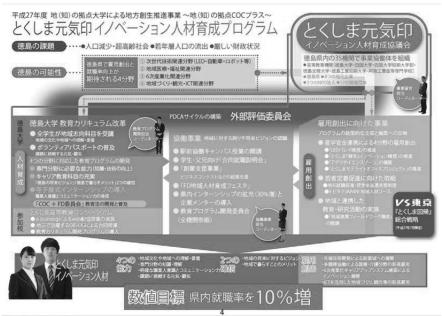
<とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムとは>

人口減少、若年層人口の流出、厳しい財政状況などの徳島の課題に対し、徳島で特に雇用創出と就職率向上が期待される4分野(次世代技術関連分野、地域医療・福祉関連分野、6次産業化関連分野、地域づくり・観光・ICT関連分野)を中心に県内35機関が協働体を組織し、取り組みます。

取り組みとしては、徳島大学教育カリキュラム改革、協働事業、雇用創出に向けた事業の3本柱を掲げており、これらの取り組みを通し、4つの能力2つの確信(下記図参照)を身につけた人材を育成し、県内就職率の向上を目指します。

<徳島大学教育カリキュラム改革―寺子屋式インターンシップ>

徳島大学教育カリキュラム改革の1つとして、寺子屋式インターンシップの開発を行います。寺子屋式インターンシップとは、企業側にはメンターを、大学側にはドンを配置し、相互が密に連絡を取り合いながら事前学習と事後の振り返りを強化した少人数制の実践型インターンシップをさします。



本イベントは、自ら主体的にインターンシップ等に取り組んだ学生を集め、事例を共有することで、 徳島大学が目指す寺子屋式インターンシップの開発に役立てると共に、大学、企業、学生の三者 でより効果的なインターンシップの在り方について共通認識を持つ場として開催いたしました。

2. トークタイム (講演)

徳島大学 COC プラス推進コーディネーターの川崎克寛より、欧米と日本の教育や若者のメンタリティを対比

しながら、地域・企業と大学・学生が出会う場としてのインターンシップの意義について講演をされました。 「学生のウォントと企業のニーズ、世の中の流れのそれぞれの接点を見つけ、より効果の高いインターン シップとはどういうものなのかを参加者の皆さんで考えましょう。」と呼びかけました。





■参加者を前に講演をする川崎コーディネーター

3. トークライブ (パネルディスカッション)

井上琢斗さん、小林冬馬さん、池田瑞姫さん、藤井優輝さんをパネリストに迎え、「一歩踏み出したきっかけ」、「失敗・挫折経験からの V 字回復」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

それぞれの活動歴等について自己紹介を行った後、それぞれの一歩踏み出した経験、なぜ一歩踏み出すことができたのかといった原体験、失敗・挫折経験からどのようにしてモチベーションを回復し、プロジェクトを達成させたることができたのか、語っていただきました。

「このままでよいのだろうか」という危機感や不安感、受験失敗といった、一見マイナスと思える感情や出来事の繰り返しが自らの経験となり、その蓄積が主体性、一歩を踏み出すきっかけとなっていました。近年の若者は失敗を恐れ、何も行動をしない、周りと合わせるように動く傾向がありますが、失敗経験こそが主体性や成長の一歩であるという法則性が垣間見えました。



■左から井上琢斗さん、小林冬馬さん、池田瑞姫さん、藤井優輝さん



■カンボジアでの経験を語る井上さん





■パネルディスカッションを聞く参加者の方々



■パネリストの学生たち

4. ワールドカフェ(グループワーク)

大学関係者、企業、学生の三者で 4~5 人のグループをつくり、20 分間×3 ラウンドでテーマについて意見を出し合いました。

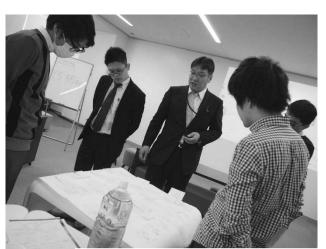
- ラウンド 1. 「皆にとって実りのあるインターンシップってどんなんかいな?」
- ラウンド 2. 「より効果的なインターンシップの実現にあたって問題・課題・壁になるものはなんだろう?」
- ラウンド 3. 「今このテーブルにいる私たちで効果の高いインターンシップ(地域・企業・大学が出会い、 互いに切磋琢磨しあい、それぞれが求める成果につなげるための機会)を創りあげると したら、明日からの私たちに何ができるだろう?」

それぞれの立場や視点から、率直で活発な意見交換がなされました。





■真剣に意見を出し合う参加者の方々

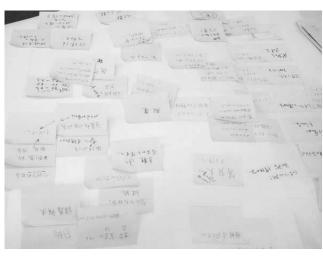




■各テーブルごとの意見を模造紙と付箋を使ってビジュアル化、カテゴリー化している様子



■会場の様子



■参加者から出た意見(模造紙)

ラウンド 1. 「皆にとって実りのあるインターンシップってどんなんかいな?」

▼大学関係者から出た意見▼ (ラウンド1)

企業(地域)と大学を つなぐ場、機会

- ●大学と企業(地域)の壁をなくしたプロジェクト設計が成されている こと ※双方にとって有益な機会となること
- •人が集まる場としての効果が得られること
- ●多様性を知る機会となること
- ●地域全体の風通しをよくする機会となること

目に見える対価

- 単位につながこと
- ●就職口が見つかること

プログラム組成

- ●ゴール設定・目的・方向性・効果が明確であること
- ●失敗・挫折経験ができること
- ●挑戦の場があること
- •成果が明確であること
- ●少人数(1人ではなく、大人数でもなく、少数チーム)である

波及・継続性

- ●継続性を望めるインターンシップであること
- ●学生から学生へと波及する→口コミ効果が期待できるものであること
- 参加して終わりにするのではなく、学びや経験が次へとつながるもの

▼企業関係者から出た意見▼ (ラウンド1)

学生と企業・地域を つなぐ場

◆人との関わり方を学べる機会であること

学生の成長

◆社会人としての働き方を学び、様々な視点で世の中を見れるようになる機会であること

●BtoB、中小など、今まで知らなかった地元企業を知る機会となること

•自らの可能性に気づき視野を広げる機会であること

•地域の魅力に気づき徳島を再発見する機会となること

- •インターンシップ受入れ担当者の人材育成につながるものであること
- ●採用の機会、優秀な人材の発掘チャンスとなること
- ●社内に新風を吹き込む機会となること
- ●学生が実践としての働き手になることで生産性が上がる →従来の視点に学生の視点が加わりイノベーションが起こる
- →会社の課題発見・解決につながるようなものであること

仕囚への効果

▼学生から出た意見▼ (ラウンド1)

学生と企業をつなぐ場

- ◆共通のミッションを共にし、様々な人と出会う機会となること
- •大学にいるだけでは出会うことのできない人達との交流の場となること

自身の成長、スキルアップ

- ◆社会人としてのスキルや専門的な知識が身につく機会であること
- •実践的な取組みを行い、その効果を実感できる場であること
- •自らのやりたいことを発見できる(将来を具体的に描けるようになる)機会であること
- ●インターンシッププログラムの目的と効果(得られる能力)が明確で あること

目に見える対価

- •内定や評価につながるものであること
- 働きの対価としての金銭支給があること

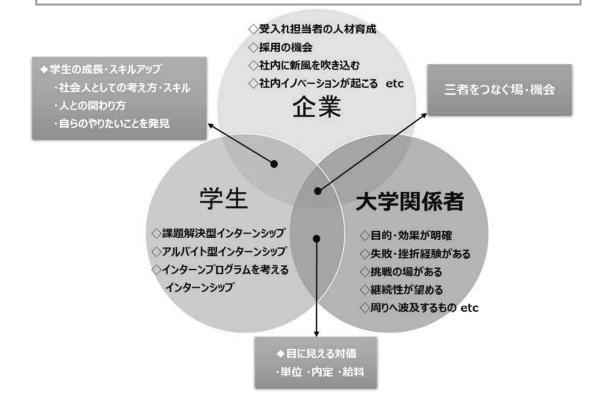
インターンシップの形式

- ●課題解決型のインターンシップであること (課題に対しチームで取り組み、明確な成果を得られるもの)
- アルバイト型のインターンシップであること (スキルアップの意味合いも強く持たせ、かつ報酬が支給されるもの。 単なるアルバイトではない。)
- インターンシップのプログラムを考えるインターンシップも面白いのではないか

▼大学関係者、企業、学生の意見相関図▼

ラウンド 1. 「皆にとって実りのあるインターンシップってどんなんかいな?」

三者に共通する部分=「大学・企業(地域)・学生の出会いの場、つながりを持つ機会」



ラウンド 2. 「より効果的なインターンシップの実現にあたって問題・課題・壁になるものはなんだろう?」

▼大学関係者から出た意見▼ (ラウンド2)

マッチングミス

- ◆大学と企業、学生の間での連携が不足している点
- ●学生がインターンシップに何を求めているのかといったニーズをつかめていない為、効果的な授業やインターンシップ先の紹介ができていないこと
- ●どうすれば学生がインターンシップに興味をもつのかが把握できていないこと
- ●学生が主体的に行動できるようになるために自分達(大学関係者)に何ができるのかがわかっていない点
- ◆学生にとって徳島でインターンシップに取り組むメリットが明確でない点
- •インターンシップへ参加する動機付けができていない点

時間の制約

やる気スイッチの入れ方

●学生(特に工学部生)は授業が多く、長期インターンシップにさける 時間が限られている点

寺子屋式の課題

- ●寺子屋式インターンシップにて…
- 教員の果たす役割とは何なのかを考え、その共有を図るのが課題
- ●誰がメンターになり、誰がメンターを育成し、どのように配置するのかが課題 ※メンター…仕事上の助言者。精神的なサポートをする専任者のこと

▼企業関係者から出た意見▼ (ラウンド 2)

マッチングミス

- ●インターンシップに関する情報が大学、学生と共有できていないこと
- •インターンシップに何を求めているのか、学生のニーズを知ることが課題

会銭面の問題

•交通費や宿泊費の支給、給金は支払うのかといった金銭面の問題

寺子屋式の課題

●仕事上の助言などを行い、学生の精神的なサポートを行う「メンター」 の育成が課題

学生の基礎力不足

- ●ビジネスマナーがなっていない学生がいること
- 挨拶、敬語など、社会人基礎ができていない学生がいること
- ●社会人と学生の間で言葉や感覚にズレがあり、それらのズレをすり合わせすることなくインターンシップに取り組んでしまっていること

企業の負担

- ◆より効果的なインターンシップにするため、学生のニーズ調査やプログラムの開発、コーディネートする機関の設置が課題
- ●受入れ準備やインターン期間中の担当者の負担が大きいこと

▼学生から出た意見▼ (ラウンド2)

マッチングミスやる気スイッチの入れ方

- •自己分析が不十分であったり、自分のやりたいことが分かっていない為、 意識の低いままインターンシップに参加してしまっているという問題がある
- ●事前学習(企業研究・業界知識)が不十分な状態でインターンシップに参加しているという問題がある

時間の制約

・授業や研究が忙しく、長期インターンシップに参加する時間がない →学外活動への教員の理解をいかに得られるかが課題である

金銭面の問題

- 受入れ先までの交通費やインターン期間中の宿泊費等の自己負担 が学生にとっては大きな問題となっている (遠方や長期のインターンへの参加を阻害する要因になっている)
- •給料を支給するかどうかが問題である
- ●無給で長期インターンシップを行う場合、アルバイトでは得られないメリットや参加することの意義付けをどのように行うのかが課題である。

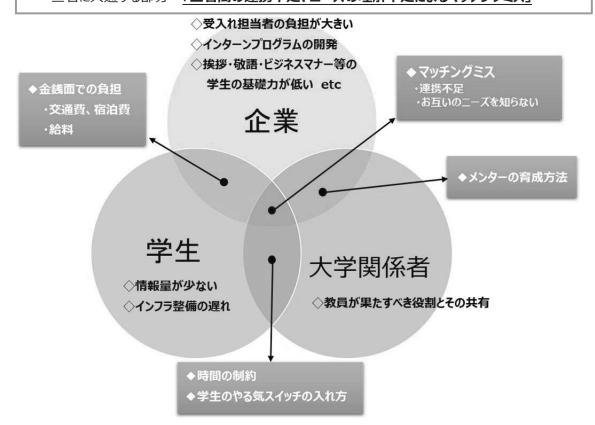
地方ゆえの課題

- 都会に比べると得られる情報量が少ないのが学生にとっては問題である。
- ●公共交通機関や宿泊施設が整っていないため、遠方の企業のインターンシップには参加しにくいという問題がある (自動車や原付を持たない学生も多く、行動圏は限られる)

▼大学関係者、企業、学生の意見相関図▼ ラウンド 2.

「より効果的なインターンシップの実現にあたって問題・課題・壁になるものはなんだろう?」

三者に共通する部分=「三者間の連携不足、ニーズの理解不足によるマッチングミス」



ラウンド 3.

「効果の高いインターンシップを創り上げるとしたら、明日からの私たちに何ができるだろう?」

▼大学関係者から出た意見▼ (ラウンド3)

やる気スイッチ マッチング

- ◆学生が見やすいインターンシップ案内を作成する
- •学生が興味を持ってくれるようなインターンシップガイダンスを開催する
- ・学生と企業をつなぐ機会として企業研究会を開催する。
- ◆インターンシップに参加した先輩達の体験談会を開催する
- ●インターンシップに関わる情報の収集・加工・発信を行い、学生や企業に提供する

単位

◆参加の動機付け、やり遂げた成果のひとつとして単位を付与する仕組みをつくる

金銭面

•交通費や宿泊費の支給などの金銭的補助を行う

寺子屋式インターンシップ

- •インターンシップ参加前に、学生に目標をたたせる(事前学習)
- •インターンシップ参加後に、学生に振り返りをさせる(事後学習)

▼企業関係者から出た意見▼ (ラウンド3)

プログラム組成やる気スイッチ

- ●チームで取り組むことやプロジェクトをやり遂げる経験を通じて学生に やりがいを感じてもらう
- •学生の成長を促すようなプログラムづくりを行う

金銭面

- ●学生の働きに対して給料を出し、学生のモチベーションの向上につな げる
- •交通費、宿泊費等の金銭的な補助をする

寺子屋式インターンシップ

●社内でもインターンシップの振り返りや評価を行い、次への課題を大学や学生と共有する

▼学生から出た意見▼ (ラウンド3)

やる気スイッチ

- •「単位の為」「授業だから仕方なく」といった消極的な姿勢ではなく、 目的意識を持ってインターンシップに臨める様にモチベーションを高め る
- ●企業側にも単なるCSRの一環や会社のPRとして捉えるのではなく、 人材育成・人材確保の機会として捉え、インターンシップに主体的に 取り組んでもらう

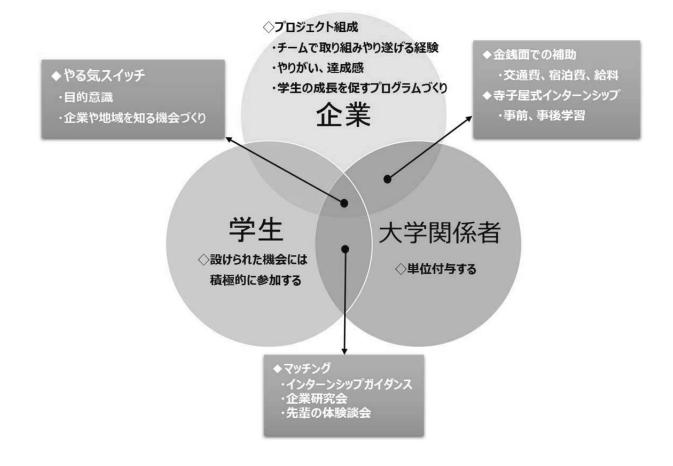
マッチング

- ・企業と学生が共に取り組むようなミッションをつくる
- •企業と学生が出会えるような場があれば積極的に参加する

▼大学関係者、企業、学生の意見相関図▼ ラウンド 3.

「効果の高いインターンシップを創り上げるとしたら、明日からの私たちに何ができるだろう?」

三者に共通する部分=「学生・企業双方のやる気スイッチを見つける」



5. アンケート結果

Q2.各プログラムに対する感想・気づき・心に残った言葉やフレーズがありましたらご記入ください。 また、何故そのような気づきにいたったのか、何故その言葉が心に残ったのかなどの理由も、併せてご記入くださ

a)川崎コーディネーターによる講演(トークタイム)

	気づき・感想、印象に残ったフレーズ	その理由	所属
	「今日何を習ってきたの?」、「今日何を質問してきたの?」 日本の文化・風習を否定するかのようなフレーズにドキッとしました。	日本の文化を愛しているので、そこを活かしつつ能動的な人種になれば日本人は世界一の人種になるのだろうなと思います。 インターンシップと離れた意見ですみません!	企業
:	人口を均等化することが地方創生と言われる 次のTPP、はたしてヨーイドンとなったときに同じスタートラインに立てるのか?という質問	だからこそ、インターンの意味と価値を日本での価値で考えるのではなく、もう一度自問自答したい。	企業
	インターンシップの課題設定 (5Sの数値化)	課題の明確化 目的だから。	企業
4	フレッシュ	若手への価値観の違い (日本との)	企業
	全体の誘導がよかった	余韻を残してもらった	企業
(「フレッシュマン」欧米では新しく企業に入ってくる人の話を古株の人が聞くと聞いて、 根本的に日本のインターンシップと異なっていると感じました。	あまり「新しく入ってくる人が使える!」と考える人がいないようなイメージがあるから。	大学関係者
	新卒は"flesh man"である。	フレッシュなので最先端の知識と感覚を持っているという視点が重要だと思った	大学関係者
	経験値によってスタートラインが異なってくる。		学生

予回のパネラーの協立社とても関いた。只ました。できれていまった。大学関係者 予回のパネラーの協立社とても関いた。「見ました。できれていまった。大学関係者 参考したとでは関を受けました。 金元 後上が見り入れたノクーラングの方は、残ななが今生の方が発足されたは言いがたい状況でした。 金元 後上が見り入れたノクーラングの方は、残ななが今生の方が発足されたは言いがたい状況でした。 金元 後上が見り入れたノクーラングの方は、残ななが今生の方が発足されたは言いがたい状況でした。 金元 後上が見が見り入れたノクーラングの方は、残ななが今生の方が発足されたは当まがないけんだ。 金元 後上が見が見り入れたノクーラングの方は、残ななが今生の方が発足されたります。 金元 後生や未来を見つめ内閣できる機会が主体性を高め、行動できてい お上くん。 第200年は人が成れまれた。 本上くん。 第200年は人が成れまれた。 本上くん。 第200年は人が成れまれた。 本上くん。 第200年は人が成れまれた。 本日 今の頭がが相手の関すに、自分の強みが相手には効かない 無理した。	b)	o)学生たちによるパネルディスカッション(トークライブ)						
選択して報酬した、一企業人して判験を受けました。		気づき・感想、印象に残ったフレーズ	その理由	所属				
# 上くが、開望が目的に変わた	1	姿がとても頼もしく、一企業人として刺激を受けました。 過去、私どもが受け入れたインターンシップの方は、残念ながら全ての方が満足されたとは言いがたい状況でした。他学ではありますが「単位をとるため」だけの方がとても多いのも事実です。 どの学生も大切な時間を使って来てくれますので、より各人の希望と合ったインターン先をつなげるような制度を		企業				
小林Kん: 長所を伸ばす教育が主となっている時代に、素晴らい! 地田さん: 自分の弱かが相手の離さに、自分の弱か相手の離さに、自分の弱かが相手の離さに、自分の弱かが相手のではないといけない 地田さん: 自分の弱かが相手の離さに、自分の弱かが相手のではないといけない 海科化・ナムク切れたなん (やり抜ける人)、主衆にいるにだねをいう感じ。 企業 中なとる 一学本の課題 (自験を確す) と地域の課題 (活性化) と企業の課題 中なとる 一学本の経験や理状をいいたトンスと思えるか 一学来の経験や理状をいいたトンスと思えるか 一学来の経験や理状をいいたおおかまいる。 一学来の経験や理状をいいたおおかきるか 一学来の経験や理状をいいたおおかまいる。 一学本の経験や理状をいいたおおかまいる。 一学本の経験や理状をいいたおおかまいる。 一学本の経験や理状をいいたおおかまいる。 一学本の経験や理状をいいたいましましましましましましましましましましましましましましましましましまし	2		自分自身のミッションが明確	企業				
5 学生の課題 (自覚を促す) と地域の課題 (活性化) と企業の課題 中をとる 企業 ・今までの経験や現状をいかにチャンと思えるか。 企業 ・失敗をおれてに行動できるか。 一失敗を繰り返して成功を手にする経験? 企業 7 とてもしっかりしている学生さんたちに感動しました。 企業 ・自分の人生全体の振り返りがすでにきていて、良かった。意味付けができていることを高く評価したい。「○○しないといけない」と思っている方が多いと感じた。譲難設定がモチベーションにつながっているのが興味深い。 ・今回の分かりやすい一字 (留学など) にとらわれず、キャリアという視座で捉えられているため、ため、ため、大学関係者とどめるような工夫があるとさらに良い。・分かりやすくするという観点ではvisual資料でエピソードのサポートができると尚良い。 大学関係者・大学関係者・たともと積極性があって活動的で…と思っていたが意外とそんなこともなかったんだな〜と思いました。私もどもの・フルに挙生が替は暗かった…など話していて意外だった。かんな最初の一歩は挫折 大学関係者・おもども分かていうと消極的な方なので、私も頑張れば一歩踏み出せるかな〜とも思ったり。 大学関係者・おもどもろかっていうと消極的な方なので、私も頑張れば一歩踏み出せるかな〜とも思ったり。 大学関係者・地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大学関係者・地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大学関係者・地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大学関係者・のくこうたかしなければ、という危機(診) があると感じた。とちらの方向で刺激すれば学生を踏み出させようか? 大学関係者・とりらの方向で刺激すれば学生を踏み出させようか?	3	小林くん:今まで自分がしてなかったことをしてみよう 池田さん:自分の弱みが相手の驚きに、自分の強みが相手には効かない	小林〈ん:長所を伸ばす教育が主となっている時代に、素晴らしい! 池田さん:自分の弱点を愛し、長所を疑おうと思えたから。	企業				
- 今までの経験や現状をいかにチャンスと思えるか。 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				企業				
 6 ・失敗を認れずに行動できるか	5		中をとる	企業				
・自分の人生全体の振り返りがすでにできていて、良かった。意味付けができていることを高く評価したい。 ・「○○しないといけない」と思っている方が多いと感じた。課題設定がモチベーションにつながっているのが興味 深い。 ・「失敗はワクワクルます」 ・パネルティスカッションなので、パネリスト間のやり取りを入れたり、テンポを出すために1人の発言を3分程度に とどめるような工夫があるともらに良い。 ・分かりやすくするという観点ではvisual資料でエピソードのサポートができると尚良い。 ・	6	・失敗を恐れずに行動できるか		企業				
8 - 「○○しないといけない」と思っている方が多いと感じた。課題設定がモチベーションにつながっているのが興味深い。 - 「失敗はワクワクします」 - 「〈夫敗はワクワクします」 - 「〈夫別よアイスカッションなので、「〈ネリスト間のやり取りを入れたり、テンボを出すために1人の発言を3分程度にとどめるような工夫があるとさらに良い。 - 分かりやすくするという観点ではvisual資料でエピソードのサポートができると尚良い。 9 - もともと積極的だなーと思っていた学生が昔は暗かった…など話していて意外だった。 - みんな最初の一歩は挫折 10 - それぞれに挫折があった - 学外・留学から地域の魅力発見へ - 「自分には何もできないことを知った」内省 - 地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大選点は「危機感」であるという点 大学関係者	7	とてもしっかりしている学生さんたちに感動しました。		企業				
9 ・もともと積極的だなーと思っていた学生が昔は暗かった…など話していて意外だった。 ・みんな最初の一歩は挫折 たんだな~と思いました。 私もどちらかっていうと消極的な方なので、私も頑張れば一歩踏み出せるかな~とも思った り。 10 ・それぞれに挫折があった ・学外・留学から地域の魅力発見へ ・「自分には何もできないことを知った」内省 ・地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大学関係者 11 共通点は「危機感」であるという点 学生が一歩踏み出すきっかけは外向きのもの(楽しい、いろんな人と出会える)と内向きのもの(どうにかしなければ、という危機感)があると感じた。 とちらの方向で刺激すれば学生を踏み出させようか? 大学関係者	8	・「○○しないといけない」と思っている方が多いと感じた。課題設定がモチベーションにつながっているのが興味深い。 ・「失敗はワクワクします」 ・パネルディスカッションなので、パネリスト間のやり取りを入れたり、テンポを出すために1人の発言を3分程度に とどめるような工夫があるとさらに良い。	ため。	大学関係者				
・学外・留学から地域の魅力発見へ ・「自分には何もできないごとを知った」内省 ・地方の学生には自己分析ができていない人が多い 大学関係者 11 共通点は「危機感」であるという点 学生が一歩踏み出すきっかけは外向きのもの(楽しい、いろんな人と出会える)と内向きのもの(どうにかしなければ、という危機感)があると感じた。 どちらの方向で刺激すれば学生を踏み出させようか? 大学関係者	9		たんだな〜と思いました。 私もど5らかっていうと消極的な方なので、私も頑張れば一歩踏み出せるかな〜とも思った	大学関係者				
11 共通点は「危機感」であるという点 もの (どうにかしなければ、という危機感) があると感じた。 大学関係者 どちらの方向で刺激すれば学生を踏み出させようか?	10	・学外r留学から地域の魅力発見へ ・「自分には何もできないことを知った」内省		大学関係者				
12 体験、一歩、きっかけ、心、考え、課題、目標、目的、成功、失敗、周り 学生	11	共通点は「危機感」であるという点	もの(どうにかしなければ、という危機感)があると感じた。					
	12	体験、一歩、きっかけ、心、考え、課題、目標、目的、成功、失敗、周り		学生				

c) 来場者参加型のグループワーク(ワールドカフェ)

全体を通しての感想・まとめ等	所属
学生と企業のメリットがマッチングすることが必要。	企業
各回20分でしたが、20分の中で結構濃い話ができました。あまり企業の方や先生方と話す機会も	大学関係者
ないので、お話を聞く機会がってよかったです。	八子闵尔伯
学生と企業をつなぐ大学の役割が再認させられた。	大学関係者
学び取って、伝え、聞く。	学生
インターンシップをする年代、立場等によって受ける内容と伝える内容が異なる。	学生
学ぶ深さ。	学生

Q3. 本日のイベントに参加してみて、自分or自分以外の立場の方へのヒト言、それぞれとの今後の関わり方についてご記入ください。

企業→それぞれへ

	ヒトコト言いたい・言わせて!という事	それぞれと今後どのように関わっていきたいか
to学生	・もっと意見が聞きたいです!! ・普段、友達と話してて会話になる?大人と話したいときはいつでも来てね! ・自分の思っていることをしっかりと教えてくれてありがとうございます。 ・君たちは悪くないけど、それを言い訳にして変化しなければ損をするのは君たちだよ。 ・強みの自覚	 ・共に作ることができるインターンシップを開発したいです!! ・「今」の感覚を教えてください。 ・インターンプログラムを考えて、一緒に徳島を盛り上げていきたいと思います。 ・アルバイト型インターンプロジェクト ・まずは仲良くなりたい!!飲みながら雑談したいです。 ・自分の持っている特性を知ることをやってみてほしい。
to企業	・毎日お疲れさまです。 ・受身では学生は一生あらわれない。学生に会いに行きましょう!!	・こういう場で、裸になりましょう! ・アルバイト型インターンプロジェクト ・ぜひ、学生と企業の間に入らせてもらいたいです。
to 大学関係者	・「先生」と呼ばない方がいいでしょうか…。 ・学生と話をする場が欲しいです。色んな大人がいることを学生に伝えたいです。 ・企業訪問をしてほしい。	・我々、中小企業から見ると敷居の高さを感じていましたが、これから多くの接点を持ちたいと感じました。 ・先生ではなく、一人の大人として関わりましょう! ・アルバイト型インターンプロジェクト+共同開発・学生たちと関わる職員の方の悩みをお聞きしたいです。 ・大学の先生が地元企業を知ることで学生へもPRしてほしい。

大学関係者→それぞれへ

77 1811111	→£/(€/I/\					
	ヒトコト言いたい・言わせて!という事	それぞれと今後どのように関わっていきたいか				
to学生	・より多くの学生に魅力を伝えていただきたい。 ・もっとキャリア支援室においで。 ・もっと本気に!	・もっとフランクに、壁なく対応していきたいです。もっとなんでも相談しに来てくれたらい いのにな。				
to企業	・インターンシップの設計・運営サポートをするサービス提供 ・もっと気軽にこれる場所になりたいです。 ・もっと本気に!	・結構来るのに敷居が高いと感じる方が多いのでしょうか? まだまだお互い距離があると思うので、もっと近付きたいですね。				
to 大学関係者	・学生に振り返りの場を提供・設計する ・キャリア成熟度に合わせたコンテンツ提供 ・先生方とかとお話できる機会ってあんまりないんです…飲みましょう。 ・もっと本気に!!	・過去に他大学で行ったプログラムに例示できると思います。 ・本当に普段、特に先生方とお会いする機会がないので…先生方の意見ももっとお伺いしたいと思いました。 ・大学がどれだけ真剣に本プログラムを動かすことができるかが重要。できる限り協力していきたいと思います。				

学生→それぞれへ

	ヒトコト言いたい・言わせて!という事	それぞれと今後どのように関わっていきたいか
to学生	なし	なし
to企業	なし	なし
to 大学関係者	なし	なし

6. まとめ

今回のイベントを通じて、インターンシップのプログラム内容や学生への教育の仕方といった"方法論"ではなく、インターンシップを進めていく上で何を大事にしないといけないのかという"法則性"が見えてきました。また、参加者同士でより効果的なインターンシップのありようについて共通認識を得られたように思えます。

ご記入いただきましたアンケートならびに、皆様からいただきましたご意見・ご感想を集約させていただきまして、企業・大学関係者・学生、それぞれにとっての今回のイベントの意義というものが見えてきました。

▼企業の方にとっては…

『企業が抱える人材確保という課題に対して学生、大学関係者の話を聞くことにより、 具体的な打ち手(解決策)を得る機会』

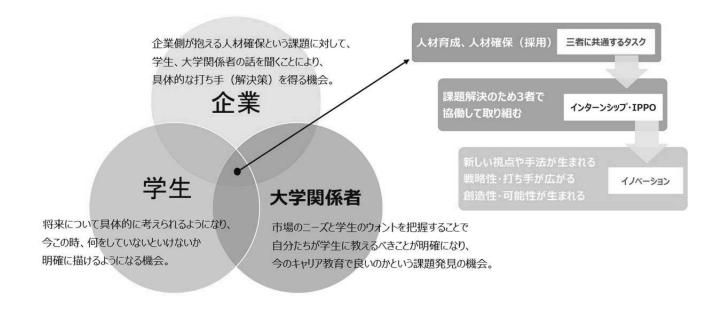
▼大学関係者にとっては…

『市場(企業)のニーズと学生のウォントを把握することで自分たちが学生に教えるべきことが 明確になり、今のキャリア教育で良いのかという課題発見の機会』

▼学生にとっては…

『企業や大学の社会人と話をすることによって将来について具体的に考えられるようになり、今この時、何をしていないといけないかが明確に描けるようになる機会』

また、お互いが感知できていなかった部分が見えるようになることで、互いの共通するタスク(やるべきこと)が顕在化しました。そこから発生したミッションに対し、皆が協働して取り組み、イノベーションを生む、そういったツールとして『インターンシップ』や"IPPO"のようなイベントは有効性の高いツールであり、これが「企業(地域)・学生・大学が出会う場」といえます。



7. 編集後記

> 井上琢斗さん

参加者の皆さんとざつくばらんに話し合えて楽しかったです。

特にワールドカフェでは企業の皆さんの本音がきけたのでよかったです。

参加してくださった企業さん達は学生に理解ある企業さんばかりだったので驚きました。 ありがたいことです。

もし、またの機会があれば、ぜひ参加していただきたいですし、今度は、インターンシップや学生に対して消極的な企業さんにも参加してもらいたいですね。

ふらっと来ていただき、すごい刺激をうけて帰ってもらえるような場にしたいです。 ありがとうございました。

> 小林冬馬さん

学生・企業・大学・行政がインタラクティブ(双方向的に)に話し合える、こういう場を待ち望んでいました。

今回は学生の数が少なかったので、もし次の機会があれば、僕たちみたいな学生だけじゃなくいろんな立場や考え方、価値観をもった学生の意見が聞けるといいなと思います。

そして、今日参加してくださった企業さんは本当に学生に理解のある企業さんばかりでした。 回数を重ねて、もっといろんな企業さんと話をしてみたいです。

ワールドカフェの『明日から私たちに何ができる? 』っていう問いかけなのですが、本当にこれにつきると思います。

話し合いだけに終わらせるのではなく、実際に現場で実行して、繰り返して、その効果を記録していかないといけないなと思いました。

ありがとうございました。

> 池田瑞姫さん

企業さんや大学の先生方もいる中で緊張しましたが、ざっくばらんにお話ができてよかったです。 パネルディスカッションでは、もっと会場の皆さんと会話が飛び交うような感じにできたらよかったなと 思いました。

ありがとうございました。

> 藤井優輝さん

今日は本当に理解ある企業さん達で、僕個人としては「COC プラスから来てって言われたから来たけど、あんまりやる気ないんだよ」っていう企業さんも多いのかなと思っていました。でも、本当にやりたいと思っている企業さんがこんなにいるのだということが知れて、僕の今後の活動に役立ちました。

ありがとうございました。

▶ 川崎克寛コーディネーター

COC+事業の<u>当事者</u>は学生です。彼らがどういった暮らしがしたいのか、どういった働き方がのぞましいのか、そういったものを考えるような場づくり・機会づくりをしていきたいと思っています。

ただ、学生は社会の構造というものを知りません。それを見せてくれるのが、県や企業、大学だと 思うので、それらとの接点を作り上げていくのが僕たちの役目かなと思います。

今回のイベントに参加した企業の方、大学関係者には、パネリストの彼らが成し遂げた結果だけではなく、そこにいたったプロセスを感じ取ってもらえればと思います。

彼らはいわゆる"意識高い系"と呼ばれる人たちですが、いたって普通の学生です。

彼らが歩んできた道のりには暗いトンネル(試練、壁)があって、それを潜り抜けて今があります。 そのトンネルを作るのが企業の皆さんであり、我々なのですよ。

〉 今後の開催予定に関して

今回は学生の参加が少なく、企業の方から「もっと学生の意見を聞きたい」といったお声や、「2回目は開催しないのか?」といったご意見もいただきました。

今後は、今回のスキームに加え、三者のニーズに合わせて、業界や業種で区切っての開催(メディア業界の方を集めた会、営業職の方を集めた会など)や、ポジションで区切っての開催(社長を集めた会、フレッシュマンを集めた会など)、カテゴリーを絞ったものを複数回に渡って継続的に開催していくことも、新たな取組みとして試みていきたいと思います。

今回は"法則性"を握り合うための会でしたが、次回以降はプロジェクト組成や具体的課題に対するアクションなど、方法論を展開していく会も講じていきたいと考えております。その際はぜひ多くの方にご周知いただき、ご参加いただきたく思います。

この度はトークライブ & ワールドカフェ"IPPO"にご参加くださり、 誠にありがとうございました。

県内就職率向上に向けた取組

「2017とくしま就活フェス vol.2」 報告書

平成 28 年 3 月 25 日(金)、アスティとくしまにて、COC プラス事業の合同就職説明会の一環として、徳島新聞社主催の「2017 とくしま就活フェス vol.2」に COC プラス事業のブースを出展しました。

▼イベント概要

a) 趣旨

徳島新聞社主催の合同企業説明会・就職支援セミナー、「とくしま就活フェス 2017」では、徳島 県内 42 の企業・団体がブースを出展し、県内外から多くの学生が参加しました。徳島大学では、文 部科学省 COC プラス事業の合同就職説明会の一環として、「とくしま元気印イノベーション人材育成 プログラム」のブースを出展し、COC プラス事業概要の説明、および、事業協働企業・団体を中心に 県内の魅力ある企業についての紹介を行いました。

b) 日時

平成 28 年 3 月 25 日(金) 12:00~17:00

c)場所

アスティとくしま 1F 多目的ホール

d) プログラム内容

プログラム	時間	内容
就活支援セミナー	12:00~12:50	『これから始まる企業先行を上位突破する為の ES~ 面接の意識改革術!』 (株式会社ダイヤモンド・ヒューマンリソース 就活アドバ イザー・降矢一朋)
合同企業説明会	13:00~16:10	県内 42 企業・団体による一斉 30 分間プレゼンテ
(時間割制)		ーション(タイムスケジュール制)
合同企業説明会	16:10~17:00	県内 42 企業・団体によるフリープレゼンテーション
(フリータイム制)		

文部科学省 COC プラス事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」のブースでは、参加された学生に対し、COC プラス事業の説明ならびに徳島大学が進める寺子屋式インターンシップやボランティア・パスポート等の取り組み紹介を行い、事業協働機関の皆様からいただきました企業パンフレットや徳島の優良企業を紹介する雑誌などを配布いたしました。

また、中西孝平創業支援クリエーター(四国大学地域教育・連携センターSUDAchi 推進室)より、四国大学が取り組む創業支援事業についての説明を行いました。

タイムスケジュール制で行われたプレゼンテーションでは、毎ターン 1~3 名の学生が当ブースの説明会に参加されました。就職活動に悩む学生に対しては、徳島大学にてキャリア教育を担当する畠一樹特任講師(徳島大学総合教育センター)より、自らの将来を描く上でのアドバイスがなされました。

徳島県外から参加している学生も多く、県内学生だけではなく、徳島への U・I ターン就職を考える学生に対しても、本事業の周知を図るとともに県内企業の PR を行えました。



会場全景(アスティとくしま)



会場の様子



創業支援事業説明の様子 (四国大学 中西孝平クリエーター)



COC プラスブースの様子





事業・取り組み説明を聞く学生たち



協働事業体の皆様からお預かりしたパンフレット等



徳島大学 取組み紹介パンフレット

参加校実施事業

平成27年度事業報告書(四国大学、四国大学短期大学部)

1 概要

四国大学ではCOC+事業の一環として、事業期間中、主に創業支援事業の取り組みを計画し、平成27年度は次の取り組みを行った。

- (1) 創業支援クリエーター2名と事務補佐員1名を雇用した。
- (2) 創業支援に関する実状調査等を実施した。
- (3) 創業支援事業の企画・立案を行った。
- (4) ビジネスアイデアコンテストを実施した。

2 運営スタッフの雇用について

平成27年12月に事務補佐員1名を雇用した。翌年1月には創業支援クリエーター2名を雇用した。

事務補佐員は主に経理事務と創業支援クリエーターのサポートを担当し、同クリエーター 2 名は創業支援事業に係る企画・立案を担当している。

3 創業支援に関する実状調査

平成28年2月3日(水)、「京都まなびの街生き方探求館」及び「龍谷大学エクステンションセンター」を訪問し、担当者から創業の実状やビジネスプランコンテスト実施の現状等について、ヒアリングを行った。

















香川経済同友会と香川大学主催の「産業人材育成フォーラム」に出席した結果、「社長のかばんもち」がより重要な取り組みである確信を得ることができた。





これら一連の実状調査の結果、学生に対する創業支援取組活動に係る企画等への確信を得ることができた。

4 創業支援事業の企画・立案

創業支援事業の企画・立案を行い、創業支援に関する実状調査の結果を反映させることで、より効果的な創業支援に係る事業計画を立てることができた。







5 ビジネスアイデアコンテスト

毎年12月に実施されている高校生ビジネスアイデアコンテストの実施を支援した。



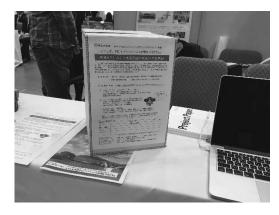






6 2017 とくしま就活フェス Vol.2

平成28年3月25日(金) 開催の「2017 とくしま就活フェス Vol.2」に「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」として徳島大学とともに出展し、ビジネスサークル「とくしまサイコー塾」への参加を勧誘した。









平成 27 年度事業報告書(徳島文理大学)

- ○ボランティア・パスポートの導入に向けて
 - 実績: 平成28年4月から「ボランティア」を授業科目として導入するため、 検討を開始。一般総合科目の選択科目「総合科目(ボランティア)」で、 ボランティア・パスポートを活用した授業を行うことが決定された。
 - 成果:次年度にむけて、シラバス・評価基準などの検討・作成を行い、また、 外部講師の選定やお試しボランティアの実施要領等を作成することがで きた。
- ○文部科学省主催のシンポジウム「地域創生に資する日本型イノベーション・ エコシステムの構築に向けて」(一橋講堂)に出席
 - 実績:本事業の専門教育プログラムうち、6次産業化と地域づくり・観光・ICT関連分野の開発を行うために文部科学省が主催した同プログラムに2名が出席。
 - 成果:大学は「シンクタンク」の役割から、「シンクドゥタンク」の役割へ移行し、地域の課題を発見し自らが解決に取り組むことが肝要で有り、組織ぐるみで実行する重要性を再確認できた。
- ○集客交流産業論(徳島文理大学公開授業)
 - 実績:「とくしまの魅力を再発見し、磨きをかけ人を呼び込むこと」をねらいとして、地域最前線で活躍中の方々から地域活性化の「鍵」を学び、地方創生を担う人材育成を目的として講師による講義や対談、質疑応答を基本に授業を進め、「成功の論理」を探った。また、地域活性化に取り組む自治体やNPOのほか、今後取り組もうとする方々の参加も募った。県内外から延べ3000人をこえる受講があった。
 - 成果: 地域イノベーションに懸命に取り組んでいる行政、企業などの一流の講師陣の講義は熱気溢れるものとなり、本学の学生の中には、将来、地域活性化の仕事を志望する者も出るなど、大きな学習効果をもたらした。

○いきいきセミナー

実績:本学の教員と学生が協力し、毎月1回(計11回)、地域高齢者を対象とする健康増進事業「いきいきセミナー」を開催した。

成果:高齢者との交流を通じて、理学療法学科、看護学科、人間福祉学科、薬学部等の医療・福祉分野で学ぶ学生および人間生活学部児童学科の学生にとっては、地域貢献を教員とともに実践しながら、各専門分野の社会的意義を学ぶ機会となった。

○LED FESTIBAL の開催

実績:地域連携の一環として、ふれあい健康館との共同企画「~冬の祭典 LED FESTIBAL 2015~」を開催した。

成果: このイベントをきっかけに、今後ふれあい健康館と本学は共同し、地域活性化にむけ定期的に連携を続ける予定である。本学学生は運営に参加してもらったが、今後企画段階からの参加を促し、能動的行動力を養う場として活用する。

○サッカースクール(文理クラブ)の開催

実績: サッカー部の学生が活動の企画・運営の中心となり、児童・生徒の基本的技術の育成や基礎体力の向上を図り、保護者とも交流した。9回開催し、468名(幼児196名、児童186名、中学生86名)の参加があった。

成果:担当する女子サッカー部員の多くは、小学校教諭や幼稚園教諭または保育士への就職を希望している。学生たちにとってたくさんの子どもたちと触れあうことの機会は、将来の教育者として、実践力や指導力を養うことができる貴重な経験の場となった。また、スポーツ活動を通して地域の活性化に寄与し、スポーツ人口の裾野を広げるきっかけとなった。

平成27年度事業報告書(徳島工業短期大学)

○技術講習会、技術講演会を実施

(1) [開催日] 平成27年8月20日(木)~24日(月)

[会場] ㈱スズキ自販徳島本社及び営業拠点

[参加者] 就職內定者2名受講

[内 容] ㈱スズキ自販徳島の社員により社会人としての基本、接客対応の基本、自動車整備について技術講習会、技術講演会(インターンシップ)を実施した。就職予定企業の取組や求められるマナー、技能を知ることで、企業への理解を深め、就業に対する不安感を払拭し、就職することへの意識が高まった。

(2) [開催日] 平成27年12月9日(水)

[会場] 徳島工業短期大学 213教室

[参加者] 徳島県内企業就職内定者 17名受講

[内 容] 徳島工業短期大学の学内教員により県内自動車関係企業就職希望者に対して、それぞれの企業で求められるマナーについての技術講演会を実施した。地元企業の取組や社員に求めるマナーを知ることで、地元企業への理解を深め、就業に対する不安感を払拭することができた。

(3)[開催日] 平成27年12月19日(土)

[会場] トヨタL&F徳島㈱本社

[参加者] 就職内定者3名受講

[内 容] トヨタL&F徳島㈱の社員により、サービス業務を体験する技術講習会(インターンシップ)を実施した。職場意識を自覚させることで、企業への理解を深め、就業に対する不安感を払拭し、就職することへの意識が高まった。

(4) [開催日] 平成28年1月12日(木)

[会場] 徳島工業短期大学 専攻科自動車工学専攻実習室

「参加者」 就職希望者3名受講

[内 容] 徳島工業短期大学の学内教員により県内自動車関係企業就職希望者に対して、それぞれの企業の取扱メーカーの車両を使い、実務についての技術講習会、技術講演会を実施した。地元企業の取組やその業務内容を知ることで、地元企業への理解を深め、就業に対する不安感を払拭し県内で就職することへの意識が高まった。

雇用創出に向けた事業

【抜粋】

v s 東京「とくしま回帰」総合戦略

(2016改訂版)

平成28年3月 徳 島 県

v s 東京「とくしま回帰」総合戦略

~「ひと」と「しごと」の好循環で推進!「新未来とくしま」の創造~

I はじめに

- 「知恵は地方にあり!」と、これまで創造・実行してきた「サテライトオフィス」をはじめとする「課題解決の処方箋・徳島モデル」は、「人口減少の克服」や「東京一極集中の是正」を目指し、国を挙げて取り組む「地方創生」の先導役を担っているところである。
- 「地方創生の旗手」として、これまでの取組みをもう一段高い次元へと進化させ、 県民の皆様に「新未来とくしま」を実感していただくため、「地方創生"挙県一致"協議会」 やSNS、パブリックコメントなどを通じた県民の皆様の御意見を反映し、平成27年7月、 「vs東京『とくしま回帰』総合戦略」(以下「総合戦略」という。)を策定した。
- 「総合戦略」では、「とくしま人口ビジョン」で示した2060年の本県人口「60~65万人超」の確保に向け、「自然増」と「社会増」の両面から様々な施策を盛り込んだところであり、「創造的実行力」により一層の磨きをかけ、いわゆる「産学官金労言」の連携協力のもと、県を挙げて、これら施策を強力に推進していく。

Ⅱ 基本姿勢

- (1)「総合戦略」の位置づけ
 - ・ 「まち・ひと・しごと創生法」第9条に基づき、「とくしま人口ビジョン」で描く 将来展望に向け、人口減少の克服と持続可能な地域づくりに向けた、平成27年度から 5か年(H27~H31年度)の施策の方向性を位置づける計画とする。
 - ・ 県政の運営指針である「新未来『創造』とくしま行動計画(H27〜H30年度)」との整合を十分に図り、「ひと」と「しごと」の好循環により「とくしま回帰」を加速させ、「まち」の活性化につなげる「地方創生」関連施策に重点化した創造的実行型の「総合戦略」とする。
 - ・ これまで、「葉っぱビジネスいろどり」や「サテライトオフィス」など、徳島は もとより日本の「集落再生モデル」として、過疎地域対策や地域活性化を先導してきた 「とくしま集落再生プロジェクト(H23~H27年度)」については、「総合戦略」に おいて、その根幹の一つとなるものとして位置づけ、引き続き発展的に創造していく こととする。

(2)「総合戦略」の推進

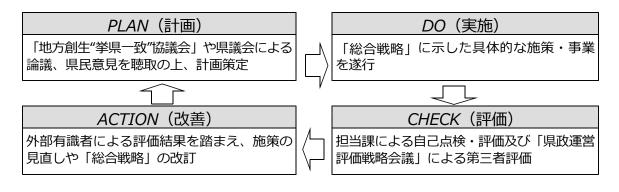
- ・ 産学官金労言の各界代表者に加え、地域や住民の代表者からなる「地方創生"挙県 一致"協議会」を核として「総合戦略」を推進する。
- ・ 「地方創生に関する徳島県連絡会議」による情報共有や、相談支援体制(カウンター パート)の積極的な活用により、市町村との連携強化を図る。
- ・ SNSやパブリックコメントの活用を図るなど、次世代を担う若者をはじめとして、 幅広い県民意見の聴取を行う。
- ・ 「総合戦略」を策定する際、「地域経済分析システム(RESAS)」のデータなどを 参考にしたところであるが、「総合戦略」の推進に当たっても、引き続き活用していく。
- ・ 「総合戦略」の推進に当たっては、"挙県一致"で「とくしま回帰」に向けた「県民 運動」を推進する「『住んでみんで徳島で!』県民会議」による行動宣言の具現化に 向けた取組みや、「とくしま創生サポーター"すだちくん"」の戦略的な活用などにより、 県民とともに「地方創生」実現に向けた想いを共有しながら、総力を挙げて取り組んでいく。

(3)検証と改善(「PDCAサイクル」の構築)

・ 「総合戦略」においては、「4つの基本目標」を掲げるとともに、基本目標ごとに 5年後の目標を設定する。

また、基本目標の達成に向け、具体的な施策ごとに「重要業績評価指標(KPI)」を設定し、これらの目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、改善(総合戦略の見直し)を行う仕組み「PDCAサイクル」を確立する。

・ 効果検証と改善見直しを外部有識者の参画により、実施する。



Ⅲ 基本目標

徳島と東京が「一対」となり、「地方創生」、ひいては「日本創成」の実現を目指す 「**vs東京」**の共通コンセプトのもと、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を 呼び込む好循環を確立し、活力ある「まち」づくりを加速する「**とくしま回帰」**の具現化 に向けて、「4つの基本目標」を掲げ、「新未来とくしま」の創造へと導く各種施策を 強力に推進する。

<u>【基本目標1】新しい人の流れづくり</u>

共通コンセプト「vs東京」のもと、各世代にわたる東京からの 移住をはじめ、大都市圏からの「新しい人の流れ」を生み出す 「とくしま回帰」を推進する。

- (ア) 住みたい・働きたい「とくしま回帰」の加速
- (イ)「とくしま回帰」を呼び込む拠点機能の強化
- (ウ) 若者の「とくしま回帰」を生み出す大学等の活性化

【基本目標 2 】地域における仕事づくり

徳島の強みを活かした「産業競争力の強化」により、徳島に集う「ひと」が、**魅力ある安定した「しごと」**を創り出す「好循環」を加速する。

- (ア) 地域産業の未来に向けた競争力の強化
- (イ) 戦略的な観光誘客の推進
- (ウ) 地域産業の飛躍を支える人づくり

【基本目標 3 】 **結婚・出産・子育ての環境づくり**

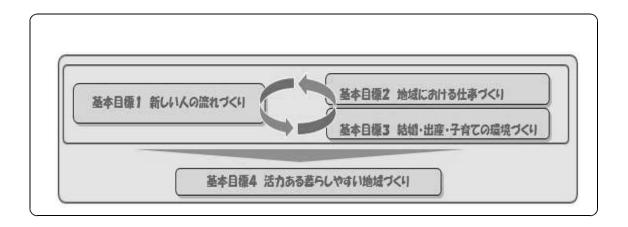
「切れ目のない次世代育成対策」を展開し、若者の結婚や出産に 対する希望の実現をはじめ、「**子育ての喜びを実感できる環境」**を 創造する。

- (ア) ライフステージに応じた切れ目ない支援の強化
- (イ) 若い世代の正規雇用のさらなる拡大
- (ウ) 仕事と子育てが両立する働き方の実現

【基本目標 4 】 活力ある暮らしやすい地域づくり

「ひと」と「しごと」の好循環を強固に支え、安心して暮らし、 学び、働き、子育てしやすい、**笑顔に満ちた活力ある「まち」づくり** を展開する。

- (ア) 課題解決先進地域づくりの加速
- (イ) 多様な人材が輝く地域づくりの加速
- (ウ) 時代に合ったふるさとづくりの加速
- (工) 安心して暮らせる地域づくりの加速
- (オ) 地域間連携の進化



IV 具体的な施策

基本目標ごとに設定した「目標」の達成に向け、「重要業績評価指標(KPI)※」を設定した具体的な施策を展開していく。

※重要業績評価指標(KPI)

Key Performance Indicator の略称 施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

各KPIにおけるカッコ内の数値は、特に記載がない場合は平成25年度の数値

【基本目標1】新しい人の流れづくり

目標 ◆ 2 0 2 0 年までに、転入転出者数を均衡(社会増減 0) (2015.4.1現在で転出者が転入者を1,723人上回っている。)

《基本的方向》

- 移住希望者をはじめ多くの人から「住みたい」「働きたい」と思われ、選んで もらえる徳島となるよう、受入体制の整備や情報発信の強化を図る。
- 「全国屈指の光ブロードバンド環境」が実現する、時間や場所にとらわれない 柔軟な働き方、東京をはじめ大都市を凌駕する充実した介護保険3施設など、本県の 強みを最大限に活用し、東京一極集中を是正する「ひと」の流れを生み出す。
- 徳島の基幹産業である農林水産業の現場を魅力あるフィールドとして発信する ことにより、新規就業者数を拡大し、担い手不足の解決と定住人口の増加を図る。
- 東京一極集中を是正し、新たなひとの流れを生み出すため、企業や政府関係機関、 大学等の「とくしま回帰」の流れを創出し、加速する。
- 大学進学、就職の段階における若者の県外転出が顕著なことから、県内大学の活性化と就労機会の拡大に取り組む。

県内若者の地元定着や県外からの進学を促進するため、県内高等教育機関の魅力 向上と活性化を図るとともに、「地(知)の拠点」である大学との連携を深め、 地方創生の担い手となる人材を育成する。

- 「とくしま集落再生プロジェクト」で実践されてきた「移住促進」をはじめとする 「課題解決の処方箋」をより一層進化させるとともに、地域リーダーとの連携協力を 深め、先進事例の創造・発信を強力に推進する。
- 本県の共通コンセプト「vs東京」に基づき、本県のブランド力・認知度の向上 を図るため、効果的な情報発信戦略を展開する。

《具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)》

(ア) 住みたい・働きたい「とくしま回帰」の加速

①移住交流の推進

・ 「とくしま回帰」を加速するため、「とくしま移住交流促進センター」や「住んでみんで徳島で!移住相談センター」に「移住コンシェルジュ」を配置し、 移住に関するきめ細かな相談対応を行うとともに、「移住ポータルサイト」による 情報発信を推進する。

また、市町村が移住のお世話役として配置する「移住コーディネーター」を、 実践的な研修を通じて育成することにより、受入体制を強化する。

さらに、県及び市町連携による「『四国の右下』若者創生協議会」を設立し、 若者にターゲットを絞った戦略的な移住・定住対策を推進する。

- ・ 都市との交流やインバウンドの受入れをはじめ、移住・定住による農山漁村の 活性化につなげるため、訴求力のある農山漁村の仕事・暮らし体験の実施、農山 漁村の魅力発信や短期滞在型施設の整備の支援など、体験フィールドや豊かな 食文化を活用した魅力ある農山漁村づくりを進める。
- 「二地域居住」を促進するため、お試し居住施設や生活体験施設を整備する 市町村を支援するとともに、地方と都市の学校間移動を容易にし、双方の学校で 教育を受けることができる「デュアルスクール」のモデル化に取り組む。
- ・ 地域再生や新産業創出に係る「ひと・もの・わざ」を航空ネットワークにより 結びつけるなど、本県の先進事例に関する情報発信や視察研修のマッチングを行う。

■移住者数:850人(80人)

■とくしま農林漁家民宿数(5か年の累計):42軒(30軒)

■デュアルスクールのモデル化: H30試行(-)

■移住希望者に対する「新たな雇用枠」の創設: H28創設(-)

(具体的な事業)・移住・交流情報発信強化事業(H26.2月補正)

- ・「四国の右下」若者創生事業(H26.2月補正)
- ・航空路線を活用した地方創生支援事業(H26.2月補正)
- ・とくしまで「住む」「働く」「繋がる」集落再生事業

(H27当初、H28当初)

- ・農山漁村(むら)の仕事・暮らし体験支援事業(H27当初)
- ・「とくしま空の道」ネットワーク育成強化事業(H27.6月補正)
- ・「住んでみんで徳島で!移住相談センター」設置事業

(H27.9月補正)

・日本創生のための将来世代応援知事同盟共同事業

(H27.9月補正)

- ・住んでみんで徳島で!とくしま回帰促進事業(H27.2月補正)
- ・「とくしま回帰」住宅対策総合推進事業

(H27.2月補正、H28当初)

- ・「四国の右下」移住・定住促進事業(H27.2月補正)
- ・インバウンドとくしま農山漁村魅力体験事業

(H27.2月補正、H28当初)

・「とくしま回帰人材」活用事業(H28当初)

②多様な人材環流

- ・ 本県ゆかりの高齢者の移住を促進するため、高齢者用相談窓口の設置、高齢者向け 移住フェア等において、首都圏エリアの移住希望高齢者等へのPRを強化する。 また、本県における「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」構想を推進するため、 「住所地特例制度」の適用対象の拡大を求めるなど受入れやすい環境の整備を図る とともに、各地域の取組みを支援する。
- ・ プロフェッショナル人材をはじめ、若年者、中高年齢者、UIJターン希望者等の 大都市圏からの就業を促進するため、雇用関連サービスをワンストップで提供する 「とくしまジョブステーション」等を中心とした支援を強化する。

主な重要業績評価指標(KPI)

- ■とくしまジョブステーション等を活用した就職率:40.0%(35.1%)
- ■プロフェッショナル人材の正規雇用数(5か年の累計): 25人(一)

(具体的な事業)・ゆかりの徳島里帰り応援事業(H26.2月補正)

- ・攻めの「UIJターン」獲得促進事業(H26.2月補正)
- ・とくしまジョブステーション運営費(H27当初、H28当初)
- ・徳島型CCRC構築推進事業(H27.9月補正)
- ・プロフェッショナル人材戦略拠点事業

(H27.9月補正、H27.2月補正、H28当初)

・「ゆかりの徳島」回帰推進事業(H28当初)

③農林水産業にチャレンジする新規就業者の拡大

く農業>

- ・ 新たな農業ビジネスにチャレンジする人材を確保するため、農業系コースを持つ 専門高校、農業大学校、徳島大学「生物資源産業学部」、アグリビジネススクール等 の教育機関や食品関連産業界との連携を強化し、キャリアアップシステムを構築 することにより、次代の農業を支える人材育成を推進する。
- ・ 本県への移住や定住による農業の担い手の確保・定着を図るため、就農希望者に対する現地見学ツアーの開催、就農実践研修時の所得支援、農地・農業用機械・住居等に関する情報を収集し希望者に提供する体制の構築、就農開始時や経営発展時に必要となる農業用機械・施設等をリースする制度の創設を行う。

<林業>

・ 県産材の増産を図る「新次元林業プロジェクト」により、新たな雇用創出や 若者の定住化を図るため、即戦力となる林業技術者を育成する「とくしま林業 アカデミー」を平成28年度に開講する。

- ・ 豊富な森林資源の利用と森林の適正な管理を担う人材の育成・確保を図るため、 県有林を活用し、次代を担う高校生や大学生等の体験林「フォレストキャンパス」 を創設する。
- ・ 県内外の高校生・大学生等に対して、本県の林業への関心を呼び起こし、林業 労働力の確保を図るため、「那賀町林業従事者会"山武者"」等の協力でインターン シップを実施する。

<水産業>

・ 次代を担う漁業者の育成・確保を図るため、「徳島県漁業人材育成プログラム」 に基づく研修や実習、インターンシップを実施するとともに、新規就業者の生活 支援のための給付金事業をモデル的に実施する。

主な重要業績評価指標(KPI)

- ■農林水産業新規就業者数(5か年の累計):1,150人(149人)
- ■中核的農林漁業者数(5か年の累計):635人(196人)
- ■農業系大学生等による

インターンシップ参加者数(5か年の累計):650人(106人)

(具体的な事業)・農業するなら徳島で!就農研修支援事業(H26.2月補正)

- ・青年漁業者就業給付金モデル事業(H26,2月補正)
- ・県営林活用人材育成・交流促進事業(H26.2月補正)
- ・新規就農総合支援事業(H27当初、H28当初)
- ・林業インターンシップ「山武者塾」開催事業(H27当初)
- ・「農林水産業」新たな担い手まるごと支援事業(H27.6月補正)
- ・「とくしま林業アカデミー(仮称)」 開講準備事業

(H27.6月補正)

- ・農業人材キャリアアップ推進事業(H27.2月補正、H28当初)
- ・漁業担い手確保・育成トータルサポート事業(H27.2月補正)
- ・きゅうりタウン構想推進事業(H27.2月補正)
- ・主伐スペシャリスト育成事業(H28当初)
- ・森の営業マン支援事業(H28当初)
- ・「山武者」による林業の魅力"発進"事業(H28当初)
- ・漁業就業マッチング強化事業(ゼロ予算)

(イ)「とくしま回帰」を呼び込む拠点機能の強化

①企業の本社機能の誘致

- ・ 本県への本社機能移転による経済の活性化と雇用機会の確保を図るため、企業 立地補助制度を拡充する。
- ・ 本県の過疎地域を中心に集積が進むサテライトオフィス等の本社機能移転を さらに加速させるとともに、既に本社機能を移転した企業の体制強化に向けた 補助制度を創設する。

主な重要業績評価指標(KPI)

■ 「成長分野」関連企業の本社機能誘致数:5社(一)

(具体的な事業)・成長関連産業集積促進事業(H26,2月補正)

- ・企業立地促進事業費補助金(H27当初、H28当初)
- ・「とくしま回帰」企業立地推進事業(H27.2月補正)

②政府関係機関の地方移転に挑戦

- ・ 東京一極集中を是正し、本県への「ひと」の流れを加速するため、政府関係機関の 地方移転に係る提案募集に呼応し、本県の地方創生に資する機関の誘致に挑戦する。
- 誘致に当たっては、次のような本県の強みを発揮できる分野を念頭に置き、 検討を進め、「地方創生」、ひいては「日本の創成」につながる移転の実現を目指す。
 - i サテライトオフィスや4K8Kに象徴される 「全国屈指の光ブロードバンド環境」
 - ii 全国に先駆けた「食の安全安心」、「食品表示」への取組み
 - iii 豊かな森林を活かした「新次元林業プロジェクト」の展開
 - iv 平成28年度に創設される徳島大学「生物資源産業学部」と連携した「アグリサイエンスゾーン」の構築

主な重要業績評価指標(KPI)

■政府関係機関の本県への誘致: H27提案

(具体的な事業)・政府関係機関徳島移転調整費(H27.2月補正、H28当初)

・消費者庁等移転実施計画策定事業(H28当初)

③サテライトオフィスのさらなる展開

- ・ 地域の資源や個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、「とくしま 集落再生プロジェクト」のこれまでの成果を踏まえ、地域づくりを支える人材 育成や古民家・遊休施設を活用したサテライトオフィスの取組みを支援する。
- ・ 「全国屈指の光ブロードバンド環境」を活かして、サテライトオフィスの 誘致を促進するため、企業からの相談や視察にきめ細やかに対応する「コンシェ ルジュ」を県内3圏域に設置する。

- ・ 「都市部におけるフェアの開催」をはじめ、サテライトオフィスと就職希望者 とのマッチングに向けた新たな取組みや、進出企業による地元の小中学校への 「出前授業」及びオフィスに大学生を招く「職場体験」を実施する。
- ・ 職員の「県民目線・現場主義」を徹底し、「創造力・実行力・発信力」に優れた 人財を育成するため、地方創生の最前線の現場に「とくしま新未来『創造』 オフィス」を設置し、現場の多様で多才な人材と交流・連携しながら、実践型の 職員研修を実施する。

- ■集落再生につながる取組みの創出事例数(5か年の累計):22事例(一)
- ■サテライトオフィス進出地域の拡大:8市町村(4市町)
- ■とくしま新未来「創造」オフィスとの連携団体数:40団体(一)

(具体的な事業)・サテライトオフィスおもてなし推進事業

(H26.2月補正、H27.2月補正)

・とくしまで「住む」「働く」「繋がる」集落再生事業

(H27当初、H28当初)

- ・新とくしま集落再生プロジェクト推進事業(H27.2月補正)
- ・「とくしま回帰」推進支援交付金(H27,2月補正)
- ・「四国の右下」サテライトオフィス誘致拡大事業 (H27.2月補正)
- ・新未来創造実践型フィールドワーク事業(H28当初)

(ウ) 若者の「とくしま回帰」を生み出す大学等の活性化

①大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大

- ・ 大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、「大学等サテライト オフィス開設支援制度」を活用し、県内外の大学サテライトオフィスの誘致により、 地域に密着した教育・研究活動や公開講座等の地域貢献活動を促進する。
- ・ 地方創生を担う人材を育成するため、県内高等教育機関と連携して、地域の課題 解決や活性化に向けた「地域連携フィールドワーク講座」の開講や、ボランティア 活動を大学の単位として認める「ボランティアパスポート」の拡充に取り組む。
- ・ 県内外の高等教育機関との連携により、若者の発想や視点を活かした地域活性化の取組みや交流人口の拡大を図るとともに、農山漁村体験や実習の実施により、 地域振興策の検討や、移住・定住のきっかけづくりとする。

- ■大学サテライトオフィス設置箇所数:12箇所(3箇所)
- ■「地域連携フィールドワーク講座」延べ参加者数:500人(一)

(具体的な事業)・大学連携・地方創生推進事業(H26.2月補正)

- ・県南地域づくりキャンパス事業(H27当初、H28当初)
- ・大学連携・地域の元気創出支援事業(H27.2月補正)

②若者の地元定着促進

- ・ 若者の地元定着を促進するとともに、産業人材の確保による雇用創出を図るため、 経済団体や企業等と連携して、大学生等を対象にした「徳島県奨学金返還支援制度」 を平成27年度に創設し、県内企業に一定期間就業した際に奨学金の返還を支援 する。
- ・ 県内大学生等の地元就職を促進するため、徳島大学をはじめとする県内高等教育機関が経済団体や企業等と連携し、雇用創出が期待できる産業分野の人材育成に向けた教育カリキュラム改革や大学生等の県内就職に取り組む「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」に参画し、取組みを支援する。
- ・ 県内へのUターン就職を促進するため、本県からの進学者が多い関西圏の大学 (就職支援協定締結大学: H26・8大学)の学生の県内企業へのインターンシップ の促進を図る。
- ・ 新卒者はもとより、都市部の社会人経験者など多様な人材の「とくしま回帰」 を進めるため、県職員の「新規採用枠」について、毎年3桁(100人以上)を 確保する。

主な重要業績評価指標(KPI)

■県内大学生等の県内就職率:50.0%以上(44.5%)

■就職支援協定締結大学と連携した

インターンシップの促進:H30全大学で実施

(具体的な事業)・大学連携・地方創生推進事業(H26.2月補正)

・「とくしま回帰」加速・産業人材支援事業(H27.12月補正)

・インターンシップ等促進事業(H27.2月補正)

【基本目標2】地域における仕事づくり

| 目 標 | ◆総合戦略による雇用創出数 5年間で4,000人

《基本的方向》

- 本県の強みである「LED」と「全国屈指の光ブロードバンド環境」の「2つの光」 を活用した成長分野関連産業のさらなる集積を推進エンジンに、県内企業への 切れ目のない支援により、経済の好循環を実現する。
- もうかる農林水産業の実現に向け、徳島大学「生物資源産業学部」の創設を起爆剤に、産学官連携による6次産業化を推進するとともに、「とくしまブランド」のプレミアム化による海外市場への展開を加速する。
- 「訪日外国人2000万人時代」に向けた誘客を図るため、三大国際スポーツ大会※を見据えた情報発信や、Wi-Fi環境や多言語表記の整備、地域資源を活用したストーリー性のある観光ルート・メニューづくり、世界遺産登録を目指した取組みなどにより、戦略的な観光誘客を推進する。
- 「阿波おどり」の通年化、「とくしまマラソン」や「マチ★アソビ」のさらなる 拡大に加え、「徳島国際短編映画祭」の開催、デジタルアートを核とした観光誘客 などにより、にぎわいの創出を図る。
- 第一次産業や建設産業の担い手といった地域を支える産業人材とともに、科学技術 人材や「地域グローカル人材」など、次代を支え、未来を拓く産業人材を育成する。
- ※2019年開催予定「ラグビーワールドカップ2019」
 - 2020年開催予定「東京オリンピック・パラリンピック」
 - 2021年開催予定「関西ワールドマスターズゲームズ2021」

《具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)》

- (ア) 地域産業の未来に向けた競争力の強化
- ① $[2 \bigcirc O + \alpha] \dot{M}$ リードする地域イノベーションの加速
 - ・ クリエイティブ関連産業の集積や地域活性化を図るため、クリエイティブ関連 企業(者)に対する支援や人材の育成を行う。
 - ・ 「全国屈指の光ブロードバンド環境」を活かし、スーパーハイビジョン(4 K 8 K) を核とした新たな産業集積に向け、全国初となる「4 Kアワード」を平成 2 7 年度 から開催するほか、全国に先駆けた「4 Kエリア試験放送」の実施、芸術性の高い「次世代プロジェクションマッピング」の制作や「4 Kライブ中継」などにより、「4 K先進地・徳島」を加速させる。
 - ・ 介護、公共事業、林業などの分野におけるロボットの普及やロボットテクノロジーの 実用化に向け、本県のものづくり企業が有するリチウムイオン電池の活用技術や、 CFRP(炭素繊維強化プラスチック)の加工技術などロボットの要素技術を活かし、 産学官連携による取組みを加速させる。

- ・ 雇用機会の確保のため、「グリーン・イノベーション(環境・エネルギー)」、 「ライフ・イノベーション(健康・医療・介護)」など成長関連産業の誘致を 推進する。
- ・ コールセンターやデータセンター等の情報通信関連産業の集積を図るため、 「全国屈指の光ブロードバンド環境」の魅力を発信するとともに、企業のニーズ に応じた「オーダーメイド型補助制度」等により立地を支援する。
- ・ 「徳島県 L E D バレイ構想・ワールドステージ行動計画」に基づき、 L E D 関連企業の開発・生産、ブランド化、販路開拓などを支援し、 L E D産業クラスター の形成を推進する。
- ・ 健康・医療関連産業の創出による地域経済の活性化と糖尿病の克服による 「健康長寿社会」の実現を図るため、産学官金が強力に連携し、糖尿病克服に 向けた研究開発成果の事業化を推進する。
- ・ 企業の新商品・新技術開発を支援するため、「知の拠点」である大学や公設試験研究機関が有する研究成果を最大限活用し、企業へ積極的に技術移転を行うとともに、企業ニーズを踏まえた共同研究を行う。
- 外資系企業と県内企業とのコラボレーションによる製品開発などから生じるシナジー効果で地域経済活性化を図るため、県内への投資を促進する。

- ■クリエイティブ関連企業数:260社(者)(161社(者))
- ■「成長分野」関連企業の奨励指定における立地数:26社(13社)
- ■情報通信関連企業(コールセンター、データセンター等)の 集積数:40事業所(18事業所)
- ■生活支援ロボットの市場投入: H30投入
- L E D新製品開発支援件数(累計): 105件(52件)

(具体的な事業)・とくしま4K放送実証実験事業(H26,2月補正)

- ・成長関連産業集積促進事業(H26.2月補正)
- ・光ブロードバンド王国魅力発信事業(H26.2月補正)
- ·外資系企業対日投資促進事業(H26.2月補正)
- ・地方大学を活用した地域の「稼ぐ力」創出事業(H26.2月補正)
- ・情報通信関連産業立地促進費補助金(H27当初、H28当初)
- ・LED応用製品普及加速化事業(H27当初、H28当初)
- ・健康・医療クラスターステージアップ事業

(H27当初、H28当初)

- ・ロボット関連産業創出モデル事業(H27.6月補正、H28当初)
- ・光ブロードバンド環境活用事業(H27.6月補正)
- ・徳島クリエイティブ産業育成プロジェクト事業

(H27.6月補正、H27.2月補正)

- ・あわ文化未来展望事業(H27当初、H27.6月補正)
- ・LEDバレイ徳島・ワールドステージ推進事業

(H27.2月補正、H28当初)

- ・徳島型ヘルスケア産業創出モデル事業(H28当初)
- ・高機能素材関連産業創出モデル事業(H28当初)

②企業の成長ステージに応じた切れ目のない支援

- ・ 創業の促進を図るため、(公財)とくしま産業振興機構を核として、商工団体 や金融機関と連携し、ビジネスプランの策定や低利融資、創業後のフォローアップ など、創業者の各ステージやニーズに応じた支援施策を展開する。
- ・ 企業の経営安定のため受注機会の確保や低利融資制度の充実・強化を図るほか、 経営革新の促進に向け、独創的な技術やサービスで新たな事業活動に取り組む 企業に対し、経営戦略の策定や商品開発、販路拡大等を支援するとともに、企業 の競争力強化を図るため、経営体制の構築や人材育成を支援する。
- ・ 県内企業の「稼ぐ力」の強化を図るため、大手企業とのマッチングや展示商談会への出展支援など、戦略的に販路開拓を支援する。
- ・ 「とくしま県産品振興戦略」に基づき、県産品の認知度向上と消費拡大、さらには 世界にはばたく「とくしま県産品」を目指し、国内外に向けた情報発信を積極的に 行うとともに、世界展開に当たっては、「とくしまグローバル戦略」に基づき、 グローバル製品開発や海外市場での販売促進活動・人材育成など、県内企業の グローバル展開をトータルで支援する。

主な重要業績評価指標(KPI)

■県がサポートする県外・海外商談会及びフェアにおける

成約・売上額:4.8億円(2.2億円)

■輸出額・輸出企業数:175億円・133社(150億円・95社)

(具体的な事業)・にし阿波・特産品魅力アップ推進事業(H26.2月補正)

・にし阿波・地域連携ビジネス創出支援事業

(H26.2月補正、H28当初)

- ・創業促進・あったかビジネス支援事業(H27当初、H28当初)
- ・ものづくり産業「創造力」総合支援事業(H27当初、H28当初)
- ・「とくしま県産品振興戦略」推進事業

(H27当初、H27.2月補正、H28当初)

・世界へ飛躍!県内企業グローバル展開支援事業

(H27当初、H27.6月補正、H28当初)

・とくしま経営塾「平成長久館」事業(H27当初、H28当初)

- ・「地方創生」に向けた海外展開事業(H27.6月補正)
- ・ハイレベル企業強化支援事業(H27,2月補正)
- ・中小企業の「稼ぐ力」サポート事業(H28当初)

③もうかる農林水産業の推進

- ・ 成長産業化による「もうかる農林水産業」実現に向けた取組みを、世代や団体 などの枠組みを超え「オール徳島」で推進する。
- ・ 「とくしまブランド」全体を牽引する代表的品目のレベルアップや、本県の強みである「恵まれた水」など豊かな自然のもとで育んだ安全・安心な農畜水産物の情報発信など、「日本のトップブランド」実現に向けた取組みを推進する。
- 農林水産業の成長産業化を支える技術開発や人材育成を推進するため、新たに 創設される徳島大学「生物資源産業学部」をはじめとする高等教育機関や産業界 との連携を強化した「アグリサイエンスゾーン」の構築を図る。
- ・ 徳島の「食」や「ライフスタイル」を「格好いい」という新たな価値観で発信 する首都圏での拠点づくりや、産学官金が連携し、生産から販売までをトータル サポートする体制づくりを推進する。
- 「若い世代が意欲的に取り組める農林水産業」を実現するため、農道や林道等をネットワークとして一体的な生産基盤の整備に取り組み、経営の効率化、生活利便性の向上等を行い、都市と農山漁村地域の交流促進による地域活性化を推進する。
- ・ 大筋合意に至ったTPPについて、「徳島県TPP対応基本戦略」に基づき、本県農林水産業の「強み」を活かした「攻め」の対策と、小規模経営体・産地の維持に向けた「守り」の対策を推進する。

<農業>

- ・ 政府が6次産業市場10兆円とする目標を掲げた「2020年」を農業ビジネスの「大きな節目」と捉え、次代を担う若手の「意欲と創造性」や経験者の持つ「匠の技」を活かし、人材育成から生産拡大・販路開拓まで、総合的園芸産地の活性化に取り組む。
- ・ 新規就農者を含む担い手への農地集積の加速化を図るため、基盤整備の実施や 農地中間管理機構を活用した「徳島版農地集積モデル」の構築により、効率的な 農地利用を促進する。
- ・ 水田農業の活性化を図るため、「飼料用米」の地域内流通の構築と生産拡大や、 「酒米」の生産振興、県産米の輸出による海外需要の拡大を図る「徳島・新コメ 戦略」を展開する。

<畜産業>

- ・ リーズナブルな地鶏肉として評価を受けてきた「阿波尾鶏」の競争力強化を図る ため、特に加工品について、平時と災害時でリバーシブルに活用できる「美味しい 防災食」としての新たなスタイルを確立するなど、「一歩先のプレミアム化」を 推進する。
- ・ 新ブランド豚「阿波とん豚」の出荷頭数の増加に向け、組織的な生産流通販売 体制を構築するとともに、生産農場や販売店の計画的な増加を図る。

<林業>

・ 県産材の生産量・消費量の拡大を図るため、川上では、本県の地形に適した 主伐生産システムの構築や先進林業機械の導入に加え、新規事業体の起業を促進 するための「とくしま林業機械サポートセンター」を創設し、川下では、建築 分野と連携した「木造建築学校」の開講や、県内各地での「すぎの子木育広場」 の設置を推進する。

<水産業>

・ 生産性・収益性の高い「もうかる水産業」の実現を図るため、本県の海域特性を 踏まえて策定する「とくしま水産創生ビジョン」に基づき、新たなブランド水産物の 創出に向けた研究開発を加速するとともに、戦略的なブランドPR活動の展開や、 異業種とのコラボによる新商品開発を通じた販売力の強化に取り組む。

また、藻場造成等の実施により、生産力の高い漁場づくりを推進するとともに、 生産・流通施設の整備を通じ、水産物の品質向上や衛生管理の高度化、省エネ・ 省コスト対策を促進する。

主な重要業績評価指標(KPI)

- ■新技術開発に向けた県内大学等との共同研究数:10件(2件)
- ■構造改革を実施した園芸産地における生産額:110億円(10億円)
- ■「農地中間管理機構」等を活用した農地集積面積(累計): 2,500ha (一)
- ■県産米輸出数量:75トン(34トン)
- ■「阿波尾鶏」出荷羽数:300万羽(195万羽)
- ■「阿波とん豚」出荷頭数:1,500頭(61頭)
- ■水産物出荷・流通体制施設等の整備:11施設(5施設)
- ■農業用アシストスーツの現場への導入数(5か年の累計):20台(一)
- ■県産材の生産量:45万㎡(29万㎡)

(具体的な事業)・「アグリサイエンスゾーン」創出事業(H26.2月補正) ・とくしまの「食」マーケティング強化事業(H26.2月補正)

- ・次世代「園芸産地」創生事業(H26.2月補正)
- ・とくしま木育交流推進事業(H26,2月補正)
- ・「新鮮 なっ! とくしま」号展開事業(H27当初)
- ・トップブランド育成事業(H27当初)
- ・規模拡大による「もうかる農業」サポート事業

(H27当初、H28当初)

- ・「農畜水産物海外輸出チャレンジサポート」事業(H27当初)
- ・「阿波とん豚」増産体制強化事業(H27当初、H28当初)
- ・漁業生産力強化・整備事業(H27.6月補正)
- ・まるごとクールトクシマ発信事業(H27.6月補正)
- ・県産材増産強化支援事業(H27.6月補正)
- ・「農林水産業」新たな担い手まるごと支援事業(H27.6月補正)
- ・農林水産オープンイノベーション推進事業(H28当初)
- ・v s 東京! 「とくしまブランドギャラリー(仮称)」 開設事業 (H28当初)
- ・とくしまブランド推進機構発進事業(H28当初)
- ・チャレンジ産地構造改革事業(H28当初)
- ・明日の畜産後継者!技術向上プラスワン事業(H28当初)
- ・民間活力導入による新養殖品種創出事業(H28当初)
- ・広域営農団地農道整備事業(H28当初)
- ・森林基盤整備事業(H28当初)

④6次産業化・とくしまブランド海外展開の推進

- ・ 農工商連携による新たな市場開拓を図るため、異業種間の情報共有・交流機会の創出や実践人材養成セミナー・技術研修等の実施、地域資源を活用した新たな製品化技術の研究開発など、「食の宝庫徳島」の地域資源を活用した6次産業化を推進する。
- ・ 新たに創設される徳島大学「生物資源産業学部」と連携した人材育成、商品開発、 販路拡大などの取組みにより、6次産業化を推進する。
- ・ 6次産業化を担う人材を育成するため、県立高校において、農工商連携による 生産・加工・販売が一体化した教育を行うとともに、高等教育機関等との連携も 視野に入れた「6次産業化専門学科」を平成29年度に設置する。
- ・ TPPによる対日関税の削減・撤廃を好機と捉え、本県の農林水産物等の輸出 倍増・海外展開を図るため、「とくしま農林水産物等海外輸出戦略」に基づき、 プロモーションの強化や、相手国の輸出条件への対応、海外での「とくしま食材」の 普及を推進する。さらには、「阿波地美栄(あわじびえ)」を含めた農林水産物・食品のハラール対応に取り組む。

- ・ 阿波地美栄の販路拡大、海外展開を視野に入れた情報発信等による観光客・ インバウンドの誘客を促進し、新たな地域資源として育成する。
- ・ 県産材の輸出を本格展開させるため、素材・製品・木造住宅の各分野において、 プロモーションの強化と輸出に対応した商品化を促進する。
- ・ 高校生が地域企業と連携して開発した商品の海外への新たな販路開拓等に取り 組む。

■農工商連携等による

6次産業化商品開発事業数(5か年の累計):350件(135件)

- ■県立高校「6次産業化専門学科」の設置:H29設置
- ■農林水産物等輸出金額:14.0億円(2.4億円)
- ■「とくしまブランド」輸出相手先国・地域数:22か国(9か国)
- ■「阿波地美栄」取扱店舗数(累計): 23店舗(5店舗)
- ■県産材の海外輸出量:11,000㎡(1,760㎡)
- ■県産木造住宅の輸出棟数(5か年の累計):60棟(一)
- 6次産業化商品プロデュース数(5か年の累計):13件(一)

(具体的な事業)・農工商連携分野における次世代技術者養成事業 (H26.2月補正)

- ・「6次産業化課題解決プロジェクト」連携推進事業(H26,2月補正)
- ・「輸出倍増」に向けた海外戦略拡大事業(H27当初)
- ・農工商連携6次産業化プロデュース事業(H27.6月補正)
- ・県産木造住宅輸出システム構築事業(H27.6月補正)
- ・「地方創生」に向けた海外展開事業(H27.6月補正)
- ・6次産業化実践教育による地域プロフェッショナル人材育成事業 (H27.2月補正)
- ・「売れる商品づくり」トータル支援事業(H28当初)
- ・ターゲット特性に応じた農林水産物等輸出拡大戦略事業 (H27.2月補正、H28当初)
- ・とくしま輸出バリューチェーン構築強化事業(H27.2月補正)
- ・海外スポークスマン魅力発信事業(H27.2月補正)
- ・「TPP対象国 | 攻略・輸出チャレンジ事業(H27,2月補正)
- ・現地食文化への「県産食材の融合」実証事業(H27.2月補正)
- ・徳島から発信!「ハラール」展開事業

(H27.2月補正、H28当初)

・世界を目指す!とくしま安2GAP・有機農産物促進事業

(H27.2月補正)

- ・世界を魅了!「阿波地美栄」推進事業(H27.2月補正)
- ・徳島すぎ輸出開拓加速化事業(H27,2月補正)
- ・木頭ゆず輸出体制強化事業(H27.2月補正)

(イ) 戦略的な観光誘客の推進

①「訪日外国人2000万人時代」に向けた取組み

- ・ 「訪日外国人 2 0 0 0 万人時代」に向けた誘客を図るため、徳島ならではの 魅力について、海外での展示会をはじめメディア等を活用した効果的な情報発信 により徳島の知名度向上を図るとともに、Wi-Fi環境や多言語表記の整備、 通訳人材の育成、「外国語サポートデスク」の設置、個人旅行者対応「多言語・ 多機能アプリ」を開発するなど、官民を挙げた受入環境の整備を行う。
- ・ 訪日リピーターの多い台湾や、東南アジアのイスラム圏から誘客するため、 台湾での徳島インディゴソックスと台湾の野球チームによる交流試合に合わせ、 遍路、サイクリング等の観光セミナーや物産PR、ムスリム観光客向けHPの 構築等、情報発信やプロモーション活動を行う。
- ・ 外国人旅客や国内旅客の積極的な取り込みを図るため、「徳島阿波おどり空港」 に国際ターミナル機能を整備するとともに、エアポートセールスを推進し、新規 航空路線の開設を図る。

また、徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港による来県者数を拡大する ため、瀬戸内エリアをはじめとした広域連携等による積極的な誘致活動や受入態勢 の充実強化を図る。

- ・ 2019年の「ラグビーワールドカップ2019」及び2020年の「東京 オリンピック・パラリンピック」のキャンプ地誘致、「関西ワールドマスターズ ゲームズ2021」の競技会場誘致に向け、積極的な誘致活動を展開する。
- ・ 「東京オリンピック・パラリンピック」を見据え、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」 「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「あわ文化」四大モチーフ及び クラシック・ジャズ・邦楽など、音楽文化が息づくまちづくりの成果を生かした、 徳島ならではの「文化プログラム」を創造し、関西が一体となって取り組む 「関西文化プログラム(仮称)」の先駆けとして展開することで、関西広域連合 の文化施策を牽引するとともに、交流人口の増加に取り組む。
- ・ 県下全域にわたり交流人口を増加させるため、県南部ではアウトドアフィールドを 活用した着地型旅行商品の提供や、「南阿波グルメ」の魅力アップを図るとともに、 県西部では、「桃源郷のような別世界」と称された「にし阿波〜剣山・吉野川観光圏」 のさらなるブランド観光地化に向け、アジアはもとより、アメリカ、オースト ラリア、ヨーロッパにおいて官民連携によるプロモーション活動を展開する。
- ・ 「徳島県観光振興基本計画」に基づき、魅力的な誘客コンテンツの整備や効果的な 情報発信、発地先での徳島旅行商品の造成支援などにより、個人旅行の誘客促進

を図るとともに、ビジネス目的客の取り込み、さらには、訪日外国人2000万人時代に向けた取組みにより、国内外からの観光客・宿泊者数の増加による地域経済の活性化を図る。

- ・ 豊かな自然や魅力的な伝統文化など、本県の優れた地域資源を活用し、その土地 ならではの着地型旅行商品の造成促進や体験型観光の推進を図るとともに、周遊型 イベント等の実施により、県下全域にわたり交流人口の増加を図る。
- ・ 関西広域連合、瀬戸内ブランド推進連合、四国ツーリズム創造機構といった 広域エリアにおける連携のほか、時宜にかなった連携やテーマに応じた連携など、 スケールメリットを活かした施策の推進を行うことにより、国内外に向け徳島の 魅力を発信する。
- 「四国八十八箇所霊場と遍路道」と、世界三大潮流に名を連ねる「鳴門の渦潮」 について、関係自治体や団体と連携し、世界に向けて魅力を発信し、世界遺産登録 を目指す。

主な重要業績評価指標(KPI)

■年間の延べ宿泊者数:310万人(226万人)

■県内への外国人延べ宿泊者数:9万人(32,310人)

■「四国八十八箇所霊場と遍路道」の 国の世界遺産暫定一覧表への記載: H28記載

■関西での外国人延べ宿泊数:2,000万人(793万人)

■瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合:50.0%(27.9%)

■瀬戸内7県の外国人延べ宿泊者数:360万人(120万人)

■四国4県の外国人延べ宿泊者数:66万人(22万人)

(具体的な事業)・クール徳島インバウンド推進事業(H26.2月補正)

- ・新時代へ挑戦!観光宿泊推進事業(H26.2月補正)
- ・国際スポーツ大会キャンプ地等誘致推進事業

(H27当初、H28当初)

- ・「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進事業(H27当初、H28当初)
- ・コンベンション誘致促進事業(H27当初、H28当初)
- ・外国人観光客倍増推進事業(H27当初、H28当初)
- ・あわ文化未来展望事業(H27当初、H27.6月補正)
- ・徳島阿波おどり空港旅客ターミナル機能向上事業(H27.6月補正)
- ・「地方創生」に向けた海外展開事業(H27.6月補正)
- ・v s 東京「おどる宝島! とくしま」キャンペーン事業 (H27.6月補正、H28当初)
- ・ワールドワイド インバウンド推進事業 (H27.2月補正)

- ・「地方創生」クルーズ客船誘致・おもてなし事業 (H27.2月補正)
- ・もっと便利に!公共交通情報サービス向上事業(H27,2月補正)
- ・「四国の右下」観光誘客チャレンジ事業(H27.2月補正)
- ・にし阿波観光地域づくり強化事業(H27.2月補正)
- ・"よってみんで県庁"県民サロン(仮称)創設事業

(H27.2月補正、H28当初)

·「おどる宝島!とくしま」DC推進事業

(H27.2月補正、H28当初)

- ・徳島阿波おどり空港機能強化事業(H28当初)
- ・3 大国際スポーツ大会 「スポーツ・レガシー創出」 事業 (H28当初)
- ・「とくしま"歓喜の歌"プロジェクト」推進事業(H28当初)
- ・あわ文化プログラム推進事業(H28当初)
- ・「にし阿波〜剣山・吉野川観光圏」ブランド化促進事業 (H28当初)

②「ひと」が集う大規模イベントの拡大

- ・ 本県の共通コンセプト「vs東京」の実行に向け、世界の映像クリエイターに とって魅力のある地域となることを目指した「実践の場」として、平成28年3月に 「徳島国際短編映画祭」を開催する。
- ・ 夏の「阿波おどり」に加え、春、秋の「阿波おどり」を充実させるとともに、 練習風景等もPRして、年間を通した「阿波おどり」のフル活用に取り組み、 国内外からの誘客を促進する。
- ・ 本県の魅力や県民挙げての「おもてなしの心」を国内外に情報発信できる 「とくしまマラソン」のさらなる国際化を進めるとともに、大会規模を拡大し、 さらなるにぎわいづくりを実現する。
- ・ 「マチ★アソビ」参加者数のさらなる増加を図るため、地域資源を活用した 新たな誘客コンテンツの創出や、外国人でも楽しめるイベントの充実や拡大を図る ことにより、国内はもとより、全世界へ向けたプロモーション活動や海外イベント と連携し、情報発信力を強化する。
- ・ デジタルアートを核とした国内外からの観光誘客による交流人口の拡大を図る ため、ものづくり企業とクリエイターとのコラボレーションによるLEDを使った デジタルアート作品を展示する「LEDアートミュージアム(仮称)」を創設する。
- ・ 地域の資源を活用し、先端技術・科学やアートによる賑わいを生み出すため、 デジタルアート、日本科学未来館の監修による科学展、ドローンの活用等が体験 できる「スマート回廊」を創設し、地域と共にイベントを展開する。
- ・ ベートーヴェン「第九」アジア初演の地である本県において、東京オリンピック・ パラリンピックでの文化プログラムを見据え、徳島ならではの文化資源の さらなる拡がりと充実を図るとともに、「第九」アジア初演100周年(2018年)、

さらには、ベートーヴェン生誕250年(2020年)に向けての機運もあわせて 醸成するため、「全国規模」の「第九」演奏会を開催する。

主な重要業績評価指標(KPI)

■「とくしまマラソン」エントリー数:2万人(1万人)

■「マチ★アソビ」年間参加者数:17万人(11.3万人)

■「スマート回廊」年間体験者数:延べ8,000人(一)

(具体的な事業)・とくしまデジタルアート推進事業(H26.2月補正)

- ・とくしまマラソン支援事業(H27当初、H28当初)
- ・とくしまアニメジャック事業 (H27当初、H27.6月補正、H28当初)
- ・「vs東京」実践事業(H27.6月補正)
- ・vs東京とくしまにぎわい戦略事業 (H27.6月補正、H28当初)
- ・「阿波おどり大絵巻2015"秋"」開催事業(H27.6月補正)
- ・「地方創生」に向けた海外展開事業(H27.6月補正)
- ・あわ文化未来展望事業(H27当初、H27.6月補正)
- ・「vs東京」実践事業 SECOND STAGE (H27.2月補正)
- ・秋の阿波おどりステップアップ事業(H27.2月補正)
- ・「マチ★アソビ」海外情報発信事業(H27.2月補正)
- ・とくしまマラソン・ランナーズパラダイス事業(H28当初)
- ・スマート回廊地域創造事業(H28当初)
- ・「とくしま"歓喜の歌"プロジェクト」推進事業(H28当初)

(ウ) 地域産業の飛躍を支える人づくり

①次代を支え未来を拓く産業人材の育成

・ 科学技術の未来を切り拓く人材を育成するため、平成28年度に県内外の大学生等が、 県内の高校生と一緒に学び、科学の素養を磨く、「科学技術アカデミー(仮称)」 を創設するとともに、県内の小中学生へ体験型の科学の出前講座などを実施する 「体験型講座『科学技術 Jr.アカデミー(仮称)』」を開講する。

また、自然エネルギーや先端技術・科学、アートを体験する「スマート回廊」 を創設し、小中学生の技術者・研究者に対する夢や志を育む。

- ・ 地域社会の未来を創る人材を育成し、地域の資源や強みを活かした新たな産業を創出するため、高校・大学・企業が一体化した「未来創生キャンパス(仮称)」を設置する。
- ・ グローバルな視点から地域の課題解決に取り組む「地域グローカル人材」を 育成するため、県内の経済団体、企業及び高等教育機関と連携して、県内就職を 希望する大学生等の留学を支援する。

- ・ 高等学校段階からの産業人材の育成を図るための「先駆的モデル」として、 県立那賀高校へ「森林クリエイト科」を設置するとともに、高等学校における 職業教育の「新たなキャリアパス」の確立に取り組む。
- ・ 県南の中心漁業である採貝漁業の担い手育成に向け、県内高校生を対象に漁協 による講習会を開催する。
- ・ NPO法人や民間企業等も活用し、「情報通信関連産業人材」、「介護関連産業人材」、「クリエイティブ人材」等の育成、確保に向けた職業訓練などを行うとともに、コールセンターの集積促進に伴う人材ニーズに対応するため、大学生や高校生を対象にした「コールセンター見学会」を本格実施する。

- ■「科学技術アカデミー(仮称)」の創設:H28創設(-)
- ■県内大学生への留学支援人数(5か年の累計):100人(一)
- ■民間を活用した訓練受講者の就職率:80%(H21~H25の平均率74%)

(具体的な事業)・即戦力林業従事者育成事業(H26.2月補正)

- ・情報通信関連産業人材育成事業(H26.2月補正)
- ・産業人材育成プログラム事業(H27当初、H28当初)
- ・地域グローカル人材育成事業(H27当初、H28当初)
- ・とくしま科学技術アカデミー開講事業(H27.2月補正)
- ・テクノスクール・デュアル訓練事業(H27.2月補正)
- ・スマート回廊地域創造事業(H28当初)

②地域を支える産業人材の育成

- ・ 高い「技能」を身につけた産業人材の育成を図るため、ドイツ・ニーダーザクセン州 の職業訓練センターと交流し、ドイツにおける「マイスター制度」のエッセンス を取り入れた「徳島版マイスター制度」を創設する。
- ・ 実践的なICT人材の育成や地場ICT産業の持続的な発展、徳島を拠点とした ワーキングスタイルの確立につなげるため、県内最大のデジタルコンテンツ表彰を 行う「ICT(愛して)とくしま大賞」や徳島の強みを活かした効果的なICT イベントを実施する。
- ・ 高齢化の進行に伴い、今後必要となる介護サービスの提供体制を整えるため、 介護職員等福祉分野における雇用の創出を行う。
- ・ 建設産業の担い手確保・育成に向け、建設産業の魅力発信を行うとともに、 若年者や女性雇用の取組みを拡充することにより建設業への入職の促進を図る。 また、就業者の定着を図るため、技術者等のための研修や経営基盤強化のための セミナー等を開催する。

- ■「徳島版マイスター制度」の創設: H30創設(-)
- ■テクノスクール3校体制における 訓練生の資格取得者数(5か年の累計):10,000人(1,760人)
- I C T (愛して) とくしま大賞応募作品の 利活用件数 (5か年の累計): 75件 (一)
- ■介護保険サービス事業所(居宅)従事者数:11,300人(8,797人)

(具体的な事業)・ICT(愛して)とくしまプロジェクト推進事業

(H26.2月補正)

- ・もっとICT(愛して)とくしまプロジェクト推進事業 (H27当初)
- ・建設産業魅力発信・担い手育成支援事業(H27.6月補正)
- ・徳島版マイスター制度創設事業(H27.6月補正、H27.2月補正)
- ・地域創生人材育成事業(H27.9月補正、H28当初)
- ・ものづくり人材育成強化事業(H27.2月補正、H28当初)
- ・建設産業「未来発信!」事業(H27.2月補正)

※各KPIにおけるカッコ内の数値は、特に記載がない場合は平成25年度の数値

	具体的な施策	KPI
	【目標】2020年までに、転入転出者数を均衡((社会増減0)
【基本目標1】	(ア) 住みたい・働きたい「とくしま回帰」の加速	
	①移住交流の推進	■移住者数:850人(80人)
		■とくしま農林漁家民宿数(5か年の累計):42軒(30軒)
		■デュアルスクールのモデル化: H30試行(一)
		■移住希望者に対する「新たな雇用枠」の創設: H28創設(一)
	②多様な人材環流	■とくしまジョブステーション等を活用した就職率:40.0%(35.1%)
		■プロフェッショナル人材の正規雇用数(5か年の累計):25人(一)
	③農林水産業にチャレンジする新規就業者の拡大	■農林水産業新規就業者数(5か年の累計):1,150人(149人)
		■中核的農林漁業者数(5か年の累計):635人(196人)
新		■農業系大学生等によるインターンシップ参加者数(5か年の累計):650人(106人)
しい	(イ)「とくしま回帰」を呼び込む拠点機能の強化	
人の海	①企業の本社機能の誘致	■「成長分野」関連企業の本社機能誘致数:5社(一)
流れで	②政府関係機関の地方移転に挑戦	■政府関係機関の本県への誘致: H27提案
ブくい	③サテライトオフィスのさらなる展開	■集落再生につながる取組みの 創出事例数(5か年の累計): 22事例(一)
5		■サテライトオフィス進出地域の拡大:8市町村(4市町)
		■とくしま新未来「創造」オフィスとの連携団体数:40団体(-)
	(ウ) 若者の「とくしま回帰」を生み出す大学等の活性化	
	①大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	■大学サテライトオフィス設置箇所数:12箇所(3箇所)
		■「地域連携フィールドワーク講座」延べ参加者数:500人(一)
	②若者の地元定着促進	■県内大学生等の県内就職率:50.0%以上(44.5%)
		■ 就職支援協定締結大学と連携したインターンシップの促進:H30全大学で実施

	具体的な施策	KPI
	【目標】総合戦略による雇用創出数 5年間で4,000人	
	(ア) 地域産業の未来に向けた競争力の強化	
	①「2つの光+α」がリードする地域イノベーションの加速	■クリエイティブ関連企業数:260社(者)(161社(者))
		■「成長分野」関連企業の奨励指定における立地数:26社(13社)
		■情報通信関連企業(コールセンター、データセンター等)の集積数:40事業所(18事業所)
		■生活支援ロボットの市場投入: H30投入
		■ L E D新製品開発支援件数(累計):105件(52件)
	②企業の成長ステージに応じた切れ目のない支援	■県がサポートする県外・海外商談会及びフェアにおける 成約・売上額:4.8億円(2.2億円)
1		■輸出額・輸出企業数:175億円・133社(150億円・95社)
基本	③もうかる農林水産業の推進	■新技術開発に向けた県内大学等との共同研究数:10件(2件)
目標		■構造改革を実施した園芸産地における生産額:110億円(10億円)
2		■「農地中間管理機構」等を活用した農地集積面積(累計): 2,500ha(一)
地域		■県産米輸出数量:75トン(34トン)
にお		■「阿波尾鶏」出荷羽数:300万羽(195万羽)
ける		■「阿波とん豚」出荷頭数:1,500頭(61頭)
仕事		■水産物出荷・流通体制施設等の整備:11施設(5施設)
づく		■農業用アシストスーツの現場への導入数(5か年の累計):20台(一)
り		■県産材の生産量:45万㎡ (29万㎡)
	④ 6 次産業化・とくしまブランド海外展開の推進	■農工商連携等による 6次産業化商品開発事業数(5か年の累計):350件(135件)
		■県立高校「6次産業化専門学科」の設置:H29設置
		■農林水産物等輸出金額:14.0億円(2.4億円)
		■「とくしまブランド」輸出相手先国・地域数:22か国(9か国)
		■「阿波地美栄」取扱店舗数(累計):23店舗(5店舗)
		■ 県産材の海外輸出量:11,000㎡(1,760㎡)
		■県産木造住宅の輸出棟数(5か年の累計):60棟(一)
		■ 6 次産業化商品プロデュース数(5 か年の累計):13件(一)

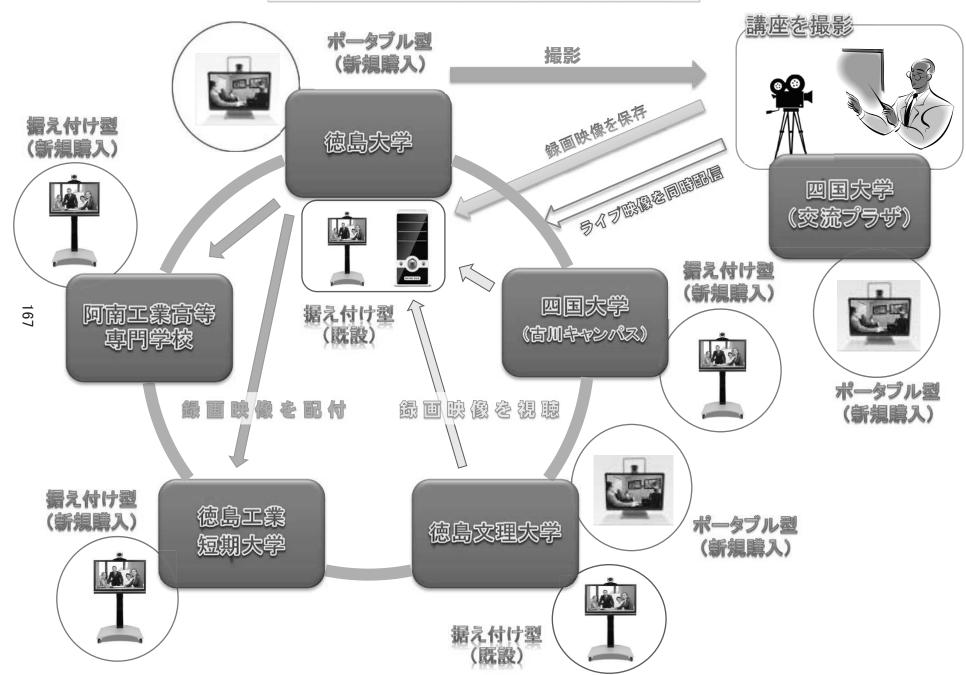
	具体的な施策	KPI
【基本目標2】地域における仕事づく	(イ)戦略的な観光誘客の推進	
	①「訪日外国人2000万人時代」に向けた取組み	■年間の延べ宿泊者数:310万人(226万人)
		■県内への外国人延べ宿泊者数:9万人(32,310人)
		■「四国八十八箇所霊場と遍路道」の 国の世界遺産暫定一覧表への記載: H28記載
		■関西での外国人延べ宿泊者数: 2,000万人 (793万人)
		■瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合:50.0%(27.9%)
		■瀬戸内7県の外国人延べ宿泊数:360万人(120万人)
		■四国4県の外国人延べ宿泊者数:66万人(22万人)
	②「ひと」が集う大規模イベントの拡大	■「とくしまマラソン」エントリー数:2万人(1万人)
		■「マチ★アソビ」年間参加者数:17万人(11.3万人)
		■「スマート回廊」年間体験者数:延べ8,000人(一)
	(ウ)地域産業の飛躍を支える人づくり	
	①次代を支え未来を拓く産業人材の育成	■「科学技術アカデミー(仮称)」の創設:H28創設(一)
り		■県内大学生への留学支援人数(5か年の累計):100人(一)
		■民間を活用した訓練受講者の就職率:80%(H21~H25の平均率74%)
	②地域を支える産業人材の育成	■「徳島版マイスター制度」の創設: H30創設(一)
		■テクノスクール3校体制における
		訓練生の資格取得者数(5か年の累計):10,000人(1,760人) ■ I C T (愛して) とくしま大賞応募作品の
		利活用件数 (5か年の累計): 75件 (一)
		■介護保険サービス事業所(居宅)従事者数:11,300人(8,797人)

徳島は宣言する

徳島県 政策創造部 地方創生局 地方創生推進課〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 【電話】088-621-2361【ファクシミリ】088-621-2829 【URL】http://www.pref.tokushima.jp/docs/2015013000013/

協働事業

eラーニングシステム概要図



関連調査

徳島大学におけるインターンシップの実態調査報告

徳島大学地域創生課 COC プラス推進本部

▼目的

インターンシップ制度はCOCプラス事業の1つの柱となるものである。今後はインターンシップ制度を単なる職業見学・職業体験に留めず、学生の就職や、若者を活用した新規事業の開拓等、意義有る制度にすることが求められる。産学官が協働し企業・学生双方にとって意義ある制度にするために、現在の徳島大学のインターンシップの現状を調査しまとめた。

▼学生

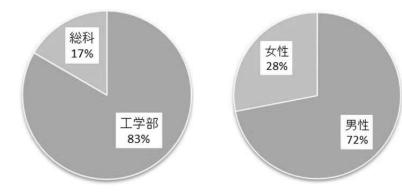
本資料は「平成26年度 徳島大学『短期インターンシップ』授業に関する学生・企業アンケートおよび 『短期インターンシップ事後報告会』学生・企業アンケート」とインターンシップ経験者である学生8名への インタビュー調査を元に作成し、学生がインターンシップをどのようなものとして捉えているのかを調べた。

1.アンケート対象者

	履修者(人)	有効回答数(人)
総合科学部	59	48
工学部	323	241
合計	382	289

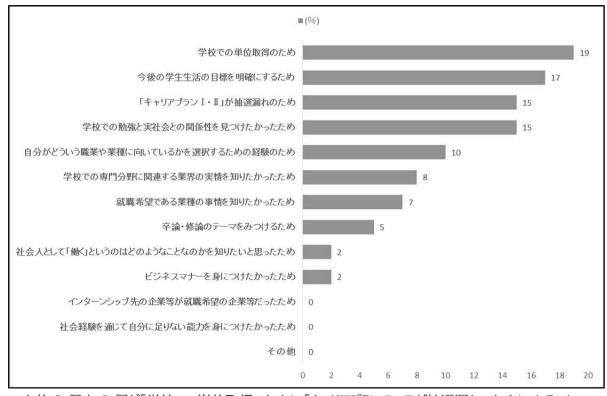
あなたの所属を答えてください	(%)
工学部	83
総合科学部	17

履修者(男女比)	(人)	(%)
男性	272	72
女性	106	28



2.「短期インターンシップ」を受講した理由

短期インターンシップの授業を受講した理由は何ですか(3個以内)	(%)
学校での単位取得のため	19
今後の学生生活の目標を明確にするため	17
「キャリアプランⅠ・Ⅱ」が抽選漏れのため	15
学校での勉強と実社会との関係性を見つけたかったため	15
自分がどういう職業や業種に向いているかを選択するための経験のため	10
学校での専門分野に関連する業界の実情を知りたかったため	8
就職希望である業種の事情を知りたかったため	7
卒論・修論のテーマをみつけるため	5
社会人として「働く」というのはどのようなことなのかを知りたいと思ったため	2
ビジネスマナーを身につけたかったため	2
インターンシップ先の企業等が就職希望の企業等だったため	0
社会経験を通じて自分に足りない能力を身につけたかったため	0
その他	0



上位 3 個中 2 個が「学校での単位取得のため」、「キャリアプラン I・II が抽選漏れのため」であることから、単位取得を目的として受講している学生が多いことが分かる。しかし、単位取得が目的の一つであることはインターンシップの充実度とはあまり関連がないようである。

学生にインタビューを行った結果、授業、自由応募を問わず意欲的にインターンシップに参加した学生は、インターンシップ後にその経験を就活に活かしたり、就活の方向性を定めたりすることができていた。一方で単位取得を唯一の目的とした学生に関しては、一時的にインターンシップ先の企業や業界に興味が湧くことはあっても、就活に向けての具体的な変化が見られない場合が多かった。以下、その理由を3つ述べる。

① インターンシップに対する学生の目的意識が低い

単位取得が唯一の目的になってしまうと、インターンシップを「自分のこと」として捉えられない傾向がある。つまり、インターンシップが学生自身の就活、将来と地続きでつながっているという意識が希薄であると考えられる。

② 学業との両立が困難である

インタビューの結果、インターンシップの多くが夏に行われることから学会と重なってしまい、学会を優先する学生が多いことが分かった。また、学生がインターンシップや就職活動によって授業を欠席することに対して理解を示す教授とそうではない教授がいることも判明した。学生は自分が所属する研究室と教授によって参加できるインターンシップや就職活動が限られてしまうというのが現状である。

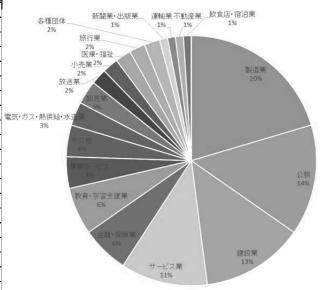
③ 受け入れ企業での実習内容

あらかじめ実習計画が知らされなかったり、雑務をこなすだけだったり、その企業の業種とは関係の無い実習内容である場合、学生は離れがちである。

これからの課題としては、学生の意識改革、大学(研究室・教授)の理解と協力を得ること、インターンシップの社会的な位置づけについて受け入れ企業等・大学・インターン生(学生)との間で共通認識を持つこと等が挙げられる。

3.インターンシップ先の業種

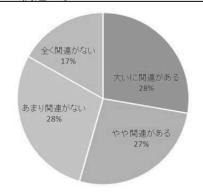
該当する業種を1つ選んでください	(%)
製造業	20
公務	14
建設業	13
サービス業	11
金融•保険業	6
教育•学習支援業	6
情報サービス	4
その他	4
電気・ガス・熱供給・水道業	3
卸売業	3
放送業	2
小売業	2
医療・福祉	2
旅行業	2
各種団体	2
新聞業・出版業	1
運輸業	1
不動産業	1
飲食店•宿泊業	1
通信業	0



インターンシップ先としては製造業、公務、建設業が多い。インタビューの結果、自分の専攻を活かしたいという学生もいれば、見識を広げるためにさまざまな業種のインターンシップに参加したいという学生もいた。

4.インターンシップ先の企業等の業務内容と学生の大学での専攻との関係

インターンシップ先の企業等の業務内容や今回の実習内容は、 あなたの大学での専攻と関係がありますか。	(%)
大いに関連がある	28
やや関連がある	27
あまり関連がない	29
全く関連がない	17

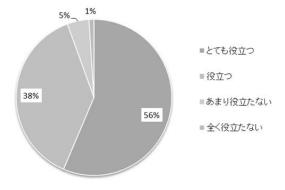


インターンシップ先の企業等の業務内容と学生の大学での専攻との関係については、「大いに関連がある」、「やや関連がある」を合わせると 55%であり、「あまり関連が無い」、「全く関連がない」を合わせると 45%である。

インタビューの結果、専攻を活かしたインターンシップに参加したいと考える学生もいれば、視野を広げる ために専攻とは関係なく自分の関心のある業種のインターンシップに参加したいという学生もいた。インター ンシップに求めることは学生ひとりひとりによって全く異なるということが分かった。

5.インターンシップ経験が将来設計やキャリア設計に役立つかどうか

今回のインターンシップ経験は、将来設計やキャリア設計に役立つと思いますか。	
あてはまるものを選んでください。	(%)
とても役立つ	56
役立つ	38
あまり役立たない	4
全く役立たない	1



「とても役立つ」、「役立つ」を合わせて 94%の学生がインターンシップ経験は将来に役立つと回答して いる。インターンシップに対する期待は全体的に非常に高いことがわかる。

6.学生の考える理想のインターンシップとは

ここでは「学生にとって理想的なインターンシップとはどういうものだと思いますか」というインタビューに対する学生の回答を掲載する。

前段階

- ·学業に影響が少なく、参加しやすい長期のもの
- ·堅い雰囲気でなく、気軽に参加できるもの
- ·参加者選考が無く、幅広い人数を受け入れてくれるもの
- 単位ではなく、就職のためのインターンシップ
- ·大学で学んでいることが社会でどれだけ通用するのか知りたい
- 大学で学べないことも知りたい

仕事理解型

- ·知識、考え方など学びがあるもの
- ・短期間で仕事の内容を理解できるもの

採用直結型

・該当なし

業務補助型

- ・実験の現場を見学したい
- ・本当の意味での就業体験

課題協働型

・たとえ単位のためでも興味のある所に入ってその能力を増やすもの

事業参画型

- ・職員にも学生にも実のあるインターンシップ
- ·インターンシップ用のプログラムではなく、職員と一緒に実際に企業が抱える問題などに 取り組める
- ·学生、客扱いでなくインターンシップ生として職員と同じように接してくれるもの (ただし職員並みの責任はとれない)

その他

- ・リスク無く身になる経験が積める(中学生の職業体験のような気軽なイメージ)
- ·いろいろな人と話すことができる
- ・授業で参加すると「自分が粗相をすれば次の代の学生たちがインターンシップに参加できなくなる」というプレッシャーがあるので、こうした余計な焦りを感じずに済むのが理想
- ・採用直結型のインターンシップに違和感がある(「顔を売らなければ」、「人脈を作らなければ」というような余計な気遣いに気をとられてインターンシップそのものに集中できない)ので、のびのびとその企業について学び、体験できるもの

7.まとめ

「短期インターンシップ」において、インターンシップ参加が単位取得に結びつくことでインターンシップ参加者が増えたことは事実であるようだが、単位取得を唯一の目的としてしまった学生はインターンシップが学生自身の就活、将来と地続きでつながっているという意識が希薄なようである。一方、インターンシップを自分の就活、将来に役立てようという目的意識がはっきりしている学生は「短期インターンシップ」を有効に使い、加えて自由応募のインターンシップにも参加している傾向にある。しかし、インターンシップ先で学生が望んでいるような経験をさせてもらえないこともしばしばあるようだ。さらに、研究室や教授によってインターンシップや就職活動に対する理解や協力が得られない場合もある。

学生の考える理想のインターンシップとは、自分が将来職員としてその企業等で働くことをリスク無くシミュレーションできるものである。インタビュー対象者全員が現場の見学や実務を望んでいることがそれを裏付けていると言える。以上のことから、これからの課題としては、学生の意識改革、大学(研究室・教授)の理解と協力を得ること、インターンシップの社会的な位置づけを企業及び関係者、団体にとって有効性の高いものにしていくこと等が挙げられる。

▼企業

◇調査概要·資料

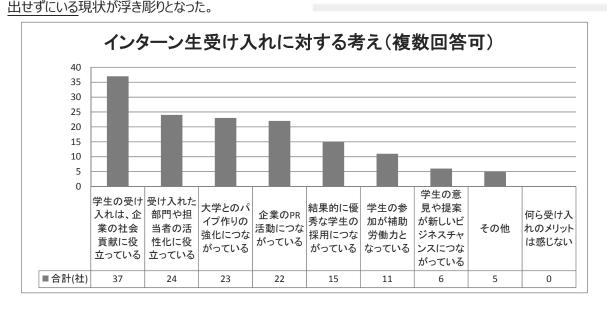
- ①『平成 26 年度短期インターンシップアンケート』 授業受講者並びにインターンシップ生受入企業に対し行ったアンケート調査。 学生有効回答数 289。企業有効回答数 61。
- ②『平成 25 年度「短期」インターンシップ報告書』 授業受講者がインターンのプログラム内容や参加しての感想をまとめたレポートを綴った報告書。
- ③「平成 27 年度徳島大学学外研修評価表」
- ④インターンシップ受講生に対するインタビュー形式の聞き取り調査。 (H28.2/8~2/15、8名)

1.インターン生受け入れのメリット

インターンシップ制度の企業側の利点としては、企業・業界広報、採用機会、若者を活用した事業推進や新規事業の推進、社内活性化等が挙げられる。(右図参照)

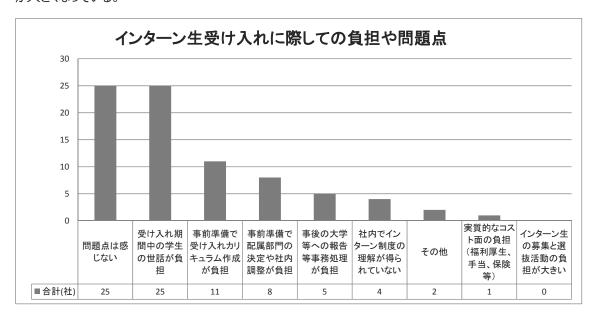
しかし実情は 62%の企業が学生の受入を 社会貢献活動として捉えており、社内活性化、 企業 PR と考えている企業は約 40%、学生の 採用や新規事業推進に至ってはそれぞれ 25%、10%と低い数値を示した。企業側がイ ンターンシップ制度に実効性の上でメリットを見

	美践型インク	ターンシップ	の"スタイル
	特徴	学生の教育効果	企業のメリット
仕事理解型	1~2週間程度の職場・業務体験が中心。最後にレポートやプレゼンによる 報告を実施することが多い。	自己の適性・志向 の理解	企業・業界広報
採用直結型	実際に一緒に働いてみてお互いを見極める採用活動の一環。外資系企業や大手ベンチャー企業などで実施。	働くこと・業界 の理解	採用マッチング
業務補助型	普通のアルバイトでは経験できない ような企業の業務に取り組む。期間 は1か月以上の長期が多い。	社会人基礎力	若者を活用した 業務の推進
課題協働型	会社と大学を行ったり来たりして課 題発見や企画立案に取り組む。グルー ブワーク形式が多い。	社会人基礎カ + 学びの実践	若者の発想の活用 社内活性化など
事業參画型	企業の新規事業や変革プロジェクトの 一員として業務に取り組む。期間は1か月 から長いものだと半年間の長期が多い。	社会人基礎カーナリーダーシップ	若者を活用した 新規事業などの推送



2.インターン生受け入れのデメリット

特に問題は感じないという企業がある一方で、学生受け入れ期間中の担当部門や担当者への負担が大きいと感じている企業も半数近くにのぼる。受け入れ準備段階においても、担当部門の選定やカリキュラム作成、学生・大学との連絡等、通常業務とは異なる業務が上乗せされることにより、企業側の負担が大きくなっている。

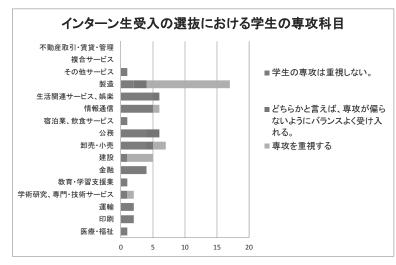


3 企業と学生のマッチング阻害要因

特に製造業、建設業、学術研究・専門技術サービス業では大学での専攻を重視しており、自業界に関する知識を有する学生を望む傾向が伺える。しかし、先の『学生アンケート結果』でも触れたように、工学部系の学生の多くが製造業と共に公務へのインターンも志望しており、製造業のインターンシップに参加した者は20%、公務のインターンシップに参加した者は製造業に次いで多い14%にのぼった。専門性の高い学生が公務へと流れてしまっている傾向が伺えるが、学生が自専門とは別に公務を志望するには

如何な事由があるのだろうか。

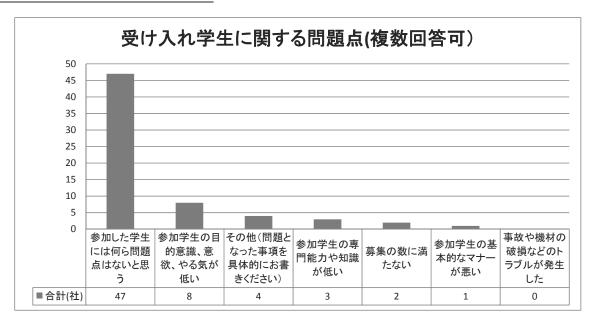
該当学生 2 名にインタビューを行ったところ、『自分の専攻や将来の夢から公務を希望した』との意見があった一方で、『自らの専攻分野に通じる受け入れ企業自体が少なく、さらに遠方へは交通手段が限られており連日の参加が難しかった為、公務のイン



ターンに参加した』との声もあった。専門とリンクした企業への意識はあるものの、上記のような理由から、「安定」のイメージのある公務への参加に流れているようである。

学生の生活圏からの距離、交通や宿泊などの便の良さ・悪さがインターン先を選択する際の一因となっている為、そういった面での何らかの支援が必要であろう。さらに、<u>専攻とリンクした受け入れ企業の新規開拓、学生の間で知名度の低い B to B 企業等の紹介・PR や学生自身の企業研究を推進することが</u>課題といえる。

4. 受け入れた学生に関する問題点



78%の企業からは学生に問題はなしとの回答を得たが、参加学生の目的意識、意欲が低い点や専門能力や知識が低いため十分な研修とならなかったとの回答も得られた。インターンシップ後に企業から提出される"評価表"においても、「より積極的に質問を行ったり関わったりしてほしい」、「こちらからの問いには答えが返ってくるが、本人側からの報告や相談がない」、「自身の成長の為にも、もっと好奇心をもって初めてのことにも取り組んでほしい」

	課題(宿題)への取り組みが不十分
	ネットサーフィンをしていた
職務	指示していた仕事ができても「できました」の報告がない
	質問がない(少ない)
	積極性がない
	挨拶がない(声が小さい)
	インターンシップ生同士の私語
マナー	説明中・休憩中(お客様から見える所だった)の居眠り
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	寝坊で遅刻(例年3~4件発生)
	当日になって無断欠勤
	直前になって「用事があるので日程・時間を変更してほしい」と企業に交渉
破損·紛失	器物損壊(マウス、ウェルカムボード、試験管)
1収損・初大	企業から貸与された名札を紛失
要望	本当に興味がある学生に来てほしい(単位のためにきていることが態度でわかる)
女業	大学の教職員に見に来てほしい(他の大学・学校はきている)

といった担当者からのコメントが見られた。

また、過去を含めその他問題となった事項としては上の表のようなものが挙げられる。なお、インターンシップ期間中の器物損壊や事故等に関する保険としては、工学部学生に関しては入学時に"学生教育研究災害傷害保険"に加入しており、総合科学部生に関してもキャリア支援課を通してインターンシップに

申し込んでいる学生は大学生協が提供している"学生賠償責任保険"に加入することになっている。しか し、大学を通さず自由応募で参加する一部学生に関しては学生の意思に任されている為、企業側が安 心して学生を受け入れられる為にもこういった学生に対し保険加入の周知徹底を行っていく必要がある。

上記のような現状から、保険関係やインターンシップ中の取り組み姿勢、最低限のマナー等、企業に 送り出す前の"事前教育"を大学側が行う必要性も出てきた。しかし、学生インタビューによると、インター ン参加前の授業において、「『インターン先での粗相は来年参加する学生に影響が出る為、インターン先 では迷惑をおかけしないように』と注意されたことから、とにかく失敗だけはしないようにしなければと受け身 になってしまった」との声も聞かれた。事前教育の内容にも留意しなければ、学生を必要以上に萎縮させ、 企業が求める"積極性"、"主体性"を持って取り組めない可能性がある。学生が目的意識を持って、主 体的にインターンシップに取り組めるような事前教育が求められている。

5. インターンシップ実施企業 プログラム一例

インターンシップを行ったことで実際に学生の採用や新しいビジネスチャンスにつながった企業をピックアッ プレ、その研修内容等をまとめた。

なお、企業のピックアップには、H26.インターンシップアンケート調査から、インターンシップ生受け入れに 関し、『優秀な学生の採用につながっている』、『学生の提案や意見から新しいビジネスチャンスにつながっ ている』と回答した企業を選んだ。

事例-①

日本航空 徳島支店

	企業概要・企業理念説明
1日目	セールス業務(外回り営業)についての説明会
	アンケート集計についての説明会
2日目	旅行プラン説明会(売り込み)に参加
	空港運営業務…整備業務体験、スタッフブリーフィングに参加
3日目	日本航空営業業務…企業アンケート集計・分析・発表
	(今後の営業方針決定の資料として客層別需要の分析を行い発表)
4日目	空港運営業務体験…ターミナル施設見学、機側作業見学、
	旅客業務研修

5日目 日本航空営業業務…旅行代理店への外回り営業同行

期間:8/24~8/28 5日間

●学生コメント

機械の設計や製造・整備関連のエンジニ営業は転勤者も行っており、必ずしも県 アを目指しているので本物の旅客機のエ 内出身者ではない。 地元とつながりの深 ンジンやセンサーなどが見られて大変意義い学生に来てもらえることは地元情報を のあるものだった。

営業の基礎は人間関係にあり、話術とコ ミュニケーション能力の重要性を感じた。

●企業コメント

得られる上でも大きなメリット。

日本航空徳島支店では、企業説明や 施設内見学の他、外回り営業に同行す る実務研修も行っている。また、今後の営 業戦略資料として実際の企業アンケート を集計・分析し、その結果の発表会も行っ た。

学生側は業界理解や働くことへの理解 が進み、企業側は優秀な学生の発掘や、 学生の発表から今後の営業戦略のヒント を得る機会となったようである。

事例-②

株式会社ネオビエント(あすたむらんど徳島)

期間:8/1~8/31 期間中5日間程度

	企業概要·企業理念説明
1日目	最終日発表会の説明「あすたむらんどの改善案」
	マナー講座
	施設内見学
	実務研修(配属部署に分かれて実施)
2日目	①フロアでの接客業務
	②総務部での園内の点検・修理業務
3日目	午前:各配属部署での実務研修
200	午後:自習…最終日企画発表の準備
4日目	午前:各配属部署での実務研修
400	午後:自習…最終日企画発表の準備
	午前:各配属部署での実務研修
	午後:自習…最終日企画発表の準備
5日目	17時より最終企画発表会
	発表テーマ「子供たちのために体験工房ができること」
	「若年層のお客を集める為には?」 等

●学生コメント

朝夕の点検等を1人で任され、責任は感じたが会社の一員として働いていると実感した。 最終日の発表の為、工房体験に来た親子に アンケートをとるなど自分で考え調査した経験 は貴重だった。 ●企業コメント

職員の目では気づかなかった所まで細や かな視点で見ることができており、意見は 参考になった。一方で、受入担当者への 負担が今後の課題。 (株)ネオビエント(あすたむらんど徳島)では企業説明や施設内見学の他、各部署での実務業務を行っている。また、最終日には「あすたむらんどの改善案」というテーマでの発表があり、学生は5日間、各々課題を見つけ、時には来場者にアンケートをとるなどして案をまとめ、最終日に発表する。学生の自主性・積極性を意識したプログラム内容である。

企業側は学生視点の提案を受け、 よりよい施設運営に活かすことができる。

今後目指すところは、見学型・体験型インターンシップから企業学生双方にとって意義のある実践型インターンシップへの移行であるが、実際は実施期間も2~5日間程度のものが多く、今回取り上げた企業含め、実践型インターンシップを行っている企業の中でも"仕事理解型"のものがほとんどのようである。(下図参照)また、課題発見、改善案のプレゼンなど、実践型インターンシップに通ずるプログラム内容を実施してはいるものの、期間が短く十分な基礎知識や問題意識がないままに取り組むことになったり、改善案の提言だけ行い実際に問題解決にまで至らなかったりと、まだまだ"課題協働型"、"事業参画型"(下図参照)のような実践型インターンシップのスタイルが定着しているとはいえない現状が明らかとなった。

実践型インターンシップの"スタイル" 学生の教育効果 企業のメリット 1~2週間程度の職場·業務体験が中心。最後にレポートやプレゼンによる報告を実施することが多い。 自己の適性・志向 企業·業界広報 什事理解型 の理解 働くこと・業界 実際に一緒に働いてみてお互いを見 極める採用活動の一環。外資系企業 採用直結型 採用マッチング の理解 や大手ベンチャー企業などで実施。 普通のアルバイトでは経験できない ような企業の業務に取り組む。期間 は1か月以上の長期が多い。 若者を活用した 業務の推進 業務補助型 社会人基礎力 会社と大学を行ったり来たりして課 社会人基礎力 若者の発想の活用・ 課題協働型 題発見や企画立案に取り組む。グルー 社内活性化など 学びの実践 ブワーク形式が多い。 企業の新規事業や変革プロジェクトの 一員として業務に取り組む。期間は1か月 から長いものだと半年間の長期が多い。 社会人基礎力 若者を活用した 事業参画型 新規事業などの推進 リーダーシップ

6.まとめ

企業にはインターンシップを CSR の一環としてではなく人材

確保の機会やビジネスチャンスとして捉える概念は浸透しているとは言えず、また、インターンシップの活動 内容は受け入れ企業任せにしている現状があるため、職場見学や職場体験程度で終わっているものも 見受けられる。また、インターンシップに意欲的な企業においても、"仕事理解型"の実践型インターンシップに留まっているのが現状である。

企業負担を減らし、インターンシップの内容をより実践的で意義有るものにするため、"採用直結型"、" 業務補助型"、"課題協働型"、"事業参画型"の実践型インターンシップのモデルカリキュラムの作成やプロトタイプとなる企業の支援、産学官同士の情報共有を密に行っていく必要があるだろう。

『学生の世話をする』という意識から<u>『学生と仕事をする』という意識変革</u>が必要であり、学生においても仕事に対する意識変革が求められる。

企業にとってインターンシップが意義あるものであるという構図を作り出し、意識変革を求めていくことが企業、大学、ひいては地方にとっても留意すべき今後の課題と言えるのではないだろうか。

▼総括

最後に、本調査で明らかになったことを総括する。

学生

【問題】

- ① インターンシップに対する目的意識の低さ
- ② 学業との両立が困難であること
- ③ 受け入れ企業等で学生が望んでいるような内容のインターンシップが行われていないこと

【原因】

- ① 単位取得が唯一の目的になってしまい、インターンシップが学生自身の就活、将来と地続きでつながっているという意識が希薄であること
- ② ・時期的にインターンシップと学会が重なってしまうこと ・インターンシップや就職活動によって授業を欠席することに対して、教授の理解が得られないこと
- ③ あらかじめ実習計画が知らされなかったり、雑務をこなすだけだったり、その企業の業種とは関係の無い実習内容である場合があること

【今後の取り組み】

- ① 学生の意識改革、大学での事前教育
- ② 大学(研究室・教授)の理解と協力を得ること
- ③ インターンシップの社会的な位置づけを企業及び関係者、団体にとって有効性の高いものにしていくこと

企業

【問題】

- ① インターンシップを CSR の一環として捉えている企業が多いこと。
- ② プログラム作成や受入れ期間中の学生対応が企業の負担になっていること。
- ③ 受入れ意思があっても大学からの距離・交通手段・宿泊費等の事由から学生の応募がない企業があること。
- ④ 見学、体験に留まり、実践型インターンシップが定着していないこと。

【原因】

① 受入れノウハウがない、蓄積していないこと。

- ② 企業の内部・外部とわず、インターン生受入れ専門の担当や機関がないこと。
- ③ 宿泊施設や送迎・交通費の支援システムが整っていないこと。さらに、阻害要因を上回る魅力あるプログラム・コーディネートができていないこと。
- ④ 受入ノウハウがなく、企業負担が大きい現状ではインターンシップへの理解が得られていないこと。 【今後の取り組み】

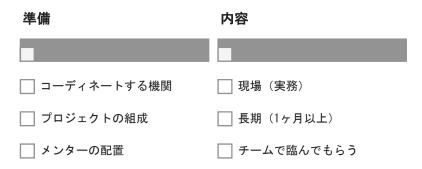
企業負担を減らし、実践型インターンシップが企業にとっても意義あるものであるという構図を作り出す 為、

- ① "採用直結型"、"業務補助型"、"課題協働型"、"事業参画型"の実践型インターンシップのモデルプログラムを作成する。
- ② プロトタイプとなる企業の支援、産学官同士の情報共有を密に行っていく。
- ③ 企業のインターンシップを支援・コーディネートする機関をつくる。
- ④ 企業側の意識改革。

以上のことから、問題を解決するためには学生、大学(研究室・教授)、企業の三者に対してアプローチをしていく必要があることが分かる。そして、インターンシップの社会的な位置づけを企業及び関係者、団体にとって有効性の高いものにしていくことが重要である。

7.今後の展望

今後は下図を基本とし事業を進めていく。



これから作るインターンシップは、現場での実務に約1ヶ月間チームで臨んでもらう形式を考えている。その理由はインターンシップを単なる「体験」で終わらせるのではなく、培った力を「経験値」として昇華してもらうためである。そのためにインターンシップの内容をコーディネートする機関およびプロジェクトを組成していくチームの配置、インターンシップ実施期間中に学生を見守るメンターを配置する予定である。

	社名	人数	期間	インターン内容	学生コメント	企業コメント
次世代	西精工株式会社	1/6	8/24~8/28 5日間	マナー研修、現場実習・見学 検査・試験機器取扱いおよび品質管理 業務	職人技のすごさを感じた。大学の授業と 仕事内容のリンクに気づいた。企業の挨 拶(マナー)に対する意識の高さを感 じた。	
技術分野	阿波スピンドル	3/2	8/17~8/21 5日間	企業概要説明→商品説明→各部署の仕事内容説明・ 見学・実習。 (商品説明と工場見学により、取扱商品への基礎知識を 学ぶ。測定工具の説明と測定実習、スケッチにより実践。 加工や工程設計方法を学び商品の加工を行う。)	自分は工学部で、製造の現場を目的 に参加したが今まで知らなかった営業職 にも興味を持った。一箇所でな〈各部署 を回ることで会社全体の仕事が見えた。	
地域医療福祉分野	田岡病院	3/3	8/1~9/30 期間中5日間	医療事務・現場での実務及び見学 → (変更) 臨床心理士と対談、オペ現場見学、医療機器の仕組み、医療機器メーカーの方との対談+医療事務業務、マナー講習	医療事務のISだったが、参加者の参加 目的を聞き、実習内容を当日変更して くれた。事務業務の大変さと大切さが分 かったが、事務現場は本当に忙しそう で、自分は何もできなかった。	
地域づくり分野	藍の館	6/10	8/19~8/23 5日間	展示場、トイレ等の清掃 藍染体験→お客様への接客(藍染工程の 説明や工房内の誘導) 商品の箱詰め、商品袋づくり	仕事の厳しさと接客業の楽しさを実感し、就活の参考になった。/資料の魅力を如何に多くの人に伝えるか、どのような職業でも自分のする仕事にどのような意味を持たせるかが重要と気づいた。	若い人の挨拶や接客でお客様に 喜ばれた。海外のお客様に学生 が英語で積極的に対応しており、 助かった。
	日本航空 徳島支店	2/2	8/24~8/28 5日間	●空港運営業務(整備業務体験、航空業務体験 (ターミナル施設見学、機側作業見学、旅客業務研 修、座学)) ●日本航空営業業務(旅行プランの売り込み、アン ケート集計・分析・発表、外回り営業への同行)	機械の設計や製造・整備関連のエンジニアを目指しているので本物の旅客機のエンジンやセンサーなどが見れて大変意義のあるものだった。/営業の基礎は人間関係にあり、話術とコミュニケーション能力の重要性を感じた。	営業は転勤者が行っているので 必ずしも徳島出身者ではない。 地元とつながりの深い学生に来て もらえることは地元情報を得られる 上でも大きなメリット。
	株式会社ネポエント あすたむらんど徳島	1/2	8/1~8/31 期間中7日間	接客研修、オリエンテーション 若手社員と同じ業務を体験 最終日発表あり(『あすたむらんどへの提案・改 善案』)	朝夕の点検などを1人で任され、責任 は感じたが会社の一員として働いている と実感した。/最終日の提案の為、工 房体験に来た親子にアンケートをとるな ど自分で考え調査した経験は貴重だっ た。	職員の目では気づかなかった所まで細やかな視点でみることができており、意見は参考になった。

[※]実施期間、受入人数に関してはH27年度の実績。インターン内容、コメントはH25・H26実施分より抜粋。

アンケート回答企業一覧

1	アール・エスホーム株式会社
2	株式会社アイ・ディ・エス
	藍住町歴史館・藍の館
	阿南市役所
	株式会社阿波銀行
	阿波スピンドル株式会社
	あわわ
	市岡製菓株式会社
	株式会社インフォデックス
	上田青果株式会社
	(株)H.I.S
	株式会社エフェム徳島
	大久保産業株式会社
	(株)大塚製薬工場
	(株)近畿日本ツーリスト中国四国徳島支店
	三晃産業(株)
17	防衛賞自衛隊徳島地方協力本部
18	四国化工機株式会社
19	四国化成株式会社
20	四国計測工業(株)
	四国高速運輸株式会社
	四国放送株式会社
	四国八洲薬品株式会社
	ダイトー工業株式会社
25	高岡税理士事務所
	(株)高橋ふとん店
	月見が丘海浜公園
	テック情報株式会社
	株式会社寺内製作所
	東光株式会社
	株式会社十川ゴム徳島工場
	協業組合徳島印刷センター
	徳島ヴォルティス株式会社
	株式会社徳島銀行
	公益社団法人徳島県環境技術センター
	徳島県教育印刷株式会社
	徳島県国際交流協会
	徳島市消防局
39	徳島市役所
40	一般社団法人徳島新聞社
41	徳島信用金庫
42	徳島ターミナルビル株式会社
43	株式会社徳島大水魚市
	徳島地方法務局
	富田製薬株式会社
	鳴門市役所
	西精工(株)
	日亜化学工業株式会社
	日本航空(株)
	株式会社ネオビエント
	ノヴィル株式会社
	野村證券(株)徳島支店
	(株)秦商事
	(株) 条筒争 藤崎電機株式会社
	株式会社ホームケアべんり堂
	株式会社ホンダカーズ徳島
	港産業(株)
	山菱電機株式会社
	株式会社山本鉄工所
60	(株)ヨコタコーポレーション
	株式会社四電工徳島支店

参考

M A R C H , 2 0 1 6

徳島大学 インスティトゥーショナル・リサーチ室(IR室) IR REPORT NO.2

「地域教育と徳島県内就職との関連性に関する実態調査」の調査結果の概要

はじめに

本学を含む地方国立大学では地域貢献が重要な使命の1つとされています。地域貢献に関連し、本学は文部科学省の「平成27年度 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+事業)」に採択され、地元就職率を10ポイント増加させることを目標としています[1]。この目標を達成するための方策として、学生が地域に対して興味を持つための地域教育の充実化が1つの有効な方法と考えられます。しかし、過去の文献を調べる限り、「地域教育が地元就職を促進するのか」という点を明らかにす

こうした背景を踏まえて、IR室では平成27年度にとくしま政策研究センター委託調査研究事業(徳島県)による助成を受け、「県内就職を促進する効果的なカリキュラム・授業開発 —— 徳島大学を事例として」という研究を進めてまいりました。その一環として、「地域教育と徳島県内就職との関連性に関する実態調査」を実施いたしました。本調査は県内就職を促進する地域教育の内容を一定程度可視化することに寄与するものです。



本レポートでは、調査結果の概要について報告いたします。

る大規模な調査は行われていません。

インスティトゥーショナル・リサーチ室 助教 小山 治

調査概要

本調査の目的は、本学の学部と修士(博士前期)課程の最終学年生に対する質問紙調査によって、 どのような地域教育を受けた若者が徳島県内に就職するのかという問いを明らかにすることです。 地域教育としては、

- ①地域科目の受講経験(徳島県について学ぶ授業の受講経験),
- ②授業全般における地域学習経験(授業全般における徳島県に関する学習経験)

という2つの大項目(および各々の小項目)を設定しました。また、就職予定先の地域は、内定先の本社(本拠地)の所在地としました。

本調査は、本学の学部および修士(博士前期)課程のすべての最終学年生(学部4年生、修士課程2年生)を調査対象者とする自記式質問紙調査です。調査方法は、ゼミ・研究室経由の集合調査法、国家試験説明会における集合調査法を原則としました。調査時期は、平成27年10月下旬から同年11月中旬までです。

有効回収数は1,297名であり、実配布数を分母とした有効回収率は80.0%です。ほぼすべての部局で有効回収率が70%以上に達しました。調査対象者の学年に相当する在学者数を分母とした場合でも約70%もの学生から質問紙を回収できたことになります。

一般に、最終学年生に対する質問紙調査は実施自体が困難である場合が少なくありません。にもか

かわらず、本調査では多くの有効回収数、高い有効回収率を達成できました。本調査にご協力いただいた各部局の教職員の皆様には改めて深謝申し上げます。

本レポートでは、留学生以外の学生で、調査時点で内々定を獲得し、民間企業・官公庁・医療機関・学校等に就職予定の学生703名を分析対象とします(ただし、分析する質問項目に無回答がある場合、欠損値となるため、実際の分析対象がこの人数になるとは限りません)。

表1は、分析対象とした学生の基本的な特徴をまとめたものです。このほか、①地域科目の受講経験と②授業全般における地域学習経験は全体的に低い方に分布が偏っていました。

表1 分析対象の基本的な特徴

性別

所属学部,教育部

就職予定先の地域

男性	62.4%
女性	37.3%
無回答	0.3%

出身地(最も長期間に 渡って居住した地域)

徳島県内	35.1%
徳島県外	64.7%
無回答	0.1%

	総合科学部	12.5%	総合科学教育部	1.4%
		三学部 18.9%	医科学教育部	0.1%
	医学部		栄養生命科学教育部	0.9%
				保健科学教育部
	歯学部	2.3%	口腔科学教育部	0.1%
	薬学部	4.8%	薬科学教育部	2.0%
	工学部	25.2%	先端技術科学教育部	30.9%
	無回答	0.0%		

徳島県内	24.5%
徳島県外	74.3%
無回答	1.3%

注:小数点の丸めの 影響で合計が 100.0%にならない 箇所があります。

出身地と県内就職の関連

出身地別に県内就職者の割合を調べると、県内出身者242名のうち県内就職者は56.6%にも達しているのに対し、県外出身者452名のうち県内就職者は7.7%という結果となり、出身地は県内就職と強く関連していることが確認されました(0.1%水準有意)。

この結果から、以下では①地域科目の受講経験、②授業全般における地域学習経験と県内就職の関連を県内出身者と県外出身者に分けて分析します。

地域科目の受講経験と県内就職の関連

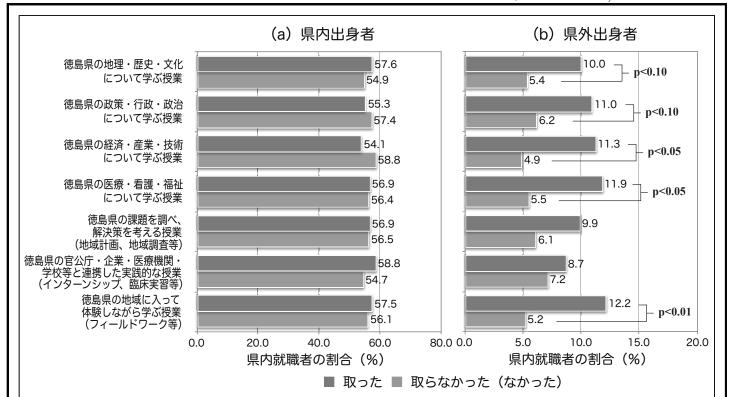
図1は、地域科目の受講経験と就職予定先の地域の関連をまとめたものです。図中の(a), (b) はそれぞれ分析対象を県内出身者、県外出身者としたものを表しています。

県内出身者では7項目の地域科目の授業経験それぞれについて、授業を「取った」と回答した者と「取らなかった(なかった)」と回答した者の間で県内就職者の割合にはほとんどポイント差がないことがわかります。

これに対し, 県外出身者では

- 「徳島県の経済・産業・技術について学ぶ授業」,
- 「徳島県の医療・看護・福祉について学ぶ授業」、
- 「徳島県の地域に入って体験しながら学ぶ授業(フィールドワーク等)」

それぞれについて、授業を「取った」と回答した者ほど、県内就職者の割合が $6\sim7$ ポイント程度高くなっています($1\sim5$ %水準有意)。前述したように、県外出身者の場合、県内就職者は8%弱しかいませんが、上述した地域科目の受講経験は、その値よりも県内就職者の割合を若干高めています。



地域科目の受講経験と就職予定先の地域の関連

授業全般における地域学習経験と県内就職の関連

図 1

図2は、授業全般における地域学習経験と就職予定先の地域の関連をまとめたものです。

県内出身者では、質問項目によって若干傾向が異なるものの、総じてみると、授業全般における地域学習経験に「あてはまる」と回答した者と「あてはまらない」と回答した者の間で県内就職者の割合はあまり変わりません。

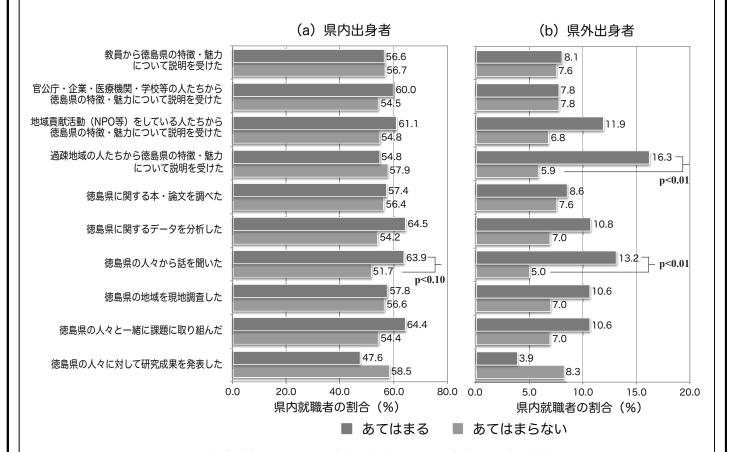


図2 授業全般における地域学習経験と就職予定先の地域の関連

これに対し、県外出身者では,

- 「過疎地域の人たちから徳島県の特徴・魅力について説明を受けた」
- 「徳島県の人々から話を聞いた」

者ほど、県内就職者の割合が高いことがわかります(それぞれ1%水準有意)。特に、「過疎地域の人たちから徳島県の特徴・魅力について説明を受けた」という質問項目に「あてはまる」と回答した者の県内就職者の割合は、それに「あてはまらない」と回答した者の県内就職者の割合よりも約10ポイント高くなっています。

おわりに

本レポートでは、とくしま政策研究センター委託調査研究事業による助成を受けて実施した「地域 教育と徳島県内就職との関連性に関する実態調査」の調査結果の概要について報告しました。

調査結果では、県内就職に対して出身地(徳島県出身であること)が強く関連していることが確認されました。一方、大学が入学後の学生に対して行う地域教育と県内就職の関連については、県内出身者に対しては関連性を確認できませんでした。しかし、県外出身者に対しては次の地域教育が県内就職者の割合を一定程度高めていることが確認できました。

① 地域科目の受講経験…

「徳島県の経済・産業・技術について学ぶ授業」、

「徳島県の医療・看護・福祉について学ぶ授業」,

「徳島県の地域に入って体験しながら学ぶ授業(フィールドワーク等)」

② 授業全般における地域学習経験…

「過疎地域の人たちから徳島県の特徴・魅力について説明を受けた」、

「徳島県の人々から話を聞いた」

今回の分析結果は、県外出身者においては、地域教育が県内就職を一定程度促進するという可能性を示唆しています。また、県内就職を促進するためにどのような地域教育を充実すべきなのかを本学のCOC+事業の運営等で検討していく際のヒントとなると考えられます。

本調査の詳細な分析結果については、2016年5月以降に「まなびーあ徳島」(徳島県立総合大学校)のウェブサイトで公開される予定です。なお、今後の追加的なデータクリーニングで本レポートにおける数値が若干変動する可能性があるという点にご留意ください。

今後は、学部、教育部等の違いを考慮した上で県内就職を促進する要因を実証的に明らかにしていく予定です。

参考文献

[1] 「『とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム』が文部科学省『平成27年度 地 (知) の拠点大学による地方 創生推進事業 (COC+) 』に採択されました」http://www.tokushima-u.ac.jp/docs/2015112000037/

IR Report No.2, 2016年3月発行, 徳島大学 インスティトゥーショナル・リサーチ室

E-mail: register@db.tokushima-u.ac.jp

http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/organization/276983/

外線 088-656-7693, 内線 (81)-7693

地(知)の拠点大学による地方創生事業 とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム 平成27年度事業報告書

編集・発行 とくしま元気印イノベーション人材育成協議会

問い合わせ先徳島大学COCプラス推進本部事務局

(徳島大学研究・社会連携部地域創生課内)

〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地

TEL 088-656-9910

FAX 088-656-9880

http://www.tokushima-u.ac.jp/coc-plus/

発 行 月 平成28年6月